

「府縣駐在官」若クハ「郡區駐在官」ニ渡シ置ク事

一 第四百四十八條「府縣駐在所」以下ノ充員名簿ハ到着日數ヲ記スヲ要セス各兵科各部及ヒ召集地（近衛兵ハ集合地）ニ分チ調製シ又其名簿中第一第二充員ノ區分ヲ爲シ置ク事後備軍召集名簿モ概子之ニ準シ調製スル事

但第二充員召集ニ應スヘキ者ノ人名ハ後備軍司令官又ハ「分營」所在地「府縣駐在所」ヨリ各「府縣駐在所」郡區駐在所「郡區役所」戸長役場ニ逋達スル事

一 第四百五十四條但書ノ各自身上ノ異動ヲ生シ戸長ヲ於テ召集令狀中訂正ヲ加フヘキモノハ飯休兵ヨリ豫備役ニ豫備役ヨリ後備役ニ移リ又ハ其所轄内ニ於テ轉居スル等ニシテ其他ハ「郡區駐在官」ニ於テ訂正スル事

但戸長ノ姓名ニ異動アルトキハ戸長ニ於テ紙片ヲ貼付シ訂正ヲ爲ス事

又「郡區駐在官」所轄外ノ地ニ轉居スル者ハ同官ヨリ新住地所轄ノ「郡區駐在官」ニ其令狀ヲ送致シ同官ニ於テ其訂正ヲ爲ス事

但他府縣ニ係ルトキハ「府縣駐在官」ニ差出シ同官ヨリ新住地「府縣駐在官」ヲ經テ同地ノ「郡區駐在官」ニ送付スル事

一 第四百五十五條ノ充員所要人員調査ノ後同條ニ掲グル諸項ニ異動ヲ生シタルトキ若クハ歸休兵等アルトキハ一ヶ月毎ニ充員名簿ニ訂正ヲ加フル事
但生兵卒業又ハ多數ノ歸休兵等アルトキハ其時々訂正ヲ加フル事
其異動ニ依リ召集人員ヲ増加スルトキハ第四百五十九條ノ例ニ據リ不應徵員計算

ニ基キ其人員ノ幾分ヲ加フル事

一 第四百五十八條但書ノ分營所在地ニ在テ補充隊人員定員ヨリ寡少ナルトキ入營延期ノ者又ハ補充員若クハ第一豫備徵員ヲ以テ填補スヘキ人員ハ後備軍司令部ニ於テ調査シ同地ノ「府縣駐在官」ニ達ヲ爲ス事

一 第四百五十九條ノ不應徵員見込ノ計算ヨリ寡少ニシテ第二充員ノトキ召集人員ニ過員ヲ生シタルトキハ之ヲ殘留セシメ若クハ歸郷セシムル等ハ時宜ニ由リ之ヲ定ムル事

一 同條ノ不應徵員ヲ計算スルニ方リ第十一様式其二欄外備考ニ依リ別ニ名簿ヲ調製スヘキ歸休兵ノ不應徵員見込ノ人員ハ豫備兵ヲ以テ之ニ充テ豫備兵充員名簿ニ加フル事

一 第四百六十條ノ「鎮臺」後備軍司令官ハ其軍管近衛兵人員ノ調査ヲ爲スト雖モ「營所」所在師管ニアルモノ、人員ハ營所後備軍司令官ニ於テ調査シ之ヲ「鎮臺」後備軍司令官ニ通知スル事

一 第一様式其一及ヒ其第二第五様式其一及ヒ其二姓名ノ肩書ハ飯休兵ニ在テハ歸休兵ト記シ其徵兵令第十二條ニ當ル歸休兵ハ何聯隊大隊歸休兵ト記ス事
一 第一様式其三及ヒ第五様式其二ノ官等姓名ハ職員ハ近衛ニ於テ之ヲ記シ兵員ハ「鎮臺」ニ於テ記ス事

二十年訓第九三號
參看

◎達甲第三十六號（明治二十年三月八日）

各郡町村

客年(十月)陸軍省令甲第三十九號陸軍召集條例第二十八條第二項軍用ノ旅舎ハ「戸長」ニ於テ至急之ヲ定メ標旗標燈ヲ調製セシメ(標旗標燈ハ別ニ官ヨリ給セサルヲ以テ旅舎所有ノ國旗又ハ高張若クハ提燈等ニ陸軍ノ徽章ヲ付着セシムヘシ)而シテ豫メ宿泊料ヲ規約シ置キ旅舎ノ屋號氏名等左ノ書式ノ通取調本月二十五日限リ郡役所へ届出テ同所ニ在テハ該書式ノ如ク表ヲ製シ本月三十一日限リ當廳へ差出シ亦旅舎ノ異動アルルハ其時々「戸長」ヨリ速ニ當廳へ届出ツヘシ
但宿舍料ハ壹人一泊三食(晝辨當トモ)金拾五錢ヲ上限トス

(書式)

郷員兵員凡ソ幾名 止宿ニ足ル	町村名及字 屋號	氏名	屋敷番號	宿舍料
凡ソ十八名	大洲町ノ内何町何丁 日何屋	何ノ誰	何千何百何十番 地	金拾五錢
同	同	同	同	同

凡例

數町村聯合ノ「戸長役場」ハ所屬町村ノ順序ニ依リ之ヲ記註シ亦數郡管轄スル郡役所ニ在テハ每郡別表ニ調製スルモノトス
○訓第九三號 (明治二十年七月十一日)

各郡役所

陸軍召集條例第二十八條第二項軍用旅舎本年(三月)達甲第三十六號達ニヨリ指定セシ旅舎ノ地名屋號氏名等所屬ノ警察署分署及「交番所」へ通知シ亦旅舎異動アルルハ其時々速ニ同署へ報告スヘシ
○内第八號 (明治二十一年二月九日)

召集令狀授受ノ義ニ付今般陸軍大臣ヨリ別紙ノ通内訓有之候條宜シク部下ヲ陶督シ該條例ヲ考究審按シ咄嗟處辨ノ際不都合ヲ醸生セサル様一層注意セラルヘシ
右内訓ス

各郡長宛

(別紙)

(陸軍省送達)送甲第一八八號

凡ソ有事ノ日ニ際シ全國若クハ一部ノ兵員ヲ召集シテ團隊ヲ編成シ或ハ之ヲ出戰セシメ或ハ地方ノ警備ニ充ツルハ其動作最機敏嚴肅ナラサルヘカラス其準備常ニ周到精確ナラサルヘカラス是ニ於テ去ル明治十九年陸軍召集條例ヲ制定シ陸軍諸官及地方官ノ各自服行スヘキ綱領ヲ示シ其召集旅費金ハ國庫金出納所ヨリ支出シ召集令狀ハ之ヲ戸長役場ニ藏置シ當該官ノ令達ニ從ヒ之ヲ各兵員ニ交付スルノ法トナシ總テ簡捷利便ヲ旨トシ一令ノ下百事直ニ辨シ毫モ支障ナカランヲ期セリ然ルニ客年中戸長役場ニ藏置ノ爲メ送付スル所ノ令狀ヲ召集ノ令達ト誤認シ之ヲ

各兵員ニ傳致シ或ハ豫備兵定時演習ニ際シ充員召集或ハ後備軍召集ノ令狀ヲ發シ旅費ヲ換給シ鎮臺營所分營等ニ到ラシムル者各地方其例少シトセス異竟此誤タル偶然ノ誤ニアラス乃チ條例ノ主旨貫徹セサルニ因ルモノニシテ是レカ爲ノ徒ニ兵員ヲ勞シ巨多ノ金額ヲ浪費セリ豈不都合ノ至リナラスヤ且ツ斯ノ如キ事屢アルニ於テハ有事ノ日ニ方リ兵員令狀ニ接スルモ狐疑ノ心ヲ生シ自カテ其參集ヲ遲緩スルノ虞ナギヲ保セス縱令將來此弊ヲ杜絶スルモ各官常ニ其遵守スヘキ條規ヲ服膺シ着實事ニ從フニアラサレハ一朝有事ニ際シ紛擾錯雜ヲ免カレサルヤ必セリ既ニ其誤アルノ地方ハ向後宜ク戒飾ヲ加ヘ各官ノ盡スヘキ行務ヲ考案計畫シ條例ノ主旨貫徹スルヲ勉メ又未タ其誤アラサルノ地方ハ益々條例ノ主旨ヲ擴充シ其行務ヲ確實ニシ豫メ其弊ヲ防遏セラルヘシ右内訓ス

明治廿一年二月二日

陸軍大臣

愛媛縣知事宛

訓令第五百五號 (明治二十三年十二月二十三日)

警察部 警察署

警察分署 郡役所

市役場 町村役場

陸軍召集條例事務細則別冊ノ通告正ス

〔別冊〕

充員召集

但明治二十一年(一月)本縣達甲第二號其他本則ニ矛盾スル令達ハ渾テ廢止ス

- 第一條 縣廳ニ於テ師團長(若クハ旅團長)ヨリ充員召集ノ通知ヲ受ケタルトキハ第一號書式ノ文案ヲ以テ之ヲ郡長市長及警察署長ニ令達スヘシ
- 第二條 郡長ハ縣廳ノ達ニ從ヒ第二號書式ノ文案ヲ以テ飛信若クハ豫定ノ脚夫ヲシテ之ヲ町村長ニ達スヘシ
- 第三條 警察署長ハ縣廳ノ達ニ從ヒ第三號書式ノ文案ヲ以テ飛信若クハ豫定ノ脚夫又ハ巡查ヲ派遣シ之ヲ分署派出所駐在所ニ達シ條例第二十八條ノ諸項ヲ執行セシムヘシ

但同條第四項ノ場合ニ於テハ本屬警察署又ハ分署ニ引致セシムヘシ

- 第四條 郡長市長ハ監視區長ヨリ送致スル豫備後備將校下士ノ令狀ニ第四號書式ノ送達書ヲ添ヘ町村長ハ(市ニ在テハ市長)其格納スル兵員ノ令狀ヲ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ各自(他ニ寄留中ノモノハ其通報人)ニ發送シ其受領證ヲ取置クヘシ
- 第五條 郡役所市役所及町村役場ニ於テ召集ノ達アリタルトキハ其帳簿ニ就キ召集ニ應スヘキモノノ人名ヲ指點シ條例第二十八條第一項執行ノ便ニ供スヘシ
- 第六條 條例第四十九條ノ警報ハ召集ノ達アルヤ直ニ同條ニ記載シタル官衙公署ニ於テ第五號書式ノ如ク朱ヲ以テ大書シ所屬ノ揭示場ニ公示スヘシ尙幅濶ノ場

二十四年訓令第百號ヲ以テ第四條中「後備」ノ下ニ「將校」ノ二字追加

所若クハ各部落ニ便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ揭示シ總テ公衆ヲシテ速ニ周知セシムルコトニ注意スヘシ

二十五年度令第九號ヲ以テ第二項追加

第七條 警察署分署派出所駐在所又ハ市役所村町役場ニ於テ召集途中川支又ハ海上風波ノ爲メ滯留セシモノ等其他條例第四十三條ノ證認ヲ請求スルモノアルトキハ第六號書式ノ證認書ヲ附與スヘシ

第八條 召集ニ際シ官憲ヨリ發遣シタル脚夫途中發病等ニテ遞送シ能ハサルトキハ之ヲ聞知シタル官署又ハ公署ニ於テ直ニ代人ヲ以テ遞送ノ手續ヲ爲シ其發遣シタル官憲ニ其旨ヲ通報スヘシ

第九條 郡役所市役所及町村役場ニ於テ脚夫ヲ使用シタルトキハ其發着時間ヲ記載シ置クヘシ

第十條 召集ニ應スヘキモノ犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ其届出ヲ爲スヘキ親族ナキトキハ市長又ハ町村長ヨリ其事由ヲ監視區長ニ申報スヘシ

第十一條 町村長ハ召集ニ應セシモノハ其人員不參ノモノハ其人名及事故ヲ詳記シ郡長ニ報告シ郡長(市ニ在テハ市長)ハ之ヲ縣廳ニ報告スヘシ

第十二條 分署又ハ派出所駐在所ハ條例第二十八條ノ諸項ヲ執行セシ後直ニ其狀況ヲ警察署長ニ報告シ警察署長ハ之ヲ縣廳第三課ニ報告スヘシ

召集事件ニ關シ臨時陸軍官憲ヨリ囑托ヲ受ケ執行シタルトキモ亦前項ニ全シ

第十三條 市長及ハ町村長ハ各兵員ニ第一充員第二充員タルコト及召集ニ關シ注意スヘキ要領ヲ豫テ知得セシメ置クヘシ

第十四條 市長及町村長ハ兵員ノ身上ニ異動アリテ召集令狀ニ訂正ヲ要スヘキモノハ歸休兵ヨリ豫備役ニ豫備役ヨリ後備役ニ移リタルモノニ限ル其他ノ異動ニ據リ訂正ヲ要スヘキモノハ其届書ト共ニ(郡ニ在テハ郡長ヲ經)令狀ヲ監視區長ニ送致スヘシ

第十五條 軍用旅舎ハ沿道宿驛ニ於テ旅宿營業者ヲ豫定スヘシト雖モ尙旅舎ノ必用ト認ムル町村ニ於テハ營業者外ノモノト雖モ其家主ノ承諾ヲ得テ便宜豫定シ置クヘシ

豫定ノ旅舎ハ常ニ(陸軍召集)軍用旅舎ト記載シタル看板ヲ店頭ニ掲ケシムヘシ

第十六條 市長及町村長ニ於テ召集ニ際シ平素田畑山野或ハ海上等ニ於テ業ヲ爲ス所ノ諸兵ニ警報ヲ速知セシムル爲メ便宜ノ方法ヲ設ケ豫テ縣廳第三課ニ報告スヘシ

第十七條 豫備徵員ニシテ條例第五百十八條ノ場合ニ於テ召集セラルトキハ其令狀ハ下付セラレサルモノトス

第十八條 後備軍召集ハ充員召集ニ亞テ召集セラルモノニシテ其取扱ハ充員召集ニ異ナルコトナシ

第十九條 臨時演習召集ハ充員召集又ハ後備軍召集ノ手續ヲ演習スルモノニシテ
其取扱ハ充員召集ニ異ナルコトナシ

演習召集

第二十條 縣廳ニ於テ師團長ヨリ演習召集ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡長市長
ニ令達スヘシ

第二十一條 郡長ハ縣廳ノ達ニ從ヒ之ヲ町村長ニ達スヘシ

郡長ハ監視區長ヨリ送致スル兵員令狀ハ之ヲ町村長ニ送付スヘシ

郡長(市ニ在テハ市長)ハ監視區長ヨリ送致スル豫備後備下士ノ令狀ハ之ヲ各自
ニ發送シ其受領證ヲ取置クヘシ

市長及町村長ニ於テ兵員令狀ヲ各自ニ發送シタルトキモ亦前項ニ全シ

第二十二條 召集ニ應ズヘキ兵員疾病快癒ニ至ルモ遂ニ出頭シ能ハサルモノ其令
狀ヲ返納シタルトキハ市長ハ之ヲ監視區長ニ町村長ハ郡長ヲ經テ監視區長ニ返
送スヘシ

第二十三條 町村長ハ演習終ルノ後召集ニ應セシモノハ其人員不參ノモノハ其人
名及事故ヲ詳記シ郡長ニ報告シ郡長(市ニ在テハ市長)之ヲ縣廳ニ報告スヘシ

簡閱點呼

第二十四條 郡長ハ監視區長ヨリ送致スル所ノ点呼令狀ヲ町村長ニ送付シ町村長
(市ニ在テハ市長)ハ之ヲ各自ニ發送シ其受領證ヲ取置クヘシ

第二十五條 郡長市長ハ兵事主任ヲシテ點呼場ニ出張セシムヘシ

第二十六條 町村長ハ兵員名簿ヲ點呼場ニ携帶シ條例第三百二十九條ニ依リ監視區
長ノ點檢ヲ受クヘシ

第二十七條 町村長ハ點呼終ルノ後應召者及不應者(不應者ハ其事故ヲ區分ス)人
員ヲ取調郡長ニ報告シ郡長(市ニ在テハ市長)ハ之ヲ縣廳ニ報告スヘシ

雜例

第二十八條 郡役所市役所及町村役場ニ於テ咄嗟ノ際取扱ノ便ニ供スル爲メ適當
ナル公文箱ヲ製シ召集ニ關係アル一切ノ文書ヲ收藏スヘシ

第二十九條 縣官出張巡回ノ際郡役所市役所及町村役場ニ就キ召集ニ關スル諸件
ヲ點檢スルコトアルヘシ

郡吏出張巡回ノ際便宜町村役場ニ就キ前項ノ諸件ヲ査閱スヘシ

第一號 (達按)

第一充員(第二充員)(近衛充員)召集(後備軍近衛後備軍召集モ含有以下皆之ニ全
シ)發令アリ速ニ着手スヘシ

年 月 日

各郡長市長警察署長宛

愛媛縣知事

第二號 (町村長へ達按)

何 町 村

第一充員(第二充員)(近衛充員)召集發令有之候條兵員令狀ノ表面ニ年月日ヲ記入シ直ニ各自ニ發送シ警報揭示方等成規ノ通取計フヘシ
但召集諸員ニ旅費受取場所ヲ指示セシムヘシ

年月日

何 郡 長

(備考)

但書中郡告示若クハ旅費受取場所ヲ明示スル等適宜ノ文ヲ用ユルモ妨ケナシ
第三號 (警察署ニ於テ分署派出所駐在所へ達按)

分 署

派出所

駐在所

第一充員(第二充員)(近衛充員)召集發令有之候條警報揭示及條例第二十八條ノ諸項等成規ノ通取計ヒ處分濟ノ上ハ其狀況速ニ報告スヘシ

年月日

何 警察署長

第四號 (令狀送達書式)

第一充員(第二充員)(近衛充員)召集發令有之候條別紙令狀及送達候也
年月日(午前午後)時分發ス

何 郡 長

何 市 長

第五號 豫備後備官姓名宛
(料紙ハ幅廣キ厚紙ヲ用ヒ朱ヲ以テ文字ヲ大書シ公衆ヲシテ着目スルニ便ナラシムヘシ)

(警報)

△印ハ朱書

警 報

第五師團第一充員召集相成候事

明治何年何月何日何時何分着報

署 名

右警報記載方ハ左ノ區別ニ依リ記載スヘシ

△第二充員召集

△近衛充員召集

△後備軍召集

△近衛後備軍召集

第六號 (用紙ハ警察署題名ノ半枚摺野紙)

證 認

豫備後備下士兵(歸休兵)(何某何々ノ事故)事由書ノ通實否取調候處相違無之候也

年月日

何警察署(分署)印

(備考)

(派出所駐在所ニ於テハ巡查ノ認印ヲ用ユルモ妨ケナシ)

市役所町村役場ニ於テ付與スル證認モ亦本文ニ準ス

◎訓令第三十五號 (明治二十五年六月九日)

郡役所 市役所
町村役場

臨時召集ニ當リ豫備徵員ヲ召集スルトキハ令狀ヲ用キス

第四章 名籍及身上異動

◎乙第八十七號 (明治十九年五月十五日)

各郡町村

歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者罪ヲ犯シ地方裁判所ノ處分ヲ受ケタルトキハ其罪名ヲ記シ其帶勳者ニシテ勳章ヲ褫奪セラレタルトキハ其旨ヲ記シ犯人本籍地ノ「戸長」ヨリ「郡區駐在官」へ通報セシムヘキ旨達有之候條此旨相達候事

(但)

◎達甲第十一號 (明治十九年九月四日)

各郡町村

二十四年訓令第五十八號ニヨリ但書消滅

二十二年法律第一號ニヨリ豫備徵員ノ種別消滅

現役兵補充員第一豫備徵員歸休兵豫備兵後豫兵等服役中ノモノ異動届自今左ノ雛形ニ依リ兵種番號編入年度等明瞭ニ記載シ差出サシムヘシ

(雛形)

身上異動届

今般何縣何郡何町(村)何番地(平民士族何某(養子附籍)相成)轉籍致候間此段御届申候也

愛媛縣何郡何町(村)何番地士族(平民)

明治何年徵兵兵種番號

現役兵(補充員)(第一豫備徵員) 姓
豫備(後備兵)役(歸休兵)何等卒

名

印

年月日

宛 名

(備考)

現役兵在營在艦中ノモノハ父兄等其代理人ヨリ届出ルモノトス

◎縣令第三十號 (明治二十年二月一日)

海軍下士以下(徵兵ハ除ク)戶籍上異動アルトキハ戶主又ハ家族或ハ親族ヨリ其都度郡「戸長」ヲ經テ日數三十日以内ニ當廳へ届出ヘシ

但明治十九年三月本縣告第四十四號達ハ廢止ス

◎達甲第十四號 (明治廿一年五月七日)

郡役所

二十一年訓令第一六號參看

「戸長役場」

兵籍名簿中(國民兵ヲ除ク)ノモノ身上異動ノ義當廳ニ於テハ本人ノ届出ヲ要セサルニ據リ爾後左ノ通取扱フヘシ

但本文ニ矛盾スル從前ノ達等ハ廢止ス

右相達ス

一 郡役所ニ於テ異動届出ノ都度詳カニ名簿ヲ加除シ其筋ヘ送付ノ後其異動ヲ取纏メ左ノ書式ニ依リ三日以内ニ當廳ヘ報告スヘシ

一 海軍兵志願者召募規則ニ依リ採用セラレタルモノハ報告ヲ要セス明治二十年(二月)縣令第三十號ニ依リ當廳ヘ届出シムヘシ

(書式)

兵籍名簿中身上異動報告

何郡何町(村)何番戸士族(平民)

戸主(某何男)(何々)

明治何年徵兵兵種番號

現役(補充)(第一豫備徵員)

豫備(後備兵)役(何々)等級

何

某

右ハ何月何日死亡(戸主某退隱(死亡)ニ付跡相續)(何々)

以下倣之

合計何人

右ハ兵籍名簿中身上異動報告致候也

二十二年法律第一號ニヨリ第一ノ二字消滅

年月日

知事宛

郡

長

二十二年法律第一號ニヨリ第一ノ二字消滅

- 一 本書々式ハ單ニ一例ヲ舉ケタル者ナレハ實際其事柄ニ依リ詳カニ記入スヘシ
- 一 養子離別實家復籍セシルハ戸主ヨリ本人ニ對スル稱呼洩レナク記入スヘシ
- 一 家族全体ニ關スル異動ハ必ス人別表ヲ添付シ又人別表欄内ニアル家族ノ異動ハ右書式ニ準シ報告スヘシ
- 一 但補充員及第一豫備徵員ノモノハ本文ノ手續ヲナスニ及ハズ
- 一 寄留及ヒ結婚ノ義モ右書式ニ準シ報告スヘシ
- 一 所轄郡内ニ係ル異動ハ就籍ノ一方ノミ報告スヘシ
- 一 明治廿年徵兵ハ年度下ヘ第一次或ハ第二次ト記入スヘシ
- 一 近衛兵ハ現役或ハ豫備後備ノ上ニ近衛ノ二字ヲ記入スヘシ

○訓第一〇五號 (明治廿一年六月九日)

郡役所「戸長役場」

豫備役後備軍職員兵員補充員第一豫備徵員身上異動等ノ取扱方當分左ノ通相定條旨今般廣島第五師團ヨリ通牒有之候條其旨心得ヘシ

右訓令ス

一 豫備役後備軍職員ノ取扱ハ從前ノ通リトス

一 同兵員ノ寄留地ヨリ直ニ充員及後備軍召集又ハ該地ニ於テ點呼召集ニ應セン

二十一年訓第一六一號查看

二十二年法律第一號ニヨリ第一ノ二字消滅

二十一年訓令第一四五號ヲ以テ第五項但書改正全第一六一號ニヨリ消滅

二十二年法律第一號ニヨリ第一ノ二字消滅

二十四年訓令第十八號參看

ト欲スルモノ、取扱ハ從前ノ通ニシテ其願書等ノ宛名ハ大隊區司令官トス
一 同兵員ノ死亡又ハ逃亡失踪等ノモノ其家族ナキトキハ「戸長」ヨリ監視區長ニ通報スルモノトス

一 同兵員ノ願届書ハ「戸長」ノ與書證印ヲ要ス其書式ハ舊例ニ據ルモノトス

一 大隊區及監視區ノ標號ハ左ノ如シ

何大隊區司令部

何監視區長駐劄所

○訓令第一六一號 (明治廿一年九月十二日)

郡役所 「戸長役場」

豫備役後備軍編員兵員等異動取扱方本年(六月)訓令第一〇五號ヲ以テ訓令セシ條款中第五項ノ廢取消候旨其筋ヨリ申越候條爾后補充員第一豫備徵員ノ取扱ハ徵兵事務條例揭示ノ通取計フヘシ

右訓示ス

○縣令第二十號 (明治二十四年三月十七日)

現役兵入營中身上ニ關スル異動ハ自今戸主(本人戸主ナレハ親族)ヨリ直ニ市役所町村役場へ届出ツヘシ

○訓令第十八號 (明治二十四年三月十七日)

郡役所 市役所

町村役場

本年縣令第二十號ニ依リ現役兵入營中身上ニ關スル異動市役所町村役場へ届出候トキハ町村長ハ速ニ郡役所ニ報告シ郡長市長ハ其都度所管大隊區司令官ニ通報スヘシ

○訓令第五十八號 (明治二十四年六月七日)

郡役所 市役所

町村役場

兵籍名簿整理規程左之通之ヲ定ム

但明治十九年(八月)達甲第四號其他本則ニ矛盾スル令達ハ渾テ廢止ス

兵籍名簿整理規程

第一條「兵籍名簿ハ左ノ書式ニ依ル

陸海軍現役將校下士名簿

備考	原籍身分	官名氏名
	何町村大字何士族(平民)	陸軍 何々 何某
全		海軍 何々 全

一 本名簿ハ陸海軍將校下士并ニ同相當官ニシテ現役中ノ書式トス

- 但將校下士ハ紙送りヲ以テ之ヲ區別スヘシ
- 海軍ノ部ハ紙送りヲ以テ區別シ其紙端へ見出ヲ附スヘシ
- 本名簿中ノモノニシテ豫備後備トナリタル者ハ其旨備考欄内ニ記入シ朱線ヲ以テ塗抹シ更ニ當該名簿ニ移スヘシ
- 陸(海)軍現役各兵名簿

備考	原籍身分	兵種番號	氏名
	但町村大字何士族(平民)	何年徵兵(志願) 何兵第何番	何某
全		何年一年志願兵	全
		何年十條志願兵	全
全		何兵第何番	全

- 本名簿ハ徵兵ニテ徵集ニ應シタルモノ並ニ徵兵令第十條ニ依リ志願シ及一年志願兵現兵中ノ書式トス
- 但各兵種并ニ一年志願兵ハ紙送りヲ以テ區別シ年度毎ニ餘白ヲ存スヘシ
- 輜重輸卒ハ郡役所市役所ニ於テハ別簿ニ調製シ町村役場ハ紙送りヲ以テ之ヲ區別スヘシ
- 本名簿中ノモノ歸休又ハ豫備ニ編入ノモノハ其旨備考欄内ニ記入シ朱線ヲ以テ塗抹シ更ニ豫備後備兵名簿ニ移スヘシ

陸海軍兵名簿ハ各別ニ調製スヘシ

陸海軍豫備徵員各兵名簿

(本名簿ハ現役兵ノ書式ニ同シ)

- 本名簿ハ豫備徵員常籤者ノ書式トス
- 但各兵種毎ニ番號順ニ記入シ次ノ兵種ノ間ニ三行ノ空野ヲ存スヘシ
- 郡役所市役所ニ於テハ徵兵抽籤名簿ヲ以テ本名簿ニ代用スルモ妨ケナシ
- 本名簿中ノモノ現役ニ繰上ケタルモノハ其旨備考欄内ニ記入シ朱線ヲ以テ塗抹シ更ニ當該名簿へ移スヘシ
- 海軍ノ部ハ紙送りヲ以テ區別シ其紙端へ見出ヲ附スヘシ
- 陸海軍豫備後備將校下士名簿

備考	原籍身分	豫備後備編入年月日	官名	氏名
	何町村大字何士族(平民)	豫備年月日 後備年月日	陸軍何々	何某
全		後備年月日	海軍何々	全

- 本名簿ハ陸海軍將校下士並ニ同相當官ニシテ豫備後備ニ移リタル者ノ書式トス
- 但將校下士ハ紙送りヲ以テ之ヲ區別スヘシ
- 後備滿期ノ將校ハ退役タルヲ以テ其旨備考欄内ニ記入シ終身名簿ヲ存スヘシ

- 一 後備滿期ノ下士ハ其旨備考欄内ニ記入シ朱線ヲ以テ塗抹スヘシ
- 一 海軍ノ部ハ紙送リヲ以テ區別シ其紙端ニ見出テ附スヘシ

備考	原籍身分	籤番號	豫備後備編入年月日	等級氏名
全	何町村大字何士族(平民)	何年何兵第何番	豫備年月日 後備年月日	上等兵何某
全		何年一年志願兵	全	一等卒全
全		何年十條志願兵	全	全
全		何兵第何番	全	全

- 一 本名簿ハ陸海軍各兵豫備後備ニ移リタルモノ、書式トス
- 一 但各兵種並ニ一年志願兵ハ紙送リヲ以テ區別シ年度毎ニ餘白ヲ存スヘシ
- 一 輜重輸卒ハ郡役所市役所ニ於テハ別簿ニ調製シ町村役場ハ紙送リヲ以テ區別スヘシ
- 一 後備役滿期ノ者ハ其旨備考欄内ニ記入シ朱線ヲ以テ塗抹スヘシ
- 一 陸海軍兵名簿ハ各別ニ調製スヘシ
- 一 陸海軍諸生徒名簿

備考	原籍身分	種別	氏名
全	何町村大字何士族(平民)	年 月 日 士官候補生	何 某
全		何々學校生徒	全

- 一 本名簿ハ入隊入校團ノ日ヲ以テ登載スルモノトス
- 一 但海軍ノ部ハ紙送リヲ以テ區別シ其紙端ニ見出テ附スヘシ
- 一 本名簿中ノモノ卒業任官ノ上ハ其旨備考欄内ニ記入シ朱線ヲ以テ塗抹シ更ニ當該名簿ヘ移スヘシ

海軍徵募志願兵名簿

備考	原籍身分	豫備編入年月日	入營年月日	兵種	氏名
全	何々町村大字何々士族(平民)	年 月 日	何々 鎮守府 年 月 日	水兵	何 某
全		全	全	何々	全

- 一 本名簿ハ海軍徵募志願兵ノ書式トス
- 一 但現役滿期豫備役ニ編入スルモ別ニ名簿ヲ調製スルニ及ハス豫備役滿期ノ上ハ其旨備考欄内ニ記入シ朱線ヲ以テ塗抹スヘシ
- 一 六週間現役兵名簿

- (本名簿ハ陸海軍現役各兵名簿ニ全シ但誕生ノ區畫ヲ設クヘシ)
 - 一 本名簿ハ徵兵令第十一條第三項ニ依リ現役中ノモノ、書式トス
 - 一 本名簿中ノモノ現役滿期國民兵ニ編入シタルトキハ其旨備考欄内ニ記入シ然シテ徵兵令第十一條第五項ニ依リ本人年滿二十六歲迄ハ本名簿ヲ保存スヘシ
- 明治二十二年以前徵兵相當失踪逃亡者名簿

備考	事由	原籍	身分	誕生	氏名
	何年月日ヨリ失踪(逃亡)	何町村大字何士族(平民)	年月日	何	某
全		全	全	全	全

- 一 本名簿ハ明治廿二年十月四日本縣訓令第七十五號ハ該當スルモノ、書式トス但所在發見ノ上ハ其旨備考欄内ニ記入シ朱線ヲ以テ塗抹スヘシ
- 第二條 郡役所市役所ニ於テハ其兵籍名簿ト監視區長駐劄所名簿及町村役場名簿ト少クモ一ヶ年二回以上之ヲ對照スヘシ
- 第三條 召集條例ニ關スル名簿ハ該條例ノ規定ニ依リ別ニ調製スヘシ
- 第四條 兵籍名簿中ノモノ異動ヲ生シ町村長ヲ經テ監視區長ニ届出ヘキ書類ハ總テ郡役所ヲ經由スヘシ
- 第五條 總郡役所市役所ニ於テハ兵籍名簿ニ就キ其種類ヲ區別シ毎年十二月三十一

二十六年訓令第三十五號ヲ以テ第四條改正

第五章 徵發

○無號 (明治十七年一月二十一日)

「兵事課」

日ノ現在數ヲ調査シ翌年二月二十日迄ニ其人員表ヲ調製シ縣廳ニ報告スヘシ

徵發ニ係ル出張官心得内規別冊之通相定メ候條一層注意取扱可致此旨相達候 (別冊)

徵發ニ係ル出張官心得内規

徵發令第十二條第一項縣ノ徵發ニ係ル物件ニシテ徵發書ヲ受ケタル場合ニ在テハ左之條件ニ依據シ便宜ノ處分ヲ爲スヘシ

- 一 陸軍官憲ヨリ徵發書ヲ受ケ該物件ヲ郡長ヘ告達シ其差出場所ヘ出張ヲ命シタルルハ直ニ該所ニ至リ郡長ト商議シ徵發物品ヲ完全ナラシメ勉テ時期ニ後レサル様注意スヘシ

但徵發物品ニ不足ヲ生スルルハ他ヘ賦課スル便宜ノ意見書ヲ添ヘ急飛ヲ以テ開申スヘシ

- 一 前條徵發物品不足スル場合ニ於テ開申スル時日ナキハ郡長ト商議シ便宜ニ從ヒ直ニ賦課シ而シテ開申ノ手續ヲ爲スモ妨ケナシ
- 一 徵發物件ヲ賦課シタルルハ之ヲ規避シ又ハ怠慢ニシテ時期後レタルモノアル

ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ調達シ尙其事實ヲ取調事宜ニ依リ所轄檢事ヘ告發ノ手續ヲ爲スヘシ

一 徵發物件ヲ受領スルハ目録第一號離形ノ通ニ簿冊ニ本人并ニ物品量數等ヲ明記シ假領受證ヲ付與シ追テ現金下付ノ手續ヲ爲スヘシ

但假領受證ハ郡長ヲ經テ下付スヘシト雖モ時宜ニ依リ直ニ本人ヘ下付スルモ妨ケナシ

一 徵發ノ物品整理輸送スル場合ニ於テハ郡長ト商議シ勉テ紛擾ノナキ様簡易ノ取扱ヲ爲サシムヘシ

一 出張中取扱ヒタル事務ハ詳細ニ記載シテ之ヲ復命スヘシ
假受領證帳符式

用紙ハ西洋紙ヲ用ユヘシ

何郡何町村

何

某

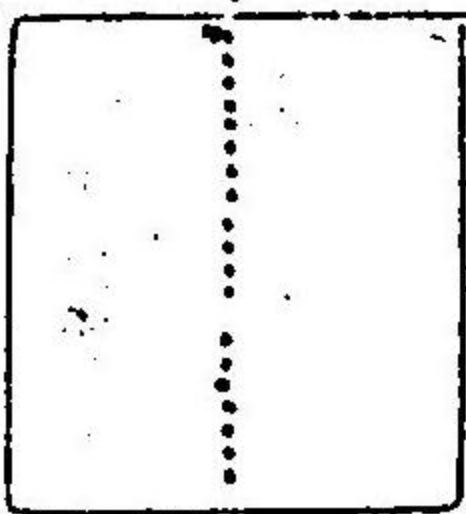
一 精米

何石

右年月日受領ノ上假證券ヲ附與ス

主任官姓名印
主任官割印

此廉紙切ル



記

何郡何町村

一、
一、
右正ニ受領候云々

「縣

令

主任官吏ノ割印

記

何郡何町村

何

某

何〇石也

主任官吏ノ檢印

何〇石也

一 精米
一 玄米

右正ニ受領候追而此假券ト現金引替相渡スヘク候也

「縣令」姓名印

年月日

◎甲第六十號 (明治十七年九月二十二日)

左ノ商業(卸賣小賣ニ限ル)ヲ爲スモノハ前一ケ年ノ賣却數別紙書式ニ倣ヒ毎年一月十日迄ニ「戸長役場」ハ届出ツ可シ

玄米 精米 麥 鹽 醬油 漬物 梅干 味噌 薪 炭 秣 糶
右布達候事

(別紙)

御届

一玄米

一精米

何石何斗何舛
何石何斗何舛

(以下之ニ倣フ麥鹽醬油ハ何石味噌薪炭秣糶ハ
何貫漬物梅干ハ何樽(四斗入)ト記スヘシ)

右昨年中ノ賣却數相違無之此段御届仕候也

年月日

何町村

「戸長役場」

御中

何郡何町村何番地
卸賣(或ハ小賣)商
平民(或ハ士族)

何 某 印

◎訓令第十五號 (明治二十四年二月二十七日)

郡役所 市役所
町村役場

徵發事務取扱細則左之通之ヲ定ム

但明治十九年本縣達甲第二十五號徵發事務取扱手續其他本則ニ矛盾スル令達ハ
渾テ廢止ス

徵發事務取扱細則

第一條 郡長市長ハ徵發ノ供給ヲ便宜ニセン爲メ近隣郡長市長ト商議シ其供給ノ
方法ヲ豫定シ置クヘシ

第二條 郡長ハ徵發ノ供給ヲ便宜ニセン爲メ其郡内町村ヲ分劃シ徵發組合町村ヲ
定メ置クヘシ

第三條 郡長市長及町村長ニ於テ陸海軍官憲ヨリ徵發ノ命令ヲ受ケタル時ハ速ニ
其處置ヲ爲シ場所及物件數量共電信若クハ急使ヲ以テ町村長ハ郡長ヘ郡長市長
ハ縣廳ヘ報告スヘシ

郡長市長及町村長ニ於テ船舶會社又ハ鐵道會社ヨリ徵發ヲ受ケタル旨届出タル
時モ亦前項ノ例ニ據リ之ヲ報告スヘシ

第四條 縣ノ徵發區ニシテ徵發ヲ受ケタル物件並ニ數量ヲ示達セシトキハ事務條
例第二十條ノ規定ニ據リ其供給ヲ辦シ置キ其物件數量ヲ直ニ縣廳若クハ出張ノ

縣官ニ報告スヘシ

第五條 事務條例第八條ノ證人ヲ要スルトキ其町村ニ住スル親族若クハ預リ主又ハ同物品營業者無之場合ニ於テハ市長又ハ町村長ニ於テ其近傍ノ者二人ヲ撰定シ之ヲ證人ト爲スコトヲ得

第六條 徵發物件ヲ賦課セラレタル本人へ賠償金交付スル迄ハ郡長市長若クハ町村長ニ於テ假領收證ヲ付與シ置クヘシ

第七條 徵發物件表ハ總テ美濃白紙ヲ用ヒ明治二十三年(九月)勅令第九十六號表式ニ基クヘキハ勿論尙左ノ梗概ニ據リ調製スヘシ

表式第三號ノ一

- 一 表式乙部上欄第二行第三行ハ町村ノ區域内人家連接スルト散在スルトニ拘ハラス町村制實施ノ際他ノ町村ト合併セサリシ即チ舊町村ヲ掲グルモノトス
- 町村制實施ノ際數町村ヲ合併シテ成立シタル新町村ニシテ其町村内ノ人家連接シタルモノモ亦第二行第三行ニ記載ス其人各部落ニ散在シタルモノハ第四行ニ記載スルモノトス
- 同第五行組合町村ハ乙部第二行第三行ノ例ヲ本書第一行ニ記載シ乙部第四行ノ例ヲ本書第二行ニ記載スルモノトス
- 二 家屋畫内戸數ハ現在軒數ヲ掲ケ其軒數トハ官廳寺院學校製造所水車場倉庫廐病院ヲ除キ人ノ現在住居スヘキト否トニ拘ハラス市町村内ニ現在スル家屋ノ棟

數ニシテ其家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市役所町村役場等ニ使用スルモノモ本畫ニ算入スヘキモノトス

同總坪數ハ家屋ノ總坪數ヲ記入ス又家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市役所町村役場等ニ使用スルモノモ亦算入スヘキモノトス

同宿舍用坪數ハ官署學校市役所町村役場ニ使用シ又各家族起臥營業ニ必用ノ部分ヲ除キ計算スルモノトス

三 官廳畫ハ官署及市役所町村役場ノ個數ヲ記入スヘキモノトス

四 寺院ノ畫内軒數ハ寺院内ニ堂庵幾棟數アルモ之ヲ分別セス一寺院ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス

同總坪數ハ各寺院ノ總坪數ヲ合算ス又寺院ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市役所町村役場等ニ使用スルモノモ算入スヘキモノトス

同宿舍用坪數ハ官署學校市役所町村役場若クハ内陣及其家族ノ起臥ニ必用ノ部分ヲ除キ計算スヘキモノトス

五 學校畫内軒數ハ官公立ノ別ナク其學校内ニ教場寄宿舎等幾棟アルモ之ヲ分別セス一學校ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス

同坪數ハ各學校ノ總坪數ヲ合算スヘキモノトス

六 製造所ハ公私立ノ別ナク又製造物品種類如何ニ拘ハラス總テ掲クヘキ者トス但官立ニ係ルモノハ官廳ノ個數ニ記入スヘキモノトス

- 七 水車場ハ水車及蒸氣器械ノ別ナク一日一石以上ヲ搗春スル箇所ヲ記入スヘキモノトス
 - 八 病院畫内軒數ハ病院内ニ病室幾棟アルモ之ヲ分別セス一病院ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス
 - 九 日本形船舶畫内浮漁小廻ノ畫ヘ日本形船舶五十石未滿及倉庫船水田耕作用船及水災豫備船ヲ算入シ漁船ニ非サル西洋形船舶二十噸以上ハ五十石以上ノ畫ヘ二十噸未滿ハ浮漁小廻ノ畫ニ朱書列記スヘキモノトス
但游船渡船橋用船ハ記入スルニ及ハス
 - 十 醫師及職工ノ順序ハ表式ノ順序ニ從ヒ記入ス職工ハ他ノ職工ヲ混入セス表式ニ記載シタル職工ニ限り記入スヘキモノトス
但一名ニテ兩業ヲ兼ヌルモノ醫ヘハ木挽職ニシテ杣職ヲ兼ヌルモノハ木挽職何名(内何名杣職兼業)ト記載シ杣職何名ノ内ハ算入セサルモノトス又表式職工中其郡市ニナキモノハ其ナキコトヲ記スルニ及ハス
- 表式第三號ノ二
- 十一 乘馬ハ現在乘馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ乘馬ニ役セシモノハ現今駕馬馱馬耕馬ニ役スルモノト雖モ乘馬ノ畫ニ記載スヘキモノトス
 - 十二 駕馬ハ現在駕馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ駕馬ニ役セシモノ(現在乘馬ハ除ク)現今馱馬耕馬ニ役スルモノト雖モ駕馬ノ畫ニ記載スヘキモノトス

- 十三 馱馬ハ現在馱馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ馱馬ニ役セシモノ(現在乘馬馱馬ハ除ク)ハ現今耕馬ニ役スルモノト雖モ馱馬ノ畫ニ記載スヘキモノトス
- 表式第三號ノ三
- 十四 玄米ハ陸米糯米トモ算入スヘキモノトス
 - 十五 潰物ハ澤庵潰ヲ記入スヘキモノトス
 - 十六 一樽ハ四斗入ヲ以テ計算スヘキモノトス
- 第八條 明治二十三年(九月)勅令第九十六號付録第三號ノ諸表ハ十二月三十一日調ヲ以テ三年目毎ニ明治十九年(十一月)閣令第二十九號付録第四號諸表同二十三年(九月)勅令第九十六號付録第五號諸表(三表ヲ除ク)ハ毎年十二月三十一日調ヲ以テ市長及町村長ハ之ヲ製表シ町村長ハ翌年一月二十日限り郡長ヘ差出シ郡長市長ハ郡市毎ニ一表トナシ二月十日限り縣廳ヘ進達スヘシ
- 第九條 新造若クハ買入タル漁船登簿噸數百噸以上ノモノアルトキハ郡長市長ハ明治二十三年(九月)勅令第九十六號付録第五號ノ三表式ニ據リ之ヲ製表シ其時々縣廳ヘ進達スヘシ
- 第十條 平均物價表ハ明治十九年(五月)閣令第十一號付録第七號表式ニ據リ左ノ各所ノ郡役所市役所ニ於テ毎年十二月三十一日調ヲ以テ前三ヶ年ノ平均價額ヲ記載シ毎年二月十日限縣廳ヘ進達スヘシ
- 松山 今治 大洲 宇和島

◎縣令第二號 (明治廿七年一月十三日)

明治二十年(五月)縣令第七十二號馬匹臺帳改正ニ付馬匹飼養者ハ左ノ事項ヲ詳記シ更ニ來ル二月廿八日迄ニ市長町村長ニ届出ツ可シ
爾後分娩ハ生後七十日ヲ經過シテ又買受讓受ケ若クハ斃死シタルハ五日以内ニ届出ツ可シ

賣渡人讓渡人モ亦同シ

但双方違署届出ツルモ妨ケナシ

馬匹ノ飼養者他ノ市町村ニ轉居セシトキハ五日以内ニ新舊住地ノ市長町村長ニ届出ツ可シ

- 一 馬匹ノ役種(乘馬、馱馬、輓馬、耕馬、(牡或ハ牝))
- 一 年齢
- 一 產地
- 一 毛色
- 一 寸尺
- 一 性質
- 一 病疾
- 一 原價 (買受又ハ讓受ケシトキノ代價ヲ記ス)

◎訓令第四號 (明治廿七年一月十三日)

郡市町村

戰時馬匹徵集手續左ノ通り定ム

但第八條馬匹員數表及賃價表ハ本年ニ限り明治廿年五月本縣達甲第六十八號第十三條及第十九條ニ依リ調製シ差出スヘシ

(別冊)

戰時馬匹徵集手續

第一章 要旨

第一條 出師ニ當リ充員召集ノ手續ハ陸軍召集條例ニ依リ規定セラル、ト雖馬匹徵集ノ手續ニ至テハ未定ニ屬ス徵發令同事務條例ハ或地點ニ就キ其地ノ馬匹徵用スル爲メニ制定セラレシモノニシテ出師ノ場合ニ處スル爲メニハ適合セサルモノトス故ニ出師發令ノ日ニ當リ咄嗟ニ充馬ノ事務ヲ處辨シ速ニ師團ノ出戰準備ヲ完整セシト欲セハ一ツノ手續ヲ規定スルヲ至要トス

第二章 規定

第二條 徵發スヘキ馬匹ノ種類ハ左ノ三種トス

乘馬 馱馬 輓馬

第三條 徵發スヘキ馬匹ハ總テ牡馬ニシテ体格強壯性質順良役務ニ適合ナルモノヲ供給スルモノトス

第四條 徵發セシ馬匹ハ借り上ナ本主トスルモ時宜ニ依リ買上グルコトアルヘシ

(屬具モ又全シ)

但操業者ハ通常徵用セサルモノトス

第五條 本縣ニ於ケル馬匹徵集地ハ左ノ如シ

松山城内練兵場馬匹受領所

第六條 馬匹ハ總テ前條ノ受領所迄持主若クハ其代理人(以下單ニ馬匹持主ト記スルモノハ總テ其代理人ヲ含ム)ヲシテ牽出サシムルモノトス

第七條 馬匹及ヒ持主徵集地ニ到ル道中ハ軍用旅舎若クハ便宜ノ場所ニ宿泊スル等沿道市役所町村役場ニ於テ其宿泊及ヒ旅行ノ便利ヲ企畫スヘキモノトス

第三章 調査并ニ通報

第八條 市長町村長ハ毎年一月一日調ヲ以テ第八様式ニ依リ馬匹員數表及第五様式ニ依リ賃價表ヲ調製シ町村長ハ一月十五日迄ニ郡長ニ市長ハ第五様式ノ賃價表ト共ニ一月三十日迄ニ縣廳ヘ差出スヘシ

第九條 師團長ハ毎年三月二十日迄ニ出師年度間(五月一日ヨリ翌年四月盡日マテ)各縣ヨリ供給スヘキ馬匹ノ種類員數ヲ知事ニ通報シ此通報ト共ニ駄馬屬具

(駄鞍其他荷綱、雨覆等駄馬ニ要スル器具一式並飼麥一斗五升ヲ入ル、布袋若クハ叭等)ノ所用員數ヲ通知ス

第十條 知事ハ前條ノ通知ニ基キ郡長市長ヘ馬匹ノ種類員數ヲ配布スヘキヲ以テ郡長ハ之ヲ町村ニ配付シ其配賦ノ員數ヲ知事ニ報告スヘシ

但町村長ニ於テハ配賦ノ員數ヲ充足シ能ハサルトキハ其員數及ヒ馬匹ノ種類ヲ郡長ニ郡長市長ハ知事ニ報告スヘシ

郡長市長ハ本條馬匹ノ員數ニ基キ第十四條ニ依リ人馬ノ旅費ヲ取調第六様式ニ依リ旅費概算表ヲ製シ四月十五日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第十一條 市役所町村役場ニハ第七様式ニ依リ合格馬匹ノ臺帳ヲ調製備置キ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

第十二條 前條ノ臺帳ニハ第十條ニ依リ配付セラレタル其出師年度間徵集ニ應スヘキ馬匹ヲ第三條ニ依リ豫メ撰譯シ臺帳欄外ノ上ニ適當ノ二字ヲ朱書シ尙其旨馬匹持主ニ知ラシムヘシ

第十三條 徵發令狀(第四様式)ハ豫テ師團ヨリ縣廳ニ回付シ縣廳ニ於テハ之ヲ郡役所市役所ニ分配シテ格納セシム

第四章 旅費并ニ手當

第十四條 徵集ニ應シ徵集地ニ往復シ若クハ解備ニ際シ解備地ニ往復スル人馬ニ

ハ旅費トシテ一里ニ付馬ハ金貳錢五厘人ハ參錢五厘ヲ支給ス

但本文ノ里程ヲ算スルニハ其六字ヨリ起算シ端丁數ハ切捨ツヘシ

第十五條 馬匹徵發ニ當リ人馬ノ旅費ハ本縣內務部第三課ヨリ電信爲替又ハ急使ヲ以テ郡長市長ニ送金スヘキヲ以テ郡長市長ハ便宜ノ方法ニ依リ馬匹持主ニ連達支給スヘシ其他支給スヘキ金員ハ馬匹受領所若クハ解備地ニ於テ徵發馬匹委員ヨリ馬匹持主ニ支給ス

第十六條 借上ケ馬匹ハ受領當日ヨリ解備當日迄第八條ノ賃價表ニ依リ賃價ヲ給ス

第十七條 郡長市長ハ旅費金受授ノ手續ハ平素之ヲ豫定シ置キ爲シ得ル限り迅速取扱フヘシ

第十八條 馬匹持主徵集地若クハ解備地ニ到着セシ上ハ其當日馬匹ノ受渡ヲ終ルコト能ハサルモノアルトキハ徵發馬匹委員ニ於テ人馬ニ一泊ヲ命ス然ルトキハ手當トシテ金拾五錢ヲ支給シ馬匹ハ糶秣ヲ官給ス

第五章 徵集並ニ解備

第十九條 師團長ヨリ充員召集ト同時ニ電報ニテ馬匹徵發ノ通知アルヲ以テ知事ハ即時電信(第一文案)又ハ急使ニテ(第二文案)郡長市長ニ令達ス郡長市長ハ其令達ヲ受領セハ電信又ハ急使ヲ以テ知事へ令達受領ノ報告ヲ爲スヘシ

第二十條 郡長ハ前條ノ令達ニ依リ豫テ格納セル徵發令狀ニ第三文案ノ達ヲ添ヘ急使ヲ以テ町村長ニ送付スヘシ市長ハ徵發令狀ニ馬匹ノ持主姓名其他所要ノ記入ヲナシ之ヲ持主ニ交附シ受領證ヲ徵シ速ニ出發ノ準備ヲ爲サシムヘシ

第二十一條 町村長ハ郡長ノ達ニ依リ馬匹臺帳ニ基キ徵發令狀ニ馬匹持主ノ姓名其他所要ノ記入ヲ爲シ之ヲ持主ニ交附シ受領證ヲ徵シ速ニ出發ノ準備ヲナサシムヘシ

第二十二條 町村長ニ於テ若シ病馬其他ノ事故ニ依リ其町村内ニ於テ徵發ノ員數ヲ供給シ能ハサルトキハ急使ヲ以テ其旨郡長ニ報告スヘシ
郡長ハ町村長ヨリ供給シ能ハサル申告ヲ受ケタルトキハ更ニ他ノ町村ニ賦課シテ供給スヘシ

第二十三條 馬匹持主徵發令狀ヲ受ケタルトキハ何時ニテモ徵集地ニ向テ發程スルノ準備ヲナシ旅費金ヲ受領スヘシ

第二十四條 馬匹持主旅費金受領セハ徵發令狀ヲ携ヘ即日居村ヲ發シ少クモ一日十里詰ヲ以テ馬匹ヲ徵收地ニ牽付ケ到着ノ上ハ馬匹受領所ニ到リ馬匹ヲ徵發馬匹委員ノ検査ニ供スヘシ
検査ノ際馬匹ニハ馬匹持主ノ住所姓名馬匹ノ毛色用役ノ種類買入レシ年月並ニ其原價等ヲ記シタル木札ヲ馬頸ニ結着シ置クヘシ

第二十五條 馬匹持主ハ自己ノ馬匹徵發馬匹委員ノ検査ニ合格シ借上トナリシトキハ徵發令狀ニ「借上」ノ朱印ヲ受ケ之ニ買上ケ豫定價額ト番號ノ記入並ニ主任委員ノ檢印ヲ受ケ第十四條ノ旅費ヲ受領シ歸郷スヘシ

但委員ノ檢印セシ徵發令狀ハ馬匹受領ノ証票ナルヲ以テ馬匹持主ハ解備ノ日迄之ヲ保存スヘキモノトス

検査ニ合格シ買上ケトナリシトキハ馬匹持主ハ委員ヨリ馬匹ノ代價並ニ第十四條ノ旅費ヲ受領シ歸郷スヘシ

不合格トナリシトキハ徵發令狀ヲ委員ニ返納シ第十四條ノ旅費ヲ受領シ馬匹ヲ率返スヘシ

本條馬匹持主歸郷ノ上ハ直ニ其旨市長町村長ニ届出ツヘシ

第二十六條 借上ケ馬匹ヲ解備スルトキハ師團長ハ解備地名ト其時日ヲ知事ニ通知シ知事ハ其旨郡長市長ニ令達ス

郡長市長ハ本條令達ニ依リ馬匹持主ヲ解備地ニ差出スヘシ

第二十七條 前條令達ト共ニ馬匹持主解備地ニ到ル旅費ハ第十五條ノ手續ニ依リ送金スヘキヲ以テ郡長市長ハ便宜馬匹持主ニ支給スヘシ

第二十八條 馬匹持主解備ノ通知ヲ受ケタルトキハ往路旅費ヲ受領シ指定ノ時日ニ解備地ニ到リ徵發馬匹委員ヨリ自己ノ馬匹及第十六條ノ賃價、第十四條ノ歸郷旅費受領スヘシ此際徵發令狀ヲ委員ニ返附スヘシ

但歸郷ノ上ハ直ニ市長町村長ニ届出ツヘシ

第六章 徵發馬匹委員

第二十九條 委員ノ任務左ノ如シ

- 一 馬匹受領所ニ到着スル馬匹ヲ検査シ合格ヲ決定シ其處分ヲナスコト
- 二 借上ケ馬匹ノ賃價、買上ケ馬匹ノ代價並ニ旅費手當金ノ支拂ヲナスコト
- 三 馬匹ノ買上價格ヲ評定シ要スレハ徵發事務條例第五十五條以下ノ法ニ依リ評價委員ヲ編成スルコト

- 四 馬匹ノ体格性質ヲ審案シ用役ヲ類別シ適當ニ之ヲ各部團体ニ分配スルコト
- 五 徵用濟ニ於テ借上ケ馬匹ヲ解備シ借上ケ馬匹ノ賣却ヲナスコト

第一文案 (第十九條)

(郡長へ電信達案)

馬匹徵集ニ付松山へ差出スヘシ

年月日

愛媛縣知事

(右復報案)

馬匹徵集ノ令達受領ス

年月日

何 郡 長

愛媛縣知事宛

第二文案 (第十九條)

(郡長市長へ書面達案)

郡長 市長

今般馬匹徵集ノ儀第五師團長ヨリ通知有之候條松山城內練兵場へ差出候様取計フヘシ

愛媛縣知事

(右受領案)

本月何日付馬匹徵集ノ令達受領致候間此段及報告候也

郡長 市長

愛媛縣知事宛

第三文案 (第二十條)

何 町 村

今般馬匹徵集ノ儀本縣知事ヨリ令達有之候ニ付別紙徵發令狀何葉送付候條述ニ右令狀馬匹持主へ交附シ松山城內練兵場へ差出スヘシ

郡 長

年 月 日

第四様式 (第十三條)

徵發令狀

縣郡(市)町村大字

持主

右徵用ヲ命ス

明治年月日

第五師團司令部印

裏

前書之通金員和渡候也

明治年月日

旅費支給吏

何 某 印

馬匹持主旅費ヲ受領セハ此令狀ヲ携ヘ即時發程一日十里詰ヲ以テ旅行シ徵集地ノ馬匹受領所ニ到リ徵發馬匹委員ニ馬匹ト此令狀ヲ差出スヘシ

徵 集 地 受 領 所	松山城內	練兵場	何里	金 錢	金 錢
	松山營所	二至ル里	旅 費	人一里ニ付 金三錢五厘	馬一里ニ付 金貳錢五厘

第五様式 (用紙美濃紙) (第八條)

何郡	何郡	何市	市郡		種類	一日ノ賃價	一里ノ賃價
			賃金	宿泊料 並ニ食料			
			何錢	何錢	乘馬		
					駄馬		
					輓馬		
					操業者		
			何錢		乘馬		
					駄馬		
					輓馬		
					操業者		

愛媛縣徴發馬匹賃價表

備考
本表駄馬、乘馬ノ操業者賃價ハ平均價格ヲ記入シ而シテ備考欄内ヘ其内譯ヲ記入スルヲ要ス假令ハ乘馬ノ操業者賃價一日金四拾錢駄馬操業者一日金參拾錢ト記入スルカ如シ

第六様式 (用紙美濃紙) (第十條)
愛媛縣徴發馬匹賦課員數並ニ旅費概算表

備考	合計	何郡	何郡	何市	都市名				里程松山營 所迄	馬匹總數ニ對 スル旅費概算
					乘馬	駄馬	輓馬	計		

第七様式 (用紙美濃半葉紙) (第十一條)

第何號	飼養者	愛媛縣何郡何村大字何町村何	某
役種	(乘)(輓)(駄)(耕)馬牡		
年齡	(明治何年何歳)		
產地	(北海道)(仙臺)(南部)(七ノ戸)産等ノ類ヲ記ス		
寸尺	(何尺何寸)		
毛色	(青毛)(鹿毛)(月毛)(栗毛)(葦毛)等ノ類ヲ記ス		
性質	(順良)(稍良)		
原價			
買讓受預ケ年月日			
疾病			
届出年月日			
借上備役賃價			
徴集地松山迄里程	何里	八何錢	一里ニ付 金三錢五厘
		馬何錢	一里ニ付 金二錢五厘

備考

- 凡例
- 一 左ノ馬匹ハ甲種トシテ馬籍ヲ編製スヘシ
 - 一 乘馬 四尺五寸以上ニシテ五才以上十六才未満
 - 一 輓馬 同上
 - 一 駄馬 四尺三寸以上ニシテ五才以上十六才未満
 - 一 左ノ馬匹ハ乙種トシテ馬籍ヲ編製スルニ及ハス
 - 一 乘馬 四尺五寸未満又ハ五才未満十六才以上
 - 一 輓馬 同上
 - 一 駄馬 四尺三寸未満又ハ五才未満十六才以上
 - 一 癡疾ノモノハ身丈、年齢ニ拘ハラズ乙種トス
 - 一 第一項ノ馬匹ハ總テ牡馬トス
 - 一 馬匹ノ寸法ハ總テ曲尺トス
 - 一 現ニ駄馬ニ使用スルモ曾テ乘馬ナリシモノハ乘馬ト記シ其下ヘ朱字ヲ以テ駄馬ト記スヘシ
 - 一 馬匹年齢五歳ニ達シタルルハ身丈尺度等ニヨリ甲種トナリシ者ハ馬籍ニ編入シ並ニ十六歳ニ達シタルルハ乙種ニ編入シ馬籍ヲ除クヘシ
 - 一 里程ハ町村大字中央ヨリ松山營所迄ノ里程トス
- 第八様式 (第八條)

明治何年何郡(市)馬匹員數表

一月一日調

郡類 市別 名	牡馬合格		牡馬不合格		牝馬ノ部
	五歲以上 六歲未滿	五歲未滿	十六歲 以上	四尺三寸 未滿	
何市	乘馬一駄馬	乘馬一駄馬	乘馬一駄馬	乘馬一駄馬	乘馬一駄馬
何郡					
何郡					
備考					

凡例

- 一 乘馬駄馬ハ年齡五歲以上十六歲未滿ノ者ニシテ左ノ項目ニ適當スルモノヲ合格トシ其他ノモノヲ不合格トシ調査スヘシ 九年齡ハ生年ヲ一歲トシテ計算ス (例ハ明治廿三年十二月生ノ馬匹ハ廿七年一月一日調ニテ五歲トス)
- 一 但牝馬ハ合格不合格ヲ區別スルニ及ハス
- 一 乘馬ハ身幹四尺五寸(曲尺)以上ニシテ現在乘馬ニ役スルモノ又ハ曾テ乘馬ニ役セシモノヲ算入スヘシ
- 一 駄馬ハ身幹四尺三寸(曲尺)以上ニシテ現在駄馬ニ役スルモノ又ハ曾テ駄馬ニ役セシモノヲ算入スヘシ

役セシモノヲ算入スヘシ

但現在耕馬ニ役スルモノ又ハ耕馬ニ役セシモノハ本項駄馬ニ算入スヘシ

- 一 乘馬駄馬トモ年齡五歲以上十六歲未滿ニシテ身幹四尺三寸未滿ノモノハ不合格ノ末段其欄内ヘ記入スルモノトス
- 一 乘馬ノ屬具中和鞍洋鞍ヲ區別シ備考欄内ヘ一郡毎ニ其員數ヲ登記スヘシ

第六章 雜款

◎告第二號 (明治十七年一月八日)

人民ニ於テ軍人ニ對シ渾テ敬愛ノ意ヲ表スヘキハ勿論ニ有之候向後行軍演習及軍糧滯泊等ノ節宿泊其他需用品等所辦ニ付最敬禮信實ヲ盡シ決テ疎略ノ取扱等無之様一層注意可致此旨更ニ及告諭候事

◎丙第四十八號 (明治十七年五月廿八日)

在郷諸兵點呼召集ノ節ハ自今後處管内召集地ヘ主任書記ヲ派遣シ「帶駐在官」ト協議ヲ遂ケ諸事不都合無之様取計フヘシ此旨相達候事

◎丙第十六號 (明治十八年三月二十三日)

海軍々法會議ニ於テ刑ノ宣告アリタル時ハ其宣告書寫ヲ以テ主理ヨリ受刑者本籍

十八年丙第三十九號ヲ以テ「後備兵」ヲ「在郷諸兵」ト改

戸長へ通牒致來候所自今郡區長へ通牒之方ニ被相改候趣其筋ヨリ申來候條此旨相達候事

但本文ノ通牒ヲ受ケタルルハ其都度宣告書寫ヲ添へ當廳へ届出スヘシ
◎乙第二百二十五號 (明治十八年六月二十日)

各警察署分署 各郡町村

在郷兵ノ中陸軍懲罰例ニ照シ自宅禁足之處分ヲ受ケシ者アルルハ「戸長」ニ於テ之ヲ所轄警察署又ハ分署ニ移牒シ且ツ本人ニ對シ厚ク戒諭スヘシ若シ警察官又ハ「戸長」ニシテ其犯則者アルヲ認知シタルルハ直ニ之ヲ「郡ノ駐在官」ニ申報スヘシ此旨相達候事

二十三年法律第九十六號參看

◎乙第九十六號 (明治十九年五月廿九日)

各郡町村

歸休兵及豫備後備兵召集或ハ徵兵入營ノ節正當ノ事故ナク期日ニ後レ陸軍刑法第百七條ノ罪ヲ犯シタルルハ本人ノ復歸ヲ待タス普通治罪法第九十六條ニ據リ檢事若クハ司法警察官へ告發シ歸休兵及豫備后備兵ニ係ルモノハ其旨「郡駐在官」へ通報シ猶當廳へハ總テ届出スヘシ此旨相達候事

但明治十六年常廳内第七十三號達ハ自今廢止ス

○訓第一二二號 (明治二十年十月三日)

各郡役所

二十三年法律第九十六號ニ依リ普通治罪法消滅

二十年訓第一九六號參看

軍隊長途行軍若クハ對抗演習ノ際不毛地又ハ植物收穫後ノ耕地等ニ於テ臨機土工作業ヲ要スルトキハ該地戸長へ照會ノ手續ヲ經ス直チニ執行ノ場合モ可有之尤モ地面ハ演習後元地ニ復シ置クヘキハ勿論萬一植物又ハ地面ニ損害ヲ與ヘタルトキハ相當代價ヲ以テ賠償セラルヘキニ付豫テ「戸長」へ相達置クヘシ
◎告示第二百二十五號 (明治二十年十二月二十七日)

兵事會準則

第一條 兵事會ハ陸海軍人ヲ優待シ且兵役ノ重スヘキ義ヲ周知セシメ及兵役ニ服スヘキモノ、獎勵ヲ以テ目的トス

第二條 兵事會ノ區域ハ郡役所々轄内トス

第三條 兵事會ノ名稱ハ某郡兵事會ト稱スヘシ

第四條 兵事會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 會長 一名
- 一 理事 三名以上五名以下
- 一 委員 一町村五名以上十名以下

第五條 會長ハ本會ノ事務ヲ統括シ委員會ノ長トナル理事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ本會ノ庶務ヲ處理ス

委員ハ會員アル町村ニ置キ會長ノ指示ニ依リ本會ノ事務ヲ協議シ兼テ其町村ノ

事務ヲ幹旋ス

第六條 會長ハ委員ニ於テ會員中ヨリ之ヲ撰舉シ理事ハ會長之ヲ囑任ス

委員ハ其町村會員ノ公選ヲ以テ之ヲ選舉ス

第七條 左ノ各項ニ當ルモノハ兵事會員トナルヲ得ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレタル者

二 陸海軍ノ刑法ニ據リ處刑セラレタル者

三 破廉耻罪ヲ犯シタル者

第八條 委員常務ノ條項左ノ如シ

一 陸海軍諸生徒ノ誘導

二 現役志願者ノ誘導

三 召集ニ際シ其町村内兵員出發督勵

四 軍隊行軍演習ノ際接待

五 前項ノ外臨時ノ事項

第九條 委員會ニ於テ議定スヘキ規約ノ條項左ノ如シ

一 徵兵検査所往復旅費補給方法

二 徵兵入營及點呼召集ノ際旅費補給又ハ辨當料等贈給方法

三 現役若クハ召集中家族扶助ニ關スル方法

四 現役中公務ノ爲メ負傷若クハ疾病ニ罹リ免役セラレタル者ニ療養手當支給方法

五 現役者出發若クハ滿期歸郷ノ節送迎ニ關スル事項

六 現役滿期者酬勞及平素優待方法

七 現役若クハ召集中死没シタル者吊慰方法

二十年告示第百二十五號參看

○訓第一九六號 (明治廿年十二月廿七日)

郡役所「戸長役場」

本年達甲第四十號并ニ達甲第四十六號各町村兵事集談會員徽章及同會員提灯徽章

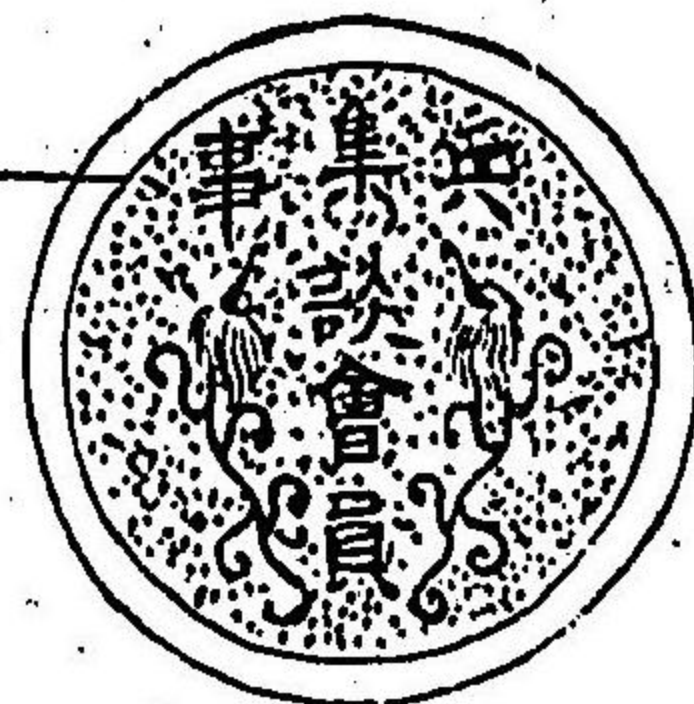
〔參照〕

達甲第四十號 (明治二十年三月十八日)

兵事集談會員徽章

地洋白
銀減金

表 圓形
裏 磨キ



寸半及寸
蚊龍共洋半形



寸半寸法隨意
字形必

使用心得

- 一 會員徽章ハ會員ノ資格ヲ以テ出張若クハ臨席スルキニ限り使用スルヲ得
 - 一 徽章ハ洋服ハ上衣第二鈕ノ處へ和服ハ羽織紐付ノ處へ付着スヘキモノトス
- 達甲第四十六號 (明治二十年三月二十八日)
兵事集談會員提灯徽章



使用心得

一 會員ノ提灯ハ會員ノ資格ヲ以テ出張スル場合ニ限り使用スルコトヲ得
○訓第一一六號 (明治廿二年七月二日)

郡役所「戸長役場」

豫備兵後備兵ヨリ大隊區司令官或ハ監視區長へ可差出諸願屆等郡役所又ハ縣廳ヲ經由セルモノハ本年達甲第十四號第一項ニ依リ「戸長」ハ郡長へ郡長ハ縣廳へ報告スヘシ

右訓令ス

○訓第四〇八號 (明治二十四年十一月二十七日)

郡役所 市役所

陸軍幼年學校生徒入校後身元財産ニ異動ヲ生スルコトアレハ減費ノ詮議ニ可相成義モ有之往々顯出候者有之趣ニ候間手續及調書類等區々相成以來右等之者有之節ハ身元保證人ヨリ最初志願セシキノ財産ニ異動ヲ生セシ事實并ニ物件金員等ヲ詳細記載シ從來ノ學資金額ヲ納ムル能ハサルノ理由ヲ記載シ町村長ヲ經テ郡長ニ差出シ(武官ニシテ現役ヨリ休職停職若クハ豫備後備ニ入タル爲メ財産ヲ減シタル如キハ常廳ヲ經サルモ妨ケナシ)郡市長ハ之ヲ査實シ常廳ニ差出スヘシ
但幼年學校條例第十七條ニ掲グル者ノ外官費ノ詮議ニ相成ラサル義ト心得ヘシ
右訓令ス

○三訓第二七三號

(明治廿七年七月廿八日)

今般陸軍省達第七十九號ヲ以テ陸軍士官適任證書附與規則定メラレ候處全則第五條左記ニ該當シ士官適任證書ヲ返還セシムヘキ事項ニ關シ陸軍官憲ヨリ調査ノ要求アルトキハ其求ニ應スヘシ
右訓令ス

各 郡
松山市

士官適任證書附與規則

第五條 士官適任證書ヲ所持スルモノニシテ豫備將校トナルヘキ品位ヲ傷フモノト認ムルトキ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ師團長又ハ屯田兵司令官其證書ノ返還ヲ命シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十八編 社寺

第一章 通規

◎坤第九十六號 (明治七年九月五日)

各「區々戸長」へ

今般別紙教部省第二十二號布達有之候ニ就テハ「區戸長」於テ原ク注意シ神官僧侶

タリトモ不立筋祈禱所念ハ勿論平民ニシテ禁厭祈禱等執計致候者有之候ハ、差留置其段可申出事

(別紙)

達書第二十二號

府 縣

別紙乙第三十三號ノ通神道諸宗管長へ相達候條向後禁厭祈禱ヲ以醫藥等差止メ政治ノ妨害ト相成候様ノ所業致候者有之候ハ、於地方官取締可致此旨相達候事

明治七年六月七日

教部大輔 穴 戸 璣

達書乙第三十三號

神道諸宗管長

禁厭祈禱等ノ儀ハ神道諸宗共人民ノ請求ニ應シ從來ノ傳法執行候ハ元ヨリ不苦筋候處問ニハ之レカ爲メ醫藥ヲ妨ケ湯藥ヲ止メ候向モ有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候抑教導職タル者右等貴重ノ人命ニ關シ衆庶ノ方向ヲモ誤ラセ候様ノ所業有之候テハ朝旨ニ乖戾シ政治ノ障礙ト相成甚以不都合ノ次第ニ候條向後心得違ノ者無之様屹度取締可致此旨相達候事

明治七年六月七日

教部大輔 穴 戸 璣

右之通布達相成候條區内無洩可觸示者也

◎乾第一百十四號 (明治九年八月廿八日)

二十二年法律第十
三號ヲ以テ地券廢
止

神社寺院へ氏子檀中ノ者ヨリ神酒料神供料及先祖祠堂金回向料等種々ノ名義ヲ以
寄附致置候山林田畑金穀等有之處寄附人或ハ他人ノ名受ニ致置又ハ金穀等世話人
講中等へ預ケ置候庶双方ヨリ証書取替シ不致候ヨリ轉免ノ際紛議ヲ生シ不都合不
勘候條自今勸達ハ預ケ主預リ主共相互ニ確証取替シ不動産ハ地券狀受取後日紛議
無之様致置可申此段爲心得神官僧侶ノ者へ布達候事

○丙第七十二號 (明治十年十二月六日)

說教執行ノ節「區務所」へ願出候者有之候處自今出願ニ不及其都度該所へ届出可申
此段神官僧侶へ布達候事

十五年乙第百號參
看

○甲第四號 (明治十一年一月廿四日)

社寺境内樹木ノ義ハ去ル六年第二百三十五號公布ノ通ニ候得共社寺ノ私有タル確
証之アル有稅地ニ係ルモノ及ヒ氏子檀家等ニテ買得シタル確証之アル有稅地ニ係
ルモノニ限リ該社寺餘儀ナキ入用之レアリ伐木致度節ハ其所有主ヨリ其事故管轄
廳へ申立事實取組相違ナキニ於テハ開届夕へキ旨七年十一月内務省甲第三十四號
ヲ以テ達之アリ爾後右様ノ向ハ往々開届來候得共凡ソ樹木ハ社寺境内ノ風致ニ關
シ且古昔ヨリ古社等ヲ認メ得ルハ喬木アルノ謂ニシテ社殿ノ宏麗ニヨルニアラス
然ルナ一朝ノ識ニ之ヲ倒シ重子テ之ヲ得ンコト欲スルモ數百年ノ星霜ヲ經サレハ
假令千萬金ヲ投ツト雖及ハサルヘシ茲ヲ以今後右等ノ願ヲ爲サント欲スルモノ
ハ先氏子檀家一同へ厚ク協議ヲ遂ケ事實何分餘義ナキ次第ヲ除クノ外ハ成ヘク保

存候様致スヘク此段神官僧侶初一般へ告諭候事

○甲第九十一號 (明治十二年六月九日)

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月公布之趣モ有之候處右公布
前神殿佛堂ニ粧飾シタル分ニ限リ其儘存置シ苦シカラス旨今般公達ノ趣モ有之候
條此段神官僧侶へ布達候事

○甲第二百十九號 (明治十二年十二月六日)

社寺ノ維持ヲ始メ神官住職ノ給料及祭典費等町村會議ニ附シ往々決議上申スルア
リ右ハ全ク町村ノ公費ニアラスシテ總テ神官住職及ヒ氏子檀家信徒等ノ協議ニ任
スヘキ筈ニ付自今右會議ニ於テ議スヘカラサル條款ト可相心得此段布達候事
但本文ニ觸レル達指令ハ總テ廢止タルヘシ

○乙第二百三十一號 (明治十二年七月廿四日)

各都町村

管下神社寺院及ヒ遙拜所招魂社祖靈社明細帳調製候條左ノ通相心得本年六月三十
日ノ現況ヲ以テ別紙書式ニ照準シ各町村ニ於テ取調來ル九月三十日迄ニ郡役所へ
差出シ同所ニ於テハ一郡毎ニ調製シ十月卅日限リ當廳へ差出スヘシ此段相達候事

明細帳取調心得

一 明細帳ハ神社寺院境外遙拜所招魂社祖靈社ノ五種ニ分チ每郡各冊ニ編製シ表
紙ニ何國何郡(神社寺院)明細帳ト署記ス(一郡ニシテ二冊以上ナル者ハ明細帳

十三年丙第百五十
一號參看
十五年乙第百三十
二號ヲ以テ境外遙
拜所招魂社祖靈社
書式廢止

幾冊ノ内ト記スヘシ一冊内ハ町村ヲ以テ次叙シ同町村内ノ神社ハ社格寺院ハ宗派ヲ以テ區別シ日冊首ニ町村名目錄ヲ附シ冊尾ニ總計(社數或ハ寺數等)ヲ掲ケ次ニ郡長記名調印スヘシ

一 用紙ハ美濃十三行界紙ヲ用ヒ一社寺毎ニ各紙ニ相認ムヘシ

一 但攝末社ノ名義ヲ問ハス神社境外ニ在ル者ハ總テ一社トシ各紙ニ認ムヘシ

一 國幣社並同境内神社(社格ノ有無ヲ問ハス)取調ニ及ハス

一 山野路傍存置ノ神祠(十年當縣乙第七十二號達ニ依リ伺出許可ヲ請ケタル者)並衆庶參拜ヲ許可セシ人民私邸内ノ神祠ハ並一社トシ其神社境内へ移轉セシ者ハ境内神社ノ項下ニ記スヘシ

一 遙拜所招魂社祖靈社並寺院ノ別院支坊末庵等ハ公許共有ニ係ル者ノミヲ取調フヘシ

一 但官祭招魂社並建物無之遙拜所ハ記載ニ及ハス

一 由緒ハ創立公稱廢合再興復回移轉及ヒ社格等許可ノ年月並該社寺ニ關スル緣由沿革ヲ詳記スヘシ

一 社地境内地ノ社寺名受ケニ非ル者ハ名受人ノ姓名私有共有ノ別ヲ地種ノ下ニ登記スヘシ

一 社寺境内社堂外ノ建物(教院ノ類)アラハ社堂間數ノ次ニ並へ舉クヘシ

一 祭神由緒不詳ト雖モ古老ノ口碑等ニ存スル者ハ其旨ヲ記シ境内遙拜所等無之

者ハ其項ヲ除クヘシ

一 社寺ニ氏子檀徒無之向ハ信徒(講中ノ類)ノ人員ヲ記スヘシ

一 明細帳取調濟ノ後郡役所限リ處分セシ事件ニシテ明細帳改正シ亦ハ記入スヘキ者ハ毎月末取纏メ當廳へ届出ツヘシ

朱書(神社明細帳書式)

何(府縣)管下何國何郡何(町村)字何

社 格 何

某 神 社

- 一 祭神
- 一 由緒
- 一 社殿間數
- 一 境内坪數並地種
- 一 境内神社幾社
- 一 某神社
- 一 祭神
- 一 由緒
- 一 建物
- 一 境内某遙拜所

十五年乙卯第三百三十
二號ヲ以テ神官ノ
項追加

- 一 由緒 建物
- 一 境內招魂社 由緒 建物
- 一 境內祖靈社 由緒 建物
- 一 共有人員
- 一 境外所有地
 - 耕地段別 何(町村)字何
 - 地價金額
 - 山林段別 何(町村)字何
 - 地價金額
 - 宅地段別 何(町村)字何
 - 地價金額
- 一 氏子戶數
- 一 神官

- 一 管轄廳迄ノ距離里數 以上
- 朱書(寺院明細帳書式)
- 何(府縣)管下何國何郡何(町村)字何
- 總本山或ハ本寺又ハ某末寺
- 某 寺
- 何宗何派
- 本尊
- 由緒
- 堂宇間數
- 境內坪數並地種
- 境內佛堂幾宇
- 某堂
- 本尊
- 由緒
- 建物
- 境內庵室幾宇
- 某庵

十五年乙第百三十
二號ヲ以テ住職ノ
項追加
十四年乙第百三十
六號參看

- 一 本尊
- 一 由緒
- 一 建物
- 一 境外所有地
- 一 耕地段別
- 一 地價金額
- 一 山林段別
- 一 地價金額
- 一 宅地段別
- 一 地價金額
- 一 檀徒人員
- 一 住職
- 一 管轄廳迄ノ距離里數
- 以上

◎乙第百號 (明治十三年九月廿四日)

各郡町村

社寺及ヒ佛堂創建並ニ再興セント欲スルハ維持方法及ヒ建物坪數等(社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏佛堂ハ堂宇方六尺以上)ヲ詳記シ圖面並ニ明細書(明治十二年

本縣乙第百卅一號達誓式ニ依ル)相添願出候様可取計此段相達候事
◎丙第百五十一號 (明治十三年九月廿九日)

各郡

客年乙第百三十一號ヲ以テ相達候社寺明細帳取調心得第十一項ニ依リ郡役所限處分セシ事件ニシテ該帳改正亦ハ記入スヘキ者ハ毎月末取纏メ當廳へ可届出答ニ候處兎角時日遷延ニ及ヒ其筋エ届出差問候條必期日ヲ誤ラサル様取纏メ可差出此段重テ相達候事

◎乙第百三十六號 (明治十四年十月十四日)

各郡町村

社寺及ヒ佛堂創立再興復舊并境内神社佛堂境外へ移轉(再興ハ嘗テ廢セシモノヲ再ヒ建設スルヲ云フ復舊ハ嘗テ合併セシモノヲ舊ニ復シ獨立スルノ類ヲ云フ)等出願候節ハ明治十三年乙第百號達ニ基キ自今左ノ手續ニ依リ取調可爲差出此段相達候事

但本文ニ觸レル達ハ總テ廢止タルヘシ

- 一 社寺及ヒ佛堂創立等ハ(民有地ニ建設スルモノ)神官住職氏子檀徒若クハ信徒ト爲ルヘキモノ(寺院ハ本寺法類トモ)連署スルコト
- 一 但佛堂ノ如キハ本寺法類之ナキニ付受持僧侶并信徒總代連署スヘシ
- 一 社寺及ヒ佛堂創立等ヲ要スル理由并建設後施行ノ目的但再興復舊ハ當初廢絶

或ハ合併等ノ年月日并其手續詳記スヘシ

一 社殿堂宇諸建物模様ヲ詳記セル繪圖面并目論見仕様書ヲ添附スル

一 永續資本ノ財産(不動産等ノ細目買數ヲ詳記スヘシ)并發願者(則爾後該社寺等一切ノ事ニ關係スヘキモノ)ノ總人員記載スヘシ

一 社寺氏子檀徒或ハ信徒ノ人員ヲ登記シ其内相應財産ヲ有スル戸主ノ人員ヲ内譯ニ記スヘシ

一 境内地社寺及ヒ佛堂ノ名受若クハ人民共有名受ノ別明記スヘシ

◎乙第百號 (明治十五年八月卅日)

各郡町村

社寺境内樹木伐採ノ儀ハ明治六年第二百三十五號公布并十一年本縣甲第四號告諭ノ趣有之候處近來修繕ノ爲メ多分ノ村木願出候向モ有之然ルニ社寺境内ハ修繕用材培植ノ地ニ無之數百年來ノ古木一朝地ヲ拂ヒ遂ニ風致ヲ毀損スル向モ不少候條自今請願ノ節ハ不得止分ニ限り別紙條規ニ照シ取扱候條右廉々調査ノ上可爲願出此段相達候事

(別紙)

社寺境内伐木取扱概則

第一條 社寺境内木ヲ五類ニ分チ風致木(目通寸間ニ拘ラス)ヲ第一類トシ通り一丈以上ヲ第二類トシ同五尺以上ヲ第三類トシ同一尺以上ヲ第四類トシ同一尺未

滿ヲ第五類トス

第二條 第一類第三類ノ木ハ伐採ヲ許サス

第三條 第三類ハ總木數十分ノ一(十本ニ付一本)第四類ハ同十分ノ二(十本ニ付二本)以內伐採ヲ許スアルヘシ

第四條 第五類ハ別ニ分通ヲ定メス生立ノ爲メ拔伐外伐採ヲ許サ、ルモノトス

第五條 社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏ノ造修用材ニ限り第三條ニ據ルモノトス

但必ス仕様書具申セシム

◎乙第百三十二號 (明治十五年十一月廿日)

各郡町村

管内神社寺院等創立再興復舊許可ノ分ハ今後滿二年以内ニ建設セシムヘシ其建物巨大ニシテ工事數年ニ涉ルヘキ者ハ更ニ狀ヲ具シ出願許可ヲ受クル者トス其他在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スルモノハ滿五年ニ再建セシメ何レモ其都度可届出若シ右期限ヲ過キ建設セサル者ハ一面許可ヲ停メ一面社寺明細帳ヲ削除スヘキ筈ニ付更ニ届出候儀ト可心得此段相達候事

但十二年本縣乙第二百三十一號達社寺明細書式中神官住職ノ項ヲ加ヘ且境外遙拜所招魂社祖靈社ノ書式ヲ廢シ都テ社寺書式ニ據リ取調フヘシ

◎甲第百五十號 (明治十七年九月六日)

有租地中ノ各地目へ包含スル種類變換届出方ノ義本年甲第四百四十二號ヲ以テ布達

二十五年縣令第四十四號
十八年甲第四十七號
十七年甲

第四百二十二號改正
第二百五號令第四
十五年以テ十八
年甲第四十七號廢
止
十八年乙第二百
八號令乙第二百
十六號令乙第二百
令第四號參看

二十一年訓第一五
八號參看

候處社寺境内及堂宇敷地等ニ係ル分ハ其都度出願許可ノ上其手續ヲ爲スヘシ
右布達候事

◎乙第九十號 (明治十七年十一月廿日)
各郡町村

祠宇並寺院創立再興復舊引直移轉廢合及ヒ附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他寶物
古文書等財産ニ關スル諸願ハ(寺院ハ本寺法類連署)管長ノ添書ヲ要スヘシ此旨相
達候事

◎甲第三百十四號 (明治十七年十二月二十六日)

社寺寶物古文書目錄帳中記載ノ物品ハ明治十年第四十三號公布之通金穀貸借等ノ
抵當ト爲スヘカラサル筋ニ有之依テ自今社寺ニ於テ如シ不得止義有之右物品ノ之
外地所(除稅地ヲ除ク)建物什物等抵當トナサント欲スルハ氏子檀家協議ノ書面
ヲ以テ當廳ヘ可願出尤目錄帳ヘ記載セスト雖モ該社寺別段ノ由緒アル地所建物等
ハ寶物古文書ニ準スヘク且社寺ノ物件不得止義有之處分ノ節ハ明治六年第二百四
十九號公布之通心得ヘシ

但シ從前之布達指令等本文ニ抵觸スル廉ハ渾テ取消ス
右布達候事

◎乙第二百二十六號 (明治十八年十二月二十八日)

各郡町村

二十二年訓令第四
號參看

十九年丙第六十五
號參看

明治十七年(十一月)本縣乙第九十號達ハ官有地ニ係ル境内ノ異動及伐木等ノ願
モ該達ニ準シ管長添書ヲ要スル義ニ有之候條爲心得此旨相達候事

◎甲第九十七號 (明治十九年七月廿一日)

官有社寺境内地貸下料本年度ヨリ國幣社ハ苗木植繼費其他ハ營繕費トシテ其社寺
へ下渡候條所轄郡役所へ請求スヘシ
右布達候事

◎丙第六十五號 (明治十九年七月廿一日)

各 郡

本年甲第九十七號ヲ以テ官有社寺境内地貸下料下渡ノ義布達候ニ付テハ該下渡料
ハ郡役所へ徵收シ其社寺ノ請求ニ據リ下渡スヘシ此旨相達候事

◎縣令第九十七號 (明治二十年十一月十二日)

社寺ニシテ若シ其社殿堂宇等祭祀法用ニ必要ナル部分公賣處分ヲ受タル場合ニ於
テハ該處分ノ日ヨリ百日以內ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院ハ管長副書ヲ以
テ届出ルモノニ限リ建築ノ爲メ滿二ケ年間ノ猶豫ヲ與フヘシ其百日ヲ經テ再建ノ
方法ヲ不申出又ハ滿二ケ年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ刪除ス

○訓第五二號 (明治廿一年三月八日)

宇 摩 郡 役 所 新居周布桑村郡役所
越智野間郡役所 上浮穴郡役所

下浮穴伊豫郡役所 喜多郡役所
西宇和郡役所 南宇和北宇和郡役所

社寺寶物取締ノ義ハ豫テ其筋ヨリ商議ノ旨モ有之且方今本邦ノ古美術品ハ汎ク世界ニ貴重セラル、ノ世運ニ際シ自然不取締ノ向有之テハ不相濟義ニ付臨時本廳吏員ヲ派出シ監査セシノ保存方取締ノ爲メ該寶物ノ害ナキ餘地ハ適宜檢印又ハ貼紙等致サセ候義モ可有之候條派出員ヨリ監査請求ノ節ハ不都合無之様其社寺へ通達方取計ヘシ

右訓令ス
○訓第一五八號 (明治廿一年九月八日)

郡役所 「戸長役場」

縣社以下ノ神社及寺院ノ寶物什器取締ノ義ニ付テハ明治十年乙等二百一號及同十二年乙第百五十三號ヲ以テ夫々相達置候處近年本邦ノ古美術品ハ汎ク海外ニ尊重セラル、時運ニ際シ候ニ付一層鄭重ニ保存セサルヘカラス萬一其取締方周到ナラス物品散逸等致候テハ不相成義ニ付尙左ノ各項ニ據リ取締且保存致候様各社寺及氏子檀家惣代ヘ示達スヘシ

右訓令ス
一 寶物什器ノ牒簿ハ明治十二年本縣乙第百七十號達書式ニ據リ寶物什物ヲ區別調製シ神官住職等ノ私有物品ト混淆紛雜セサルヲ要ス

一 寶物及什器ハ毎年夏季ニ於テ一回氏子惣代又ハ檀家惣代信徒等二名以上及「戸長」立會處干ナシ破損ノ分ハ修補ヲ加ヘ每個牒簿ニ照ラシテ調査スヘシ
一 前項調査濟ノ上ハ調査濟ノ證明書ヲ作り立會人ハ之ニ調印シ牒簿ニ添付保存スヘシ

〔參照〕

乙第百七十號 (明治十二年六月九日)

書式 用紙白美濃

某(神社寺院)寶物古器物古文書目錄

一 緣起書

幾 卷

一 撰者及筆者ノ姓名並ニ其年月ヲ記ス

一 文 書

幾 通

百年以上若クハ名家ノ筆ニ係ルモノニテ文書ト稱スヘキ者ハ一々其目ヲ掲ケ撰者筆者年月寄附人并傳來ノ所由ヲ記ス(以下扁額ニ至ル迄記載方皆之ニ準ス)

一 書 畫 或ハ繪卷物

幾 幅 或ハ幾卷

一 絹地紙地彩色墨畫等ノ別ヲ記シ繪詞等記載方都テ前ニ準ス

一 寫 本 或ハ寫經

幾 本

格外貴重ナルモノハ行數紙數等ヲモ詳細ニ記載スヘシ

- 一 扁額 一面
- 寸法ヲモ記ス
- 一 棟札 一枚
- 年月及ヒ人名ヲ記ス
- 一 鏡 一面
- 銘(若クハ無銘) 寸法 形 銘文 重量 年月寄附人傳來ノ所由等ヲ記ス
(以下記載方皆之ニ準ス)
- 一 鈴 一箇
- 一 劍 一口
- 燒刃裝具ノ地金模様(銘アラハ銘)等ヲモ記ス
- 一 古金 一枚
- 一 古錢 一枚
- 一 古印 一顆
- 印文 鈕 形等ヲモ記ス
- 一 甲冑 一副
- 札威シ毛等ヲモ記ス
- 一 琴 一張
- 一 笛 一管

此他古書籍(百年以上若クハ名家ノ筆ニ係ルモノ)古法帖(明朝摺以上ニ係ルモノ)武器文具樂器珠玉石劍等ニ至ル迄各部ヲ分チ類ヲ推シ書式ニ照ラシテ記載スヘシ且其金銀銅器ニ係ルモノハ其重量等詳細ニ記センヲ要ス

◎訓令第四號 (明治二十二年一月二十九日)

郡役所 「戸長役場」

明治十八年本縣乙第二百二十六號達中祠宇並寺院境内障礙木伐採願ニ限リ自今本寺法類運署及管長ノ添書ヲ要セス

◎訓第二七九號 (明治二十四年六月三日)

郡役所 市役所

一 社寺境内ノ枯損木下渡シ及其境内地賃下料金下付方ノ義ハ渾テ從前ノ通取扱フヘシ
但自今祭典ニ際シ一時使用スルモノハ其社寺ニ於テ之ヲ許可シ別段出願セシムルニ及ハス尤許可シタル片ハ其都度顛末ヲ詳記シ該社寺ヨリ當廳ヘ届出サスヘシ

一 前項ニ對スル收益ハ其社寺ノ收入ニ屬セシムルヲ以テ其收入財産ハ明治十四年本縣甲第五百一十一號布達ニ依リ整理可致様執計フヘシ
但國幣社ハ該布達ニ依リ整理セシムルノ限ニ非ラス

◎縣令第三十二號 (明治二十四年六月十三日)

二十四年訓第四三一號添書

- 社寺總代人及收入財産取扱規程左ノ通之ヲ定ム
但明治十四年(八月)本縣甲第百五十一號布達ハ廢止ス
- 一 社寺總代人及收入財産取扱規程
- 一 社寺總代人ハ三名以上トス
- 一 社寺總代人ハ氏子檀家中ニ於テ(氏子檀家ナキモノハ信徒)相應ノ財産ヲ有スルモノヲ互撰スベシ
- 三 社寺總代人定マリタルトキハ神官住職并ニ前總代人連署ヲ以テ市町村役場へ届出ヘシ
- 四 社寺總代人ハ該社寺ノ願届等ハ渾テ連署スヘシ
- 五 社寺總代人ハ滿三年毎ニ改撰ス期限中ト雖モ犯罪其他不良ノ行爲アルトキハ臨時改撰スヘシ
- 六 臨時改撰ノ外ハ前總代人再三當撰スルモ妨ケナシ
- 七 社寺收入財産(田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱葬儀回向料等一切ノ受納物ヲ云フ)其社寺有ト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約ヲ定メ平素混亂セサル様注意スヘシ
- 八 官國幣社ハ前數項ニ依ルノ限ニアラス
- 訓第四三一號 (明治二十四年十二月二十一日)

市役所 町村役場

社寺總代人等ノ儀ニ就テハ本年(六月)縣令第三十二號ノ旨モ有之候處該總代人ニ關シ尙ホ左ノ通心得ヘシ

社寺總代人ノ員數ハ三名以上ノ成規ナリト雖モ徒ニ多數ノ總代人ヲ設置シ之レカ爲メ事務ヲ澁滞セシムル等ノ弊害アリト見認ムルトキハ其社寺ノ狀況ニ從ヒ氏子檀家信徒ノ多寡ヲ計リ三名以上ニ於テ適宜總代人ノ員數ヲ指定スルコトヲ得

社寺總代人ハ其社寺ノ願届等ニ連署シ神官住職ト常ニ心ヲ協セ該社寺ノ永續保護ニ盡カスヘキハ勿論ナレモ社寺ノ實務ハ神官住職ノ職任ナルニ依リ總代人ハ神官住職ニ干渉シ社寺ノ實務ヲ妨ケ社寺收入財産ヲ妄リニ他ニ使用スル等ノ所爲アラシムヘカラス

右訓令ス

第二章 神社及神官

◎乾第九十四號 (明治七年九月十五日)

神事祭典等ノ節神明渡御ノ儀衛行列正シカラス就中種々ノ惡弊有之ニ付舊縣々以來度々相達候得共今以依然舊體ヲ不改向モ有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候方今敬神ノ御主意ヲ奉體シ社頭傳來ノ古格ヲ正シ聊モ猥リケ間敷儀無之様厚ク相心得可申此段布達候事

但舊松山縣管下神興ノ儀一般白木造リノ旨相達置候處詮議ノ筋有之取消候得共

九年乾第百十七號
十一年甲第百二十號
九號十七年乙第百二十號
六十二號二十三年
九月二十九日告諭

改作等ノ節ハ漸次小形ニ相造リ與テ數人ニ及ハサル様可致事

◎乾第百二十六號 (明治八年九月十四日)

先般教部省達書第十八號ヲ以テ府縣社以下祠官掌進退ノ儀布達候處中ニハ右布達ヲ名トシ目今社頭奉務及教儀等失体無之勤仕罷在候神官ヲ退ケ后任撰舉ノ儀申立候向モ儘有之右ハ全ク氏子共私心愛憎ヲ以テ無故進退致候ニ相當リ不都合候條總テ寺院住職進退同一ニ相心得退隱病死轉免或ハ不得止事故有之候節后任撰舉候儀ハ必定布達ノ通氏子信仰ニ依テ申稟候義ト可相心得此段布達候事

◎乾第百三十號 (明治八年九月二十五日)

各神社大祭年々日合ヲ異ニ致候テハ氏子共迷惑ヲ生シ甚不都合ニ付明年ヨリハ必永年不變ノ日合氏子協議ノ上決定致可届出候此段神官ノ輩へ布達候事

◎乾第百十七號 (明治九年九月六日)

神社祭典神輿渡御ノ儀ニ就テハ七年九月乾第九十四號布達ノ趣モ有之候處中ニハ今以舊慣ヲ不脱神輿ヲ以テ門戸ヲ毀傷シ或ハ庇障ヲ破壞致シ候様ノ向モ有之趣相開候右ハ第一敬神ノ御主意ニ悖戻シ以テ外ノ事ニ候仍テ自今神輿昇輿丁ハ雇夫ニテ必ス四五名ヨリ七八名ヲ限リ儀衛行列ヲ嚴肅シ聊モ隈リケ間敷儀無之様可致此段布達候事

◎坤第百四十二號 (明治九年十二月十四日)

各區々戶長

十九年太政官布達
第十九號ニヨリ任
職選舉ノ廢消滅

十一年甲第百二十
九號十七年乙第百
六十二號二十三年
九月二十九日告諭
參看

縣社以下祠官掌任免ノ節社務受渡規則別紙ノ通相定候條「區」内神官へ無漏可相達此段相達候事

(別紙)

縣社鄉村社

祠官
祠掌

縣鄉村社共祠官掌任免ノ節引渡條件別紙之通相定候條無遺漏授受可致此段相達候事

(明治九年十二月十四日)

(別紙)

社務受渡規則

第一條 各社祠官掌交替ノ節ハ一社仕來并ニ社務取扱ニ關スル一切ノ事件明細廉書ヲ以テ申繼クヘシ

第二條 傳來ノ寶物什器古文書及一切ノ圖書簿冊寄附金山林田畑等詳明取調帳簿ヲ以テ新任官掌へ引渡シ互ニ授受ノ證書ヲ交附スヘシ
但授受ノ際萬一缺損等ノ物品有之目錄ニ引合サル分ハ其事故詳明記載シ縣廳へ届出ノ上目錄へ其譯記入スヘシ

第三條 一社蓄積金穀及社入賽物等ハ出納ヲ精算シ簿冊相添授受スヘシ

第四條 受渡相濟候ハ、新舊官掌氏子總代連印ヲ以テ諸帳簿相添届出ヘシ

引渡圖書簿冊ノ概目

但左ニ掲クル所ノ目ニ倣ヒ各社ノ便宜ヲ以テ平素精密ニ書類補置錯雜ナキヲ要ス

一 祭神記

一 鎮坐記

一 祭書類

一 附設年中行事録ノ類

一 境内全圖

一 社地沿革圖

一 寶物什器古文書々々籍簿

一 山林田畑反別帳

一 但繪圖地券并立本モ記スヘシ

一 社蓄積金明細帳

一 他へ貸付置候向ハ貸付帳其他證券等ヲ添フヘシ

一 攝末社明細帳

一 社頭願伺届留

一 附リ社務日記ノ類

一 一社へ係ル布達々書類

一 氏子戸數簿

但各郡村ニ涉ルモノハ何郡何村ニ何戸ト記載スヘシ

◎甲第百廿五號 (明治十年十月十一日)

凡ソ神事ハ御國典ニ於テ輕カラサル義ニツキ諸社大小ノ祭典成ヘク古來ヨリノ定日ヲ變更致スヘカラサルハ論ヲ俟スト雖モ改曆ノ後氣節ノ爽違スルヨリ農事ノ都合有之止ムヲ得スシテ伸縮スルモノ少ナカラス右ハ是迄縣廳ノ許可ヲ得テ執行致シ來ルニ處自今縣社以下神官ト氏子ノ協議ニ信從セシメ候條若シ變更候節ハ前以大小区務所及ヒ最寄警察署へ可届出義ト相心得ヘク此段布達候事

◎甲第三十九號 (明治十二年三月廿八日)

諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀ノ儀ニ付明治九年(七月)舊教部省甲第五號ヲ以テ神宮並官國幣社へ相達置候處右ハ府縣社以下モ同様專ラ古代ノ裝飾ニ倣シ神輿ニ供奉致來候舊例有之候向ハ其人員ノ供奉中限リ帶刀不苦尤其都度可爲届出旨今度内務省ヨリ達シ相成候此段縣社以下神官へ布達候事
但普通祭服着用ノ者帶刀不相成義ハ勿論タルヘク尤本文帶刀致候向ハ最寄警察署へ可届出事

◎甲第百二十九號 (明治十一年十月廿六日)

明治九年九月乾第百十七號ヲ以テ神社祭典神輿渡御ノ節儀衛行列ノ儀ニ付布達及

ヒ置候次第モ有之處右祭典ノ節獅子舞或ハ太鼓等ヲ奉納シ其際氏子中ノ者共往々
爭論ヲ起シ爲メニ怪我人之アリ甚シキニ到テハ巡查或ハ「區戸長」等ニ抵抗シ粗暴
ノ舉動ニ及フモノ間々有之第一敬神ノ主意ニ悖戾シ不都合候條自今獅子遣ヒ或ハ
太鼓等奉納セント欲スルハ氏子ト同協議ヲ遂ケ左ノ離形通ノ誓書最寄警察署若
クハ分署へ前以テ差出置キ后奉納可致而ノ尙粗暴ノ舉動有之ニ於テハ其行舉人ヲ
相當ノ處分ニ及ヘクハ勿論其氏子ニ限リ將來右奉納ノ儀差止メ候條此段布達候事
(誓書離形)

御受

來ル何月何日何國何郡何村何社祭典ノ節獅子遣ヒ或ハ太鼓臺等奉納致度就テハ氏
子一同協議ノ上粗暴ノ舉動ハ勿論聊モ爭論等致間敷如シ之レニ違背仕候ハ當日
ハ勿論將來御差止メ相成候トモ一切苦情申立問敷依テ連署ヲ以此段上申仕置候也

何郡何村總代

何 某 印

氏子總代

何 某 印

何社祠官又ハ祠掌

十七年太政官布達
第十九號ニヨリ付
照ノ取消滅

「縣令」宛

何 某 印

◎甲第八十一號 (明治十二年五月三十一日)

神官及ヒ住職選舉ノ件ハ當人承諾ヲ証スル爲メ連署ヲ要シ願出受命ノ者ハ進退ハ
神官ハ神道事務局分局住職ハ該宗取締或ハ組長へ直チニ届出ツヘシ此段布達候事
◎乙第四百號 (明治十二年十一月廿八日)

各郡町村

本年第四十五號公達ノ趣モ有之ニヨリ自今後府縣社以下神官進退ノ節辭令書交附
ノ儀相廢止願書へ及指令候條其旨相心得豫テ右神社へ告示可致置此段相達候事
◎庶第一七八〇三號 (明治十四年十月二十八日)

各 郡

國幣社神官ヲシテ縣社以下祠官掌兼務セシムル願ハ委任外ニ有之然ルヲ郡長於テ
直チニ聞届候向モ有之趣不都合ニ候條自今右等ノ義無之様注意致スヘク此段爲念
相達候事

◎甲第三百三十號 (明治十五年五月廿三日)

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ
猥リニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得止場合有之甲社ノ氏子一
部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署ヲ以テ可届出此
段布達候事

◎甲第二百五五號 (明治十五年九月十六日)

今般皇典講究所設置ニ付府縣社以下神官選舉ノ節該所ノ卒業證書無之者ハ皇典講究所本分所ノ試験ヲ受サセ試験濟ノ證書ヲ相渡候筈ニ付今後選舉出願ノ向ハ該所卒業證書寫若クハ試験濟ノ證書ヲ副へ可願出此段布達候事

◎甲第二百四十八號 (明治十五年十二月九日)

縣社以下神社附屬ノ講社ニシテ教法部類ニ非ルモノ今後新ニ結集スルモノハ當廳へ可願出此段神官へ布達候事

◎乙第六百六十二號 (明治十七年十月一日)

各郡町村
各警察署

神社祭典神輿渡御ノ義ニ就テハ明治九年本縣乾第百十七號布達ノ趣モ有之候處近來中ニハ多人數打寄り神輿ヲ昇シ剩へ門戸ヲ破壞セシムル等ノ舉動有之趣右ハ第一敬神ノ道ヲ失スルノミナラス豫テ布達ノ旨趣ニ悖戻シ不都合ノ次第ニ候條決シテ右等ノ義無之様神官氏子へモ屹度申聞尙取締向精々注意可致此旨相達候事

◎達丙第九一〇號 (明治二十年四月六日)

本社保存ノ爲メ明治二十年度以降十五年間左ノ金員ヲ配付ス
但從前ノ經費及ヒ官費營繕ハ十九年度限り廢ス

大山祇神社

前書中讀岐國二屬ノル分ハ省之

前書中讀岐國二屬ノル分ハ省之

一金千四拾壹圓

◎達丙第一二六二號 (明治二十年五月四日)

其社神職俸給旅費左表ノ通相定メ本年四月ヨリ支給スヘシ
但神職補任ノ節ハ俸給日割テ以給シ免職ノ節ハ全月分ヲ支給ス

大山祇神社

月俸額	旅費	區別		額
		瀨車賃	船賃	
宮司 金九圓	一哩每三二海里每二一里每二二日每二	管外車馬管內車馬管外日當管內日當		
禰宜 金六圓	司六	錢六	錢拾四	錢八
主典 金五圓	禰宜六	錢六	錢八	錢九拾
	主典六	錢六	錢八	錢七拾
		錢八	錢六	錢七拾
		錢六	錢七拾	錢五拾

○訓第七〇號 (明治二十年五月六日)

神職心得及ヒ社務取扱事項左ノ通心得ヘシ
一 神職ハ其神社所在ノ地ニ在籍スヘシ
一 主典欠員アルハ一社ヲ限リ雇員ヲ使用スルヲ得
一 保存金受拂及ヒ社入金受拂精算帳并ニ非常豫備金及ヒ蓄積金ノ異動ハ一周年度ヲ以テ各別帳ニ製シ毎年四月五日限差出スヘシ
右訓令ス

二十一年訓第九四號ヲ以テ未項改正
同第九四號ヲ以テ再ヒ改正

前書中讀岐國ニ屬スル分ハ省之

宮司宛

○達丙第一二五〇號 (明治二十年五月三日)

大山祇神社

非常豫備金積立方法及社入金遺拂規程自今左ノ通心得ヘシ

非常豫備金積立方法

- 一 社入金總額一ヶ月五拾圓以上ノ向ハ左ノ割合ヲ以テ毎月引去之ヲ一社ノ非常豫備トスヘシ尤通常遺拂ヲ許サス
- 但社入金一ヶ月五拾圓未滿ハ本文ノ限ニ非スト雖モ一社ノ都合ヲ以可成的積置ヘシ

一 五拾圓以上六拾圓未滿 百分ノ一

但六拾圓以上百圓未滿ハ拾圓毎ニ一步ヲ増ス

一 百圓以上貳百圓未滿 百分ノ七

但貳百圓以上千圓未滿ハ百圓毎ニ一分ヲ増ス

一 千圓以上貳千圓未滿 百分ノ十七

但貳千圓以上ハ千圓毎ニ一分ヲ増ス

社入金遺拂規程

- 一 社入金總額ノ内豫備金ヲ引去タル殘金ヲ以テ左ノ割合ニ據リ支出スヘシ
- 一 金高十分ノ五 社費

前書中讀岐國ニ屬スル分ハ省之

大山祇神社

但社中祭典其他諸費並神職ノ俸給及ヒ守札製造等ノ費用ニ充ツ

一 金高十分ノ四 營繕費

但境內營繕費ニ充ツ

一 金高十分ノ一 分配金

但一社宮司以下適宜配分スヘキモノトス

○達丙第一五九二號 (明治二十年六月三十日)

其社從前官營ニ屬スル箇所ニ對シ金品(物品ハ價格ヲ付ス)寄附候者有之節ハ自今其都度届出ツヘシ

○告諭 (明治廿三年九月廿九日)

神社祭典神輿渡御ノ儀ニ就テハ明治九年乾第百十七號ヲ以及布達置候得共今以從前ノ惡習ヲ脱セス爲メニ其儀衛行列ヲ亂スノミナラス神輿ヲ以テ他人ノ門戸ヲ毀傷シ或ハ庇障ヲ破壞シ若クハ人家ニ亂入スル等頗ル不穩ノ舉動ヲ爲ス者有之趣ニ相聞ヘ候處右ハ敬神ノ道ヲ失ヒ且豫テ布達ノ旨趣ニ背戾シ不都合ノ次第ニ候條神官氏子ニ於テ厚ク敬神ノ旨趣ヲ奉體シ社頭傳來ノ古格ヲ正シ決シテ右等猥リノ舉動無之様特ニ注意スヘシ

○訓第五四五號 (明治二十三年十二月十七日)

大山祇神社々務所

二十四年訓第四號
令第一二三號參看

官國幣社保存金區分并ニ取扱方左ノ通相定ム
右訓令ス

二十四年訓第二五
五號ヲ以テ但書改
正

- 一 官國幣社保存金ハ配付年額十分ノ五ヲ經費及ヒ經常營繕費トシテ三分五厘ヲ永遠ノ資本トシ一分五厘ヲ各社共通非常臨時ノ營繕費トス
但經費及經常營繕費五分ノ四ヲ經費トシ五分ノ一ヲ經常營繕費トシ各社共通非常臨時營繕費ハ一分ヲ以テ全國ノ共通トシ五厘ヲ以テ一府縣内ノ共通ト一府縣内一社ノ向ハ近府縣ト共通スルヲ得トス尤モ經常營繕費ハ營繕ノ都合ニ由リテハ經費金ヨリ該費ヘ流用支辨スルヲ得
- 一 經費及ヒ經常營繕費仕拂殘金并ニ永遠資本金各社共通非常臨時營繕費金ハ總テ大藏省預金局ヘ直チニ預ケ入レ毎月末其預ケ入金額ヲ報告スヘシ
- 一 經費及ヒ經常營繕費仕拂殘金ハ翌年度該費ノ臨時補充ニ充テ永遠資本金ハ利倍増殖ノ方法ヲ以テ永遠ノ保存金ト爲スヘシ
- 一 各社共通非常臨時營繕費ハ更ニ各社ノ共有トシテ別段ノ積立ト爲シ風火災等非常ノ破損ニ際シ臨時營繕費仕拂フヘキモノトス
但本費取扱ノ爲メ總代トシテ全國ノ官國幣社ヲ通シテ宮司二名ヲ選定セシメ當該宮司ヨリ内務省ヘ届出シムルモノトス
- 一 二十年度以後既ニ積立タル保存資金ハ前項永遠資本ノ部ヘ差加ヘ積立ル者トス
- 一 國庫支出ノ保存金配付ノ年限滿了ニ至リシ時ハ經費及ヒ經常營繕費並ニ各社

二十四年訓第二五
五號ヲ以テ但書改
正

共通非常臨時營繕費共前項ノ割合ニ準シ永遠資本金ノ利子ヲ以テ支辨スルモノトス

- 一 營繕ハ工事ヲ要スル時仕様目論見帳ヲ以テ宮司ヨリ出願シ經常營繕ハ當廳ノ許可ヲ受ケ臨時營繕ハ當廳ヲ經由シ内務省ノ許可ヲ受クヘシ其臨時營繕費ニ就キ預金局ヨリ拂戻シヲ爲シタル金額ハ其都度當廳ヘ届出ツヘシ
但臨時營繕費ノ内全國共通費ハ官幣大社一社ニ付金七千四百圓以内官國幣中社一社ニ付金五千五百圓以内官國幣小社并別格官幣社一社ニ付金參千七百圓以内ヲ以テ一ケ年度内支出ノ標準トシ一府縣内共通費ハ別ニ支出ノ制限ヲ設ケス其一府縣内各社宮司ノ協議ニ任カスモノトス尤モ出願多分ニシテ支出金額差支ユル時ハ其出願ノ順序ニヨリ翌年度ニ於テ支出スルヲアルヘシ

○訓第四號 (明治二十四年二月九日)

大山祇神社々務所

客年(十二月)訓第五四五號訓令ハ二十四年度ヨリ施行スヘシ

右訓令ス

○訓第一二三號 (明治二十四年三月十二日)

大山祇神社々務所

明治二十三年(十二月)訓第五四五號訓令官國幣社保存費中臨時營繕費ニ相當スル金額取扱手續左ノ通相定ム

二十四年訓第二五
五號ヲ以テ但書改
正

右訓令ス

- 一 官國幣社保存費中臨時營繕費ニ相當スル金額ハ内務省ヨリ總代ニ交付シ總代ハ直ニ之ヲ大藏省預金局ヘ預ケ入ヲナスモノトス
- 但臨時營繕費ノ收支ハ東京ニ於テ之ヲ取扱フモノトス
- 一 内務省ニ於テ臨時營繕費ノ支出ヲ許可セシ場合ニ於テハ社寺局長ヨリ其旨ヲ總代ニ通知スルモノトス
- 一 總代ハ右ノ通知ヲ受ケタルトギハ該金額ヲ預金局ヨリ受戻シ直ニ爲替ヲ以テ其神社ヘ送付スルモノトス
- 一 總代ハ金額ヲ受ケタル神社宮司ヨリ領收證書ヲ出サシメ其旨ヲ内務省ニ報告スルモノトス
- 一 總代ハ毎年度ノ始メニ臨時營繕費前年度ノ計算書ヲ製シ内務省ニ報告スルモノトス
- 一 總代ハ内務省ヘ報告シタル上便宜ノ手續(新聞紙ニ掲載又ハ他ノ方法ニヨル)ヲ以テ各社ヘモ報告スルモノトス

◎訓令第八十號 (明治二十四年七月十八日)

二十四年訓令八十
四號參看

縣鄉村社神官奉務規則左ノ通改正セラル

縣鄉村社神官奉務規則

縣鄉村社神官

第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ

第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決シテ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲之神賑等ハ適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出可シ

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ナシト雖モ汚ノ所爲アル可カラス

第四條 神官ハ社殿及其境內ヲ清潔ニシ修造取繕等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス汚穢破損ニ至ラシムヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス

第六條 神官ハ神社所有之財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入借入スヘカラス若シ不得止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經テ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委托山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラムルヲ要ス

◎訓令第八十四號 (明治二十四年七月二十四日)

縣鄉村社神官

今般本縣訓令第八十號ヲ以テ神官奉務規則改正セラレ候ニ就テハ右規則ノ趣旨ニ

基き適宜ニ神官取締規約ヲ設ケ速ニ當廳ノ認可ヲ請フヘシ
◎訓令第九十二號 (明治二十四年八月二十五日)

官國幣社神職奉務規則左ノ通定メラル

官國幣社神職奉務規則

- 第一條 官國幣社神職ハ國家ノ宗祀ニ從事シ國家ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以テ平素國体ヲ辨シ國典ヲ修メ躬行ヲ正シクシテ以テ本務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官國幣社祭典ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齊肅恭敬首下シテ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ
- 第三條 祈年新嘗例祭等總テ官祭ノ典則ハ非常ノ事故ニアラサレハ成規ノ時間ヲ猥リニ伸縮スヘカラス
- 第四條 祭祀典則ハ舊來ノ儀式ヲ遵守シ其社ノ禮祭民俗因襲ノ神職等適宜行フコトヲ得
- 第五條 人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖且苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第六條 社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス悠久ノ保存ヲ要ス
- 第七條 神社所藏ノ寶物什器古文書類等常ニ散失ナキ樣監視シ神社所有ノ財産ヲ

管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第八條 神社ノ財産中人民ノ寄附ニ係リ永遠ノ目的ヲ以テ備ヘタル土地金穀ヲ變更セントスル場合ハ官國幣社ト雖モ氏子又ハ講社アルトキハ其總代協議ノ上地方廳ノ許可ヲ得ヘシ

第九條 神社ニ委托山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來ス方如キコトナカシムルヲ要ス

◎訓令第百十一號 (明治二十四年十一月十四日)

縣社以下神官

縣社以下神官ニシテ從前其筋ヨリ附與セシ假學證所持スルモノハ其授與ノ月ヨリ滿五年ヲ有効期限ト定メラレ候ニ就テハ右經限期過ノ向ハ總テ學階授與規則ニ依リ更ニ來ル明治二十五年十二月迄ニ試験ヲ受クヘシ

但試験期日後ニ至リ其期限經過セシ向ハ其都度本文ノ手續ヲ爲スヘシ

○内第一九號 (明治廿五年八月十七日)

神社ニ奉仕スル者ハ品行方正ニシテ相當ノ學力ヲ有シ平素敬神ノ意ニ厚ク兼テ本邦ノ古典舊儀ニ通シ各其奉務規則ニ對スルノ實績ヲ舉クヘキヲ要スルヲ以テ縣社以下祠官掌ハ十五年(九月)本縣甲第二百五號布達ニ依リ其學術性行ヲ審査シ適當ノ人物ヲ探擇スルヲ以テ大體ノ旨趣トセリ然ルニ近來舊神官若クハ祠官掌志願者ノ中本年(三月)內務省訓令第五號明文ノ旨趣ヲ誤解シ學術性行ヲ重ンセス間々競

争心ヲ起シ或ハ其弊タル多數ノ氏子等ニ波及スルヤノ聞ヘ有之以ノ外ノ事ニ候元
來右等特別ノ例ヲ設ケラレタルモ學術性行ヲ措テ顧ミサル旨趣ニ無之特別例中學
術性行等適當ノ人物ヲ得テ敬神ノ實ヲ舉ケ保存ノ途ヲモ立シメラル、ノ精神ニ外
ナラス候條心得違無之様支所長副長及重立神官等へ篤ト訓諭ヲ加ヘ選舉出願ノ際
ハ一層注意セラルヘシ
右内訓ス

大山祇神社宮司

神官取締本所長宛

○三訓第二〇八號 (明治廿七年五月十六日)

各 郡 松山市

官國幣社以下大祭及公式祀ノ順序左ノ通被相定候條縣社以下へ達方取計フヘシ
右訓令ス

第一條 官幣社及國幣社ノ大祭ハ左ノ通り定ム

- 一 祈年祭
- 二 新嘗祭

- 三 例祭
- 四 臨時奉幣式

五 本殿遷座

第二條 官幣社及國幣社ノ公式ノ祭祀ハ左ノ通り定ム

- 一 元始祭
- 二 紀元節

- 三 大 祓
- 四 遙拜祭

五 假殿遷座

第三條 府社縣社以下ノ神社ノ大祭及公式ノ祭祀ハ官幣社及國幣社ニ準スヘシ

○三訓第二四〇號 (明治廿七年六月廿日)

大山祇社々務所

其社保存金ノ内永遠資本金ニ限リ自今一期渡トシテ毎年度始メニ悉皆下付候條利
殖上ノ精神ニ悖ラサル様注意取扱フヘシ

但本年度ハ第二期以降三期分此際下付ス
右訓令ス

第三章 寺院及僧侶

◎乾第四十八號 (明治七年四月二十九日)

修驗宗被廢止候ニ付而本宗へ歸入ノ者爾後之ヲ目スルニ妻帯派ノ稱ヲ以テシ或ハ
歸入ニ付改テ剃度ヲ受且更ニ本寺ヲ設ルニ非ハ歸入ノ實ヲ成サ、ル義ト心得違
候者往々有之趣右ハ抑公令ノ旨趣本宗歸入ハ從來ノ本寺所轄ノ僧侶蓄髮妻帯ハ
諸宗一般各自ノ自由ニ任セラル、ノ譯ニテ聊其宗規ヲ以テ之ヲ束縛シ之ヲ殊別スル
ノ筋無之候條一同此旨相心得以后方向ヲ誤ラス候様致可此段天皇眞言兩宗諸寺院
へ布達候事

◎乾第六十號 (明治七年五月三十一日)

諸寺院ヨリ差出候願伺届去始メ諸書面名前肩書へ必^レ何大區何小區何郡何(町村)何宗何派或ハ何職ト詳細記載シ差出可申候此段管下諸寺院へ布達候事

◎乾第四十六號 (明治九年四月八日)

今般教部省第十五號ヲ以各管内寺院諸願伺届等宗名ヲ脱スル向往々有之取調筋差支候ニ付自今諸願伺届共總テ宗名記載可爲致旨達有之候條本廳へ差出候分モ右同様ト相心得可申候此段各寺院へ布達候事

◎乾第八十七號 (明治九年六月廿日)

今般教部省達書第二十一號ヲ以僧尼籍ノ儀昨八年(十一月)内務省乙第五百十一號達書ニ據リ各自本籍爲相立候上ハ住職中其寺院へ居住ノ儀總テ從前ノ通可心得旨達有之候條此段寺院へ布達候事

◎乙第二百一號 (明治十年十二月廿八日)

府縣社以下神社什物ノ儀自今左ノ通取締候條内務省ヨリ達相成候條此旨區内神官へ相達シ取締可致此段相達候事

一 什物ハ各部類ヲ分チ其品柄員數等詳細牒簿ニ記載シ尙他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名等ヲモ記入スヘシ

第一類 寶物古文書

第二類 祭具什器并持添ノ田畑附屬ノ建物等

右牒簿二部ツ、編製神官并氏子(氏子無之向ハ該地ノ信仰人)總代二名以上尙該地ノ區戶長「連署調印一部」區戶長役所」へ一部ハ其社へ藏メ置クヘシ

◎乙第二百五十三號 (明治十二年五月廿四日)

各郡町村

寺院附屬ノ佛器什物ノ儀ニ付明治五年舊教部省達ノ旨モ有之候得共免角不都合不抄候條左ノ通相心得取調候條寺院へ相達シ取締致スヘク此段相達候事

但伊豫國ハ明治九年當縣地第三十六號達ハ消滅候義ト可相心得事

一 什物ハ各部類ヲ分チ其品柄員數等詳細牒簿ニ記載シ尙他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名ヲモ記入スヘシ

第一類 寶物古文書

第二類 佛具什器並持添ノ田畑附屬ノ建物等

右牒簿二部ツ、編製住職及檀家(檀家ナケレハ講中)總代二名以上並ニ法類連書調印ノ上一部ハ「戶長役所」へ一部ハ其寺院へ藏メ置クヘシ

◎乙第一百十四號 (明治十三年十月廿日)

各郡町村

眞宗本願寺派於テ說教場設立并教會結社ノ儀末派ノ者ヨリ出願候節教務上取締ノ都合有之趣ヲ以テ自今管長添書可致旨這般本派管長ヨリ掛合越候條爾後右添書無

之分ハ受理セサル儀下可相心得此段相達候事

◎甲第四十九號 (明治十七年三月二十八日)

寺院佛像他管持出開帳ノ義ハ不相成筈ニ候處自今右等ノ向ハ該寺住職檀家總代(無檀家ノ寺院ハ信徒總代)及本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳へ出願スヘシ

但寶物持出ハ相ナラス

右布達候事

◎乙第二百十八號 (明治十七年十二月廿六日)

各郡町村

本年本縣乙第九十號ヲ以テ管長添書ノ義相達候處京都府下眞宗本願寺住職大谷光尊義今般眞宗本願寺派管長相勤候ニ就テハ該未寺願書へハ別段本寺住職ノ廉連署致サ、ル旨其筋聽許相成候趣申越候條爲心得此旨相達候事

○訓第二九五號 (明治二十一年十二月三日)

石手寺

太山寺

其寺保存資金每年末計算書別紙書式ニ據リ翌年一月五日限差出スヘシ
右訓令ス

前書中讀岐國ニ屬スル分省之

計		種 類	古寺保存資金年末計算(明治何年)何郡何町(村)何寺
拂 金	受 金		
何公債買入 (額面) 何公債買入 (代價)	下賜金又ハ前年越金	何々	
何所へ預ケ金 (全)	年賦寄附金		
何所修繕費	一時寄附金	何々	
何々	何公債證書當籤元金		
計	公債利子	何々	
	預ケ金利子		

現金	何公債證書額面
現在	何所へ預ケ金
計	何々

一 本表中利子歩通並當籤公債整理公債ニ交換等詳記シ難キ廉ハ備考ヲ設ケ記載スヘシ

一 舊公債證書ハ殘額面ヲ記載スヘシ

第十九編 民事及戶籍

第一章 婚姻及養子縁組

◎乙第七十四號 (明治十七年十月廿一日)

各郡町村

年長者ヲシテ養子ト致シ候義是迄問々有之候處生存者ニシテ年長養子ヲ貰受ケルハ父子ニシテ其年度ヲ顛倒シ幼者ヲ指シテ父ト呼ヒ長者ヲ目シテ子ト唱ル如キ不倫ノ稱呼ヲ生シ遂ニ秩序ヲ紊亂スルノ階梯トモ相成不都合ニ付自今亡没後ニ非ル外ハ年長者ヲ養子ト致候義一切不相成候尤戶主疾病其他不得止事情ニ依リ年長者

五年太政官布告第
二十九號ニヨリ
「卒」ノ字消滅

ヲ以テ相續セシメサルハ一家ノ浮沈ニモ相關スル等ノ類ハ親族熟議ヲ以テ先代ノ養子トナシ相當ノ者ヲ貰請ケ現戶主ノ相續人ト唱ヘ家名繼承ノ義其都度狀ヲ具シ當廳へ出頭セシムヘシ此旨相達候事

○訓第三〇號 (明治十九年十月十四日)

有夫ノ婦姦通シ處分ヲ受ケ離縁後姦夫姦婦結婚ノ義不相成候條其旨相心得各「戶長」ヘ示達セラレヘシ

右訓令ス

郡長宛

第二章 後見

◎乾第四十一號 (明治七年四月十八日)

士族卒幼少又ハ婦女子ノ戶主ヨリ差出候願届等ハ自今後見ノ者連印可致此段士族卒へ布達候事

◎乾第三百三十六號 (明治九年十月廿一日)

戶主幼年又ハ婦女等ニテ後見人アル者不動産ハ勿論動産ノ賣買讓渡及ヒ書入質等後日ノ證書ヲ要スル者ハ後見人ノ外戶主ノ親族三名以上必連名候様可致此段布達候事 (但)

◎申第二百十二號 (明年十五年十月五日)

十四年中第四百四十
四號ヲ以テ但書追

加三十二年法律第
十三號ニヨリ消滅
十五年甲第二百二
十二號ヲ以テ「右
等」ヲ「幼年」ト改

戸主幼少又ハ婦女等ニテ後見人アルモノ不動産ハ勿論動産ノ賣買讓與及書入質入
等後日ノ證書ヲ要スルモノハ明治九年本縣乾第百三十六號達ノ通ニ候處自今戸主
非戸主ニ拘ラス後見人之レナキモノト雖モ幼年ノ向ハ親族三名以上連署候様可致
此段布達候事

第三章 家督相續

◎甲第三十三號 (明治十年三月十二日)

家督相續養子女婚姻等ニ係リ規族連署ヲ以テ出願ノ書面上是迄親類トノミ記載致
候處自今本人ニ對スル等親(例ハ養實父兄弟姉妹或ハ伯叔父姑從父兄弟等)ヲ詳
記シ且等親外ノ者ニ於テモ本人ニ對スル緣故(例ハ宗家又ハ家長或ハ妻ノ兄弟
等)ヲ明瞭ニ肩書可致此段布達候事

◎甲第二十一號 (明治十二年二月廿七日)

士族家督相續養子貫族替ノ儀是迄管轄廳へ出願シ來リ候處自今出願ニ不及直ニ「
戸長」へ届出ヘシ此段布達候事

但廢嫡ニ屬シテ特許ヲ經ヘキモノハ從前ノ通タルヘシ

◎乙第二十二號 (明治十五年二月十七日)

士族ノ戸主五十歳未滿ノ者疾病事故アルニ非ス一家ノ都合ニ依リ猥リニ退隱不相
各郡町村

成候條疾病ニ罹リ退隱セントスル者ハ必ス醫師ノ診斷書ヲ要シ事故アル者ハ其事
實ヲ詳記シ「戸長」へ届出候様可取計此段相達候事

◎乙第十九號 (明治十六年二月二日)

各郡町村

抑モ嫡男ヲ廢シ二三男若クハ他ノ子弟ヲ以テ相續嗣子トナスハ素ヨリ容易ナラサ
ル義ニ有之候處近來徵兵規避或ハ父母愛憎ノ念慮ヨリ切リニ廢嫡ヲ企圖スルモノ
往々有之不都合ノ至リニ候依之今般告第二十四號ヲ以テ一般へ告諭候條向後廢嫡
出願ニ係ルモノハ尙一層注意ヲ加ヘ其事實如何ヲ判別シ苟モ徵兵規避父母愛憎等
ノ私情ニ起因スルモノ、如キハ法律ハ勿論倫理ノ大綱ヲ説諭シ其旨趣ヲ領得セシ
ムヘシ此旨相達候事

◎告第二十四號 (明治十六年二月二日)

凡ソ嫡男ヲ廢シ二三男若クハ他ノ子弟ヲ以テ相續嗣子ニ立ルモノハ廢疾不具等ニ
シテ産業ヲ營ム能ハサルモノヲ除クノ外萬不得止情實有之モノニ限ル法規ニ候處
近來一種ノ弊風ヲ來タシ動モスレハ徵兵規避之念慮ヲ發シ或ハ父母愛憎ノ私情ニ
沉ミ切リニ廢嫡ヲ企圖シ甚シタキニ至テハ故ヲニ事實ヲ作爲シ官廳ヲ欺罔シ亂ス
可カラサル倫理ヲ亂サント欲スルモノアリ右等ハ畢竟法律ノ何タルヲ解セス倫理
ノ貴フヘク家名繼承ノ重スヘキヲ知ラサルニ起因シ實ニ憫察スヘキモノナリ抑モ
徵兵免否ハ別ニ正法ノアルアリテ假令廢嫡ノ跡ヲ承タル二三男若クハ他ノ子弟ニ

十六年乙第十九號
參看

於ルモ必ス徵兵ヲ遁ルヘキモノニ非ス加之家名繼承ハ倫理ノ大綱ニシテ苟且ニモ之ヲ輕忽ニスヘキモノニ非サレハ家長タル者能ク此理ヲ熟慮反省シテ以テ倫理ノ大綱ヲ紊亂スル勿レ此旨告諭候事

○告第二百十四號 (明治十六年五月二十一日)

建物所有權移轉手續ハ明治八年第四百四十八號公布之趣モ有之候所獨リ家名相續ノミニ限リ舊來ノ慣行ニ任セ強テ其手續ヲナサシメサルヨリ之レカ爲メ近來親子間アル間敷葛藤ヲ生シ遂ニ訴訟ニ及フ等ノ向往々有之哉ニ相聞ヘ右ハ不都合ノ次第ニ有之元來家名相續ノ際ト雖モ該公布ノ手續ヲナスヘキ筈ナルモ強テナサシメサル迄ニ有之タル儀ニ付如今生存者家名相續ヲナシタル向ハ該公布ノ手續ヲ履行儀儀ト可相心得此旨告諭候事

○乙第六十四號 (明治十七年四月二十四日)

各郡町村

夫死亡跡遺妻相續之儀ハ子女又ハ生前養子女等無之場合ニ限不苦筈ニ候處其子女又ハ養子女アルモ幼少等ノ故ヲ以テ之ヲ擱キ遺妻相續之儀「戶長役場」ニ於テ開設候向往々有之趣相聞右ハ家系ノ順序ヲ紊亂スルノミナラス自然廢嫡ノ處分ニ屬シ不都合不少候條自今右様ノ儀無之様注意可致此旨相達候事

但子女又ハ養子女アルモ疾病其他不得止事情有之遺妻相續ヲ要スルルハ其都度狀ヲ具シ當廳ヘ願出サスヘシ

第四章 財產訴訟及登記

○乙第八號 (明治十七年一月十九日)

各郡町村

失踪逃亡死亡及絶家ノ財產ヲ「戶長」ニ於テ保管シタルルハ財產目錄ヲ作り其都度郡長ヘ届出ヘシ此旨相達候事

○告第五十二號 (明治二十二年七月二十八日)

失踪又ハ死亡跡遺留財產ヲ其親族ニ於テ保管スル場合本人又ハ其家ノ利害ニ關シ協議ヲ以テ賣却交換若クハ質入書入等ヲ爲サントスルトキ不勸産ハ自今都テ管轄「始審裁判所」ノ認可ヲ受クヘシ
右告示ス

○告示第七十號 (明治二十四年六月十日)

從前刑事ニ附帶スル私訴ニ付テハ告訴狀又ハ盜難届等ノ紙尾ニ記載シ來リ候處以來私訴ヲ爲サント欲スル者ハ其被告ハ豫審又ハ公判ニ付セラレタルヨリ第二審ノ判決アル迄ニ私訴狀ヲ管轄裁判所ヘ差出スヘシ
○訓第三八〇號 (明治二十四年十月十四日)

郡役所

民事訴訟法第六百四十三條ニ依リ不勸産強制競賣ノ申立其他不勸産差押假差押ノ

二十三年法律第六
號ニヨリ始審裁判
所消滅管財人監督
ノ事務ハ區裁判所
ノ職權ニ屬セラル

申立ヲ爲ス場合ニ於テ其債權者ヨリ地所ニ付其納ム可キ一ケ年ノ地方公課（地方
税市町村税等）ヲ證ス可キ證明書ヲ求ムルトキハ町村長ニ於テ之カ證明書ヲ附與
ス可キ義ト心得ヘク旨各町村長ニ訓令スヘシ

市役所

民事訴訟法第六百四十三條ニ依リ不動産強制競賣ノ申立其他不動産差押假差押ノ
申立ヲ爲ス場合ニ於テ其債權者ヨリ地所ニ付其納ムヘキ一ケ年ノ地方公課（地方
税市町村税等）ヲ證スヘキ證明書ヲ求ムルトキハ市長ニ於テ之カ證明書ヲ附與ス
ヘキ義ト心得ヘシ
右訓令ス

○内第一二號（明治二十四年十月廿七日）

明治廿二年三月勅令第三十九號土地臺帳規則ノ制定セラレ、ヤ其第三條ニ於テ土
地所有者ノ移轉等ハ登記所ヨリ之ヲ通知スルコト、ナリ尋テ今年五月勅令第六十
三號ヲ以テ其七月一日ヨリ收稅部出張所ヲ設置セラレ土地臺帳ハ全所ノ主管スル
所トナレリ爾來本年八月ニ至ル二十有六ヶ月ノ間土地臺帳主管廳カ通知ヲ受ケタ
ル土地登記ノ筆數ハ四十萬九千二十四筆ニシテ中ニ就キ其通知ノ事項土地臺帳ニ
符合セサルカ爲メ登記所ニ照會シタルモノ五萬六千三百三十一筆又其登記ノ事項
土地臺帳ト齟齬スルカ爲メ市町村長ニ照會シ登記事項ノ更正ヲ促シタルモノ四萬

七千百三十三筆ノ多キニ至レリ而シテ其照會タルヤ畜ニ一回ニシテ止マラサルモ
ノアリ其煩雜想フヘキナリ特リ官署ノ煩雜ト事務ノ滯滞ヲ來スニ止マラス登記事
項ノ更正ヲ需ムルニ方ツテハ當事者ニ於テモ亦相當ノ登記料ヲ費シ多少ノ手數ヲ
要シタルモノアルハ蔽フヘカラサルノ事實ナリトス土地臺帳整理ノ登記事務ト交
渉スルヤ夫レ斯ノ如シ今ニシテ之ヲ救済スルノ方法ヲ講セサレハ登記事項ノ鞏固
ヲ欠キ土地臺帳ノ整理ヲ妨ケ人民ヲシテ徒ニ費用ト手數ヲ增加セシムルハ言ヲ俟
タサル所ニシテ本官夙ニ之ヲ憂ヒ或ハ策ヲ上司ニ獻シ或ハ狀ヲ主務局ニ陳シタル
モノアリト雖モ法律規則ノ改正ニ係ルヲ以テ容易ニ其發令ヲ見ル能ハス然レ
モ之ヲ救済スルノ方法タル必シモ法律規則ノ改正ニノミ止マラサルナリ想フニ前
叙ノ煩雜錯雜ヲ來スノ原因ハ一ニ登記請求者ノ注意如何ニ存スルハ疑フヘカラサ
ル所ナルヲ以テ之ヲ請求セントスルニ當リ先ツ其地目反別字地番等凡ソ公簿ニ登
記シアル事項ハ之ヲ市町村役場ノ帳簿ニ對照シ然ル後登記請求ノ手續ヲ爲スニ於
テハ事後ニ其誤ヲ訂スノ煩雜ヲ芟除スルニ至ルヘキヲ信ス宜シク此意ヲ体シ郡部
ニアツテハ便宜之ヲ町村長ニ致シ以テ人民ニ其利害得失ヲ懇諭シ彼ノ煩雜錯雜ヲ
來スノ病源ヲ醫スルニ盡力セラレントナ
右内訓ス

郡市長宛

○訓第一五八號（明治二十五年五月二十三日）

市役所 町村役場

民事訴訟法第四十五條二項ニ依リ市町村長ニ預カリタル訴訟書類ニシテ其送達未受クヘキモノ無之場合ニ於テ市町村役場ヨリ返還候向モ有之候哉ノ趣ニ候處右ニテハ法文ノ旨趣ニ相反シ候ニ付自今右様不都合無之様取扱フヘシ

第五章 戶籍

◎乾第四十號 (明治七年四月十八日)

僧侶族籍ノ儀ハ當初父母ノ家ヲ出テ緇流ニ從事シ桑門ニ遊フ所謂出家是ナリ今日族籍ヲ定ル時ハ直ニ出タル家ニ歸籍スルヲ至當トス然リト時ハ各自都合ニ依リ別ニ望ノ地ニ入籍シ又ハ親族等ヘ加籍スルモ妨ナシトス然ルニ目今住職セル寺院ヲ以テ私宅トシ届出候向モ有之專擅ノ至以テ外ノ事ニ候右様ノ儀斷然不相成候且又其他什具等ノ處分ニ至ル迄心得違於有之ハ依科屹度裁判可申付候條此段管内寺院ヘ布達候事

◎甲第七十八號 (明治十年五月二十九日)

死跡相續ノ儀ハ死去當日ヨリ五十日間ニ可願出管ノ處往々其期ヲ愆ルモノ少カラズ且平民ニ至テハ數年間亡戸主ノ名面ヲ存置不都合ノ次第ニ付今後戸主死亡ノ節ハ必ス五十日以内ニ相續人相定メ士族ハ縣廳ヘ願出平民ハ戸長ヘ可届出若シ右期日内ニ擬定難致事故有之向ハ其狀ヲ具シ前以可申出此段布達候事

十二年甲第二十一號ヲ以テ士族家督相續願出ヲ廢シ戸長ヘ届出シム

但是迄亡戸主ノ名面ヲ存シ其儘差置候向ハ至急相續人相定可届出事

◎甲第七十七號 (明治十四年六月二十九日)

人民轉籍之節「戸長」ヘ可届出ハ勿論之處一村或ハ一市内甲地ヨリ乙地ヘ轉居スル者ノ如キモ其時々「戸長」ヘ可届出此段布達候事

◎甲第九十八號 (明治十四年十月八日)

明治十三年第三號ヲ以テ華士族當主死亡後相續人選定期日之儀公布相成候處華士族犯罪有之除族ノ刑ニ處セラレタル者刑名宣告後六ヶ月ヲ經過シ相續人ヲ届出サルトキハ是亦右公布ニ準シ其族稱廢絶候儀ト可相心得此段布達候事

◎庶第二〇九九號 (明治十六年二月十日)

戶籍上取扱之儀ニ付追●相達候次第モ有之候處各郡町村ニ於テ取扱上區々相成候廉モ有之不都合ニ付向後左ノ項目ハ「戸長」限リ爲取扱候條其旨各町村ヘ傳達可致此旨相達候事

各 郡

- 一 但從來指令等ハ右ニ抵觸スルモノハ消滅候義ト心得ヘシ
- 一 子女ナキ養戸主退隱養父再相續ノ件
- 一 實子ナキモノ養子セシ後實男子ヲ擧ケ嗣子ト定ムル件
- 一 子女ナキ現戸主退隱前戸主(現戸主ノ實兄)再相續ノ件
- 一 養子嗣子離縁復籍ノ件

十四年甲第二十三號ヲ以テ「處モラレタル者」ノ下「刑名」以下二十「字」準シ「下」其「以下」五字削除十七年七月七日宮内省達華族令ニヨリ華族ノ廢消滅

十七年太政官布達第十九號ニ依リ「住職」ノ二字消滅

十九年内務省令第八號ニ依リ但書消滅

◎甲第一百一號 (明治十六年六月二十七日)

凡ソ戶籍ハ人民ノ系譜倫理ノ綱領ナレハ家督相續其他戶籍上一般異動加除等ニ關スルモノハ渾テ無遺漏速ニ其筋々ハ願伺届出ツヘシ將タ神社寺院興廢移轉并神官住職進退其他社寺一般ニ關スルモノモ亦同様速ニ其筋々ハ願伺届出ツヘシ但從來願伺届出期限ノ成規アルモノハ其期限ノ通タル可シ
右布達候事

◎乙第六十六號 (明治十六年五月九日)

監獄署 各郡町村

無籍在監人ハ在監中定籍ノ手續ヲ爲サシムルニ及ハス本人放還之時籍ヲ望ノ地ニ定メシメ典獄ヨリ就籍地ノ「戶長」ハ通知書ヲ作り本人ヲシテ携帶就籍ノ手續ヲ行ハシムヘシ此旨相達候事
(但)

◎無號 (明治十八年三月十四日)

各郡町村

刑法改定等親被廢候ニ付妾ハ法律上之レヲ認メサルモノニ付戶籍ニ登記之限ニ無之候條若シ刑法施行後入籍シタルモノ有之候ハ、此際原籍へ復サシメ候様其筋内達ノ趣モ有之候條右之向ハ夫々原籍へ復サシメ候様可取計此旨内達候事
◎甲第三十八號 (明治十八年三月二十六日)

在籍寄留者ヲ問ハズ借家住居ノ者ハ當初借受又ハ轉居ノ際共必ス其家主ト連印ノ上「戶長役場」へ届出スヘシ
右布達候事

◎訓第三六號 (明治十九年十月三日)

郡役所

内務省令第二十二號戶籍取扱手續第二條第十五條ニ依リ郡役所へ納ムル戶籍簿副本及諸届ハ同省訓令第二十一號ノ通心得ヘシ
◎縣令第七十三號 (明治二十年五月十四日)
一郡内他町村へ寄留スルモノハ出入共其都度寄留地及本籍戶長へ届出ヘシ
◎達甲第九十九號 (明治二十年九月二十六日)

郡役所 「戶長役場」

戶籍取扱細則別冊之通之ヲ定ム

但明治十九年乙第九號同年達甲第三十六號本年達甲第六號同第七號同第十號同第五十二號及其他令達等之ニ抵觸スル廉ハ渾テ廢止ス

(別冊)

戶籍取扱細則

戶籍編製及加除

第一條 戶籍簿ハ一町村ヲ一部トシ其町村限リ編製スヘシ其戶數多キ者ハ分テ數

二十年訓第一八七號委署

冊ト爲スヲ得此場合ニ於テハ一部幾冊ノ中第幾冊トシ其順序ヲ明ラカニスヘシ

第二條 戶籍簿ノ表紙ハ厚紙用紙ハ強硬ナル美濃紙ノ類ヲ用ユヘシ

第三條 其他ヨリ轉住スルカ又ハ分籍等ニテ新ニ一戸定籍スルトキハ列戸ノ順序ニ從ヒ戶籍簿ニ編入スヘシ

全町村内ノ移轉モ亦前項ニ同シ

第四條 附籍及棄兒等ハ別ニ戶籍用紙ニ登記シ本籍主戶籍ノ次ハ編綴スヘシ

第五條 定籍ノミニシテ居住ノ家屋ナキモノハ戶籍簿末尾ニ無家ノ部ヲ設ケテ編入スヘシ

第六條 官廳、官舎、神社、寺院、學校、病院、議場、會社、工場等ノ類ハ別ニ無住家屋簿ヲ製シ地番名稱(神社ハ社格寺院等ハ其宗派名本末寺等)及其所有主義ハ管理者ノ氏名ヲ登記スヘシ

但官立公立ニ係ルモノハ管理者ヲ記スルノ限ニアラス

第七條 失踪逃亡者ノ除籍及單身戶主死亡後并ニ除籍後六ヶ月ヲ過キ絶家トナルトキ等ノ取扱ハ「戶長」ニ於テ其事由等届書全様ノ書面ヲ作り右ニ據リ登記目錄并戶籍簿ニ登記シ而シテ其書面ハ戶籍取扱手續(十九年内務省令第二十二號)第十五條ニ依テ處理スヘシ

第八條 轉住其他ノ事故ニ依リ全戶除籍スルモノ及戶主代替リニ依リ改寫セシ舊紙ハ除籍簿ニ移綴スヘシ

第九條 刑法及「身代限」ノ處分ヲ受ケタル者ハ其名簿ヲ調製シテ之レニ登記スヘシ

第十條 戶籍取扱手續第六條ニ依テ戶籍ヲ編製セントスルトキハ縣廳ニ其事由ヲ具スヘシ

右編製スルトキハ既ニ除籍シタルモノヲ除去シ其現員ノミヲ登記スヘシ戶主代替リ籍面改寫ノトキ亦全シ

戶別番號及戶籍登記

第十一條 戶籍ニハ毎町村ヲ限リ列戸ノ順序ニ從ヒ戶番號ヲ付スヘシ

亦每戶ニ戶籍ノ番號ト全シキ戶番號札ト戶主ノ氏名ヲ記シタル標札ヲ掲グヘシ

第十二條 甲乙居住家屋ノ間ニ新ニ居住家屋ヲ設ルトキハ列戸ノ順序ニ從ヒ隣接家屋ト全番號ヲ付シ「イロハ」ノ文字ヲ冠ラシメ其順次ヲ設クヘシ

居住家屋ヲ撤却スル等ニ依リ關係ヲ生スルトキハ其儘關係ニ爲シ置クヘシ

第十三條 戶籍登記方ハ明治十九年内務省訓令第二十號書式ニ依ルヘシ其書式中別ニ明文ナキモノハ左ノ各項ニ依リ登記シ此他異例ニ係ルモノハ彼此比準參酌シカメテ其當ニ適セシムルヲ要ス

一 養嗣子ハ實子ト他ノ養子ト區別スル爲メ凡テ養嗣子ト額書シ養父ノ跡ヲ繼キタルトキハ前戶主欄内ニ亡養父某ト記シ戶主欄内肩書ニ亡養父某養子ト記スヘシ

二 養子戶主タルトキ養父ノ實子ハ年ノ長少ニ從ヒ兄弟姉妹ト額書シ養父某幾

二十二年訓令第七十四號ヲ以テ第八項第二九許年月日ノ下ヘ一送籍年月日ノ五字追加

- 男女ト肩書スヘシ養父ノ實子戸主タル場合養子ニ對スル額書ハ右ニ同シク而シテ父某養子ト肩書スヘシ
- 三 夫ノ跡ヲ繼キタル妻戸主ナルトキハ前戸主欄内ニ亡夫某トシ戸主欄内肩書ニ其妻家女ナレハ亡夫某妻父某幾女ト併記シ他女ナレハ亡夫某妻トノミ記シ夫ノ養實父母アルトキハ舅姑ト額書スヘシ
- 四 夫(戸主)死後遺妻ヘ入夫シ直ニ相續シタルトキハ前戸主ノ欄内ニ前夫某ト記シ又遺妻且家名繼承後入夫シ其入夫相續シタルトキハ妻某ト記シ戸主欄内ノ肩書ヲ要セス
- 五 前項前夫ニ遺子アルトキハ額書ニ前夫子ト記シ肩書ニ前夫某幾男女ト記スヘシ
- 六 戸主ノ縁女ハ額書ニ單ニ縁女トシ長二男ノ縁女ハ長二男縁女トスヘシ亦養子ノ縁女ハ幾女ト額書シ養子某縁女ト肩書スヘシ
- 七 二三男ノ妻ハ婦ト額書シ孫ノ妻ハ孫婦ト額書スヘシ
- 八 私生兒ハ其母戸主タルトキハ單ニ私子ト額書シ姉妹若シクハ女ノ私生兒ハ甥姪又ハ孫ト額書シ其肩書ニ姉妹又ハ長二女私子ト記スヘシ
- 男子自己ノ子ト認メ相當ノ手續ヲ經タルモノハ其父ノ住所戸籍氏名及庶子タルト并ニ允許年月日送籍年月日等事項欄内ニ登記スヘシ
- 九 前項男子自己ノ子ト認メ相當ノ手續ヲ經テ入籍セシメタルトキハ其父戸主

二十七年三訓第四八號參看

- タラハ單ニ庶子ト額書シ兄弟若シクハ男ノ子タルトキハ甥姪或ハ孫ト額書シ兄弟又ハ長二男庶子ト肩書シ其母ノ住所戸籍氏名及私生兒タルト并ニ入籍ノ年月日等事項欄内ニ登記スヘシ
- 十 全戸附籍ハ初欄番號ノ下ニ族籍氏名附籍トシ戸主欄内ニ附籍戸主ト額書スヘシ
- 十一 分籍シテ一戸ヲ設ルトキハ前戸主欄内ハ空欄トシ肩書ヲ父某幾男女トシ父ノ住所族籍氏名及分籍年月日等事項欄内ニ登記スヘシ
- 十二 絶家再興ハ前戸主欄内ニ絶家某トシ其他ハ前項ノ例ニ準スヘシ
- 第十四條 戸主ヲ除クノ外其家族ハ渾テ氏ヲ記スルヲ要セス
- 第十五條 幼戸主後見人ヲ定メ届出ルトキハ後見人ノ住所氏名届出ノ年月日等ヲ記シ其戸籍ニ付箋シ解任ノトキ除却スヘシ
- 第十六條 登記目録ハ毎年毎ニ一種二冊ニ分チ編製スヘシ
- 第十七條 登記目録用紙ハ美濃形通常役場用ノ罫紙ヲ用ヒ其記載方ハ明治十九年内務省訓令第二十號登記目録書式ニ據ルヘシ
- 第十八條 明治五年戸籍編製以前出生ニシテ漏籍ノ分ハ登記目録中無籍者就籍ノ部ニ記シ以後ノ分ハ本籍人管内又ハ管外出生ノ部ニ登記スヘシ
- 送籍
- 第十九條 凡ソ送籍狀ヲ發送スルトキハ左ノ事項遺漏ナク別紙ニ記載シ送籍狀ト

共ニ送付スヘシ

- 一 徴兵及各種兵員ニ關スル事項假令ハ死亡又ハ他籍ニ移リタルモノト雖トモ曾テ該家ノ戸主トナリタル男女子及嗣子承祖ノ孫相續人ノ位置ニアリシ男子若シクハ徴兵現役中死亡シタルモノ、類ニシテ現送籍面ニテ明瞭セザルモノハ新舊戶籍而寫等分明スヘキモノ添付スルヲ要ス
- 一 「身代限」處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノハ其顛末
- 一 犯罪ニ據リ處刑ヲ受ケ(違警罪ヲ除ク)又ハ懲罰若クハ過料ニ處セラレタルモノハ其事項并ニ宣告ノ年月日
- 一 種痘天然痘濟未濟ノ顛末

第二十條 他ヨリ送籍狀到着後入籍届出サルトキハ其届出ヲ促スヘシ若シ事故アリテ入籍ヲ肯セス又ハ入籍者所在不分明ナルトキハ其旨ヲ書シ送籍狀ハ原籍地ヘ返付スヘシ

第二十一條 前條ニ據リ原籍地ニ於テ送籍狀ノ返付ヲ受ケタルトキハ其趣届人ニ示シ爰之届書ヲ却下スヘシ

但登記目錄ヘハ返戻ノ旨趣及年月日ヲ附記シ送籍狀ノ割印及戸長ノ官印ヲ消スヘシ

第二十二條 家族ノ附籍ハ送籍狀ヲ發スルニ及ハス其出入共寄留同様ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十三條 送籍狀入籍報知書ハ凡テ郵送シ本人ニ持參セシムルヲ得ス
寄留

第二十四條 出入寄留簿ハ一種毎ニ部門ヲ分チ編製スヘシ尙其一種中ニハ二世帯ヲ爲スモノト否ラサルモノトヲ區別スヘシ

第二十五條 寄留簿用紙ハ戶籍用紙ニ準據シ其記載方ハ明治十九年内務省訓令第二十號寄留簿登記書式ニ據ルヘシ

第二十六條 明治十九年内務省令第十九號第五條但書ニ係ル入寄留者ノ届書ハ其寄留簿ニ登記シタル上入寄留届書ト合綴スヘシ

但出生ニ於テハ別ニ入寄留届ヲサシムルニ及ハス

第二十七條 前條ニヨリ出寄留者ヨリ發送セル届書ハ出寄留簿ニ登記シタル上更ニ戶籍取扱手續第八條第十條第十五條等ノ手續ヲナスヘシ

但出生ニ於テハ別ニ出寄留届ヲサシムルニ及ハス

第二十八條 同令第六條ノ出入寄留届書第七條ノ寄留者退去届書及第八條ノ寄留者復歸届書并ニ明治二十年縣令第七十三號ニ係ル届書ハ各類ニ從テ編綴スヘシ但郡役所ヘ送付スルニ及ハス

第二十九條 内國人ニシテ公使館領事館又ハ居留地外國人所有ノ家屋ニ寄留シタルモノハ本人(幼者ハ後見人又ハ親族)ノ届出ノミヲ以テ其手續ヲ了シタルモノトシ同上寄留地ヲ去リ本籍地ヘ復歸又ハ更ニ他ヘ寄留ノ届書ヲ本籍「戸長」ニ於テ受領シタルトキハ其旨該「戸長」ヨリ前寄留地ノ「戸長」ヘ通報スヘシ

第三十條 大學校士官學校又ハ教導團ノ生徒隊ニ屬スル馬丁等ハ在屯營下士卒同様其現在地ニ於テハ出入ノ調査ヲ要セス本籍地ニ於テハ備入又ハ解備ノ通知若クハ届書ヲ受領シタルトキ戶籍取扱手續ニ由リ出寄留簿ヲ加除スヘシ

但戶籍表調製ノ節ハ之ヲ出寄留ニ算入スヘシ
 第三十一條 巡查奉職中警察署又ハ分署等へ寄宿スルモノ、取扱方モ前條ノ例ニ準スヘシ

雜件

第三十二條 戶籍簿、戶籍簿用紙、無住家屋簿、刑(民)事被處分者名簿、戶番號及戶主標札、除籍簿、加籍目錄、除籍目錄、管内異動目錄、出入寄留簿、送籍狀、入籍報知書 等ハ別紙様式及書式ニ據ルヘシ

第三十三條 凡ソ戶籍取扱上成規ニ依リテ用ユル官印ハ「戶長」ノ官印タルヘシ
 「戶長」關員等ノ場合ニ於テハ其代理者ノ實印ヲ用ユヘシ
 第三十四條 凡ソ戶籍ハ勿論其他付屬帳簿類ハ字畫端正明瞭ニ書記シ漫ニ添削塗抹スルヲ得ス若シ書損等之アラハ朱ニテ正誤シ檢印ヲ捺スヘシ
 第三十五條 戶籍ハ縣廳及郡役所主任官吏ヲシテ臨時臨檢セシムヘシ

明治何年何月何日編製(改製)

戶籍簿

全(一町村ニシテ數冊ニ分ツルハ一部幾冊ノ中第幾冊ト記スヘシ)
 愛媛縣何國何郡
 何町村

細則第十 三條第一 項養子ノ 主タルノ 例 二分五厘 何年何月何日何縣何郡何村平民氏名幾男 入籍ス(印)		同項養嗣 子ノ例 何年何月何日何縣何郡何村平民氏名幾男 入籍ス(印)		同條第二 項養子ノ 主タルト キ養父ノ 實子ノ例 何年何月何日何縣何郡何村平民氏名幾男 入籍ス(印)		同項養父 ノ實子ト キ養子ノ 例 何年何月何日何縣何郡何村平民氏名幾男 入籍ス(印)	
愛媛縣何郡何村何番戶(借地)(借家) (同居)		平民 前戶主 亡養父氏名		戶 亡名養子		主 氏 名 何年何月何日生	
養 子 何年何月何日生 養父名幾男		嗣 子 何年何月何日生		弟 何年何月何日生 父名養子		兄 何年何月何日生	

縱七寸

參寸貳分

細則第十 三條第三 項遺棄日 主タルノ 例

同項遺棄 戸主タル トキ夫ノ 養父ノ 例

同上養父 母ノ例

愛媛縣何那何村何番戸

前戸主 亡夫氏名

士族

前戸主 亡夫氏名

何年何月何日相續(家女ナルトキ) 何 氏 名

何年何月何日相續(他女ナルトキ) 何 氏 名

何年何月何日生 亡祖父名幾男

何年何月何日生 舅名妻

何年何月何日生 姑 名

何年何月何日生 入籍ス 何年何月何日何府何區何町平民氏名幾女

細則第四十條
 三項入籍ノ夫相續ノ例
 同條第五項
 子前夫ノ例
 同條第六項
 縁女ノ主ノ例
 同項長二男ノ縁女ノ例

愛媛縣何郡何村何番戸								平民	
何年何月何日何縣何郡何村平民名幾男 入籍ス㉠ 何年何月何日相續㉡	前戸主 前夫氏名 (前夫跡直ニ相續ノトキ) 妻氏名 (妻一旦戸主タル後相續ノトキ)			氏名					
何年何月何日何縣何郡何村士族氏名幾女 入籍ス、(他女ナルトキ)㉢	前夫名幾男	何年何月何日生			前夫名幾男	何年何月何日生			名
何年何月何日何郡何村平民名幾女入籍ス ㉣	何年何月何日生	何年何月何日生			何年何月何日生	何年何月何日生			名
同項長二男ノ縁女ノ例	長男名幾女	何年何月何日生			長男名幾女	何年何月何日生			名
同條第六項 縁女ノ主ノ例	縁女	何年何月何日生			縁女	何年何月何日生			名
同項長二男ノ縁女ノ例	長男名幾女	何年何月何日生			長男名幾女	何年何月何日生			名

同項養子 ノ縁女		同條第七 項二三男 ノ妻ノ例		同項孫ノ 妻ノ例		同條第八 項女戸主 ノ私生子 ノ例		同項長二 子ノ私生 子ノ例		二十二年訓令第七 十四號ヲ以テ免許 ノ下ヘノ上ニ以下 十五字追加	
何年何月何日何府何區何町士族氏名幾女 入籍ス①	何年何月何日何縣何郡何村平民氏名幾女 入籍ス②	何年何月何日何縣何郡何村平民氏名私生子何年何月何日 免許ノ上何年何月何日父某方へ送籍ス③	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生
長	女	孫	婦	私	子	孫	孫	孫	孫	孫	孫
養子名縁女	何年何月何日生	孫名妻	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名

同項姉妹 ノ私生子 ノ例		同條第九 項男戸主 ノ庶子ノ 例		同項長二 男ノ庶子 ノ例		同項兄弟 ノ庶子ノ 例		二十五年		二十五年	
何年何月何日何縣何郡何村平民氏名私生子何年何月何日 免許ノ上加籍④	何年何月何日何縣何郡何村平民氏名私生子何年何月何日 免許ノ上加籍⑤	何年何月何日何縣何郡何村平民氏名私生子何年何月何日 免許ノ上加籍⑥	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生
甥	庶	子	孫	姪	姪	姪	姪	姪	姪	姪	姪
姉名私子	何年何月何日生	長男名庶子	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名

細則第十
三條第十
項全戶附
籍ノ例

愛媛縣何郡何村何番戸平民氏名附籍

何年何月何日何縣何郡何村何番地(戸)ヨ
リ全戸附籍(註)

士族
前戸主 亡父氏名

附籍主 亡父名 幾男

氏名

何年何月何日生

細則第十
三條第十
一項第十
全分十二
項第一
與絕家再
例

何年何月何日何縣何郡何村何土族氏名幾男
分籍(絶家再興)ス㊦

愛媛縣何郡何村何番戶

平民
前戶主 絶家氏名

主 戶 父名幾男
氏 名
何年何月何日生

(表紙厚紙)

無住家屋簿

何郡何町(村)外何ヶ町(村)
「戸長役場」

縦七寸 横一尺二寸五分

何町(村)何番地 官有 年月日何郡何町(村)何番地 へ移轉	何町(村)何番地 官有 年月日何郡何町(村)ヨリ移 轉ス	何々郡役所	何々裁判所
-------------------------------------	------------------------------------	-------	-------

何町(村)何番地 官有 民有	何々小學校
故事 年月日廢校	
何町(村)何番地 官有 民有	郷社何々神社
故事 年月日祠掌何某管理者トナル	祠官何々某
何町(村)何番地 官有 民有	本寺何宗何寺何末 何々寺
故事 年月日住職何某管理者トナル	住職何々某
何町(村)何番地 官有 民有	何々工場
故事 年月日何某へ賣渡	所有主何々某

(表紙原紙)

刑事被處分者名簿

(用紙ハ役場通常用紙)

何郡何町(村)外何ヶ町(村)
戸長役場

何町(村)何番戸族籍 (非戸主ナレハ某幾男女或ハ兄弟等記入ス以下全シ)
右何々ノ犯罪ニ依リ何年何月日何裁判所ニ於テ主刑何々附加刑何々ニ處セラレ
何町(村)何番戸族籍
右何々ノ犯罪ニ依リ何年何月日何警察署ニ於テ懲罰何々過料何程ニ處セラレ
何町(村)何番戸族籍

何町(村)何番戸族籍
右何某ヨリ何々詞訟ノ末何年何月日何裁判所ニ於テ身代限ニ處セラレ

何郡何町村
何番戸
板分四

縱曲尺 四寸

士族(平民)
氏名
板分六

縱曲尺 五寸

何府縣士族(平民)
寄留氏名
名

寸法前三同シ

(位記アルモノハ氏名ノ上ニ記ス)

除籍簿
愛媛縣何國何郡
村

(表紙厚紙)

明治何年分
本籍人管内出生之部
本籍人管外出生之部
棄兒之部
無籍者就籍之部
加籍
目錄
何郡何町(村)外何ヶ町(村)
戸長役場

共ニ貳冊

何町 何町 何町 何村 何村

數町村ヲ管轄スル「戸長役場」ハ一帳簿内一町村毎ニ見出紙ヲ付シ區別スル事
(管内異動目錄ヲ除ク)以下皆同シ又件數多キ役場ニ於テハ一町村毎ニ一種中
ノ各部門ヲ分チ登記スヘシ以下皆同シ

明治何年分
他府縣ヨリ入籍之部
他郡ヨリ入籍之部
他「戸長役場」内ヨリ入籍之部
加 籍 目 録

共三二冊

何郡何町(村)外何ヶ町(村)
「戸長役場」

明治何年分
本籍人管内死亡之部
本籍人管外死亡之部
失踪者及重籍者除籍之部
除 籍 目 録

共三二冊

何郡何町(村)外何ヶ町(村)
「戸長役場」

明治何年分
他府縣へ送籍之部
他郡へ送籍之部
他「戸長役場」管内へ送籍之部
除 籍 目 録

共三二冊

何郡何町(村)外何ヶ町(村)
「戸長役場」

明治何年分
管内送籍之部
管内異動目録

共三二冊

何郡何町(村)外何ヶ町(村)
「戸長役場」

明治何年分

異動之部

管内異動目錄

共二三冊

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戸長役場」

(表紙厚紙)

明治何年何月何日編製(改製)

他府縣之部

入寄留簿

共二三冊

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戸長役場」

數町村ヲ管轄スル「戸籍役場」ハ一帳簿内ニ一村毎ニ見出紙ヲ附シ區別スル
コト登記目錄様式ニ同シ以下倣之

明治何年何月何日編製(改製)
他郡之部

入寄留簿

共二三冊

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戸長役場」

明治何年何月何日編製(改製)

他町村之部

入寄留簿

共二三冊

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戸長役場」

明治何年何月何日編製(改製)
他府縣之部

出 寄 留 簿

共二三冊

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戸 長 役 場」

明治何年何月何日編製(改製)

他郡之部

出 寄 留 簿

共二三冊

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戸 長 役 場」

何縣何郡何町何番戶		前戶主 亡父氏 名	
何年何月何日相續、何年何月何日願濟改名、何年何月何日願濟復姓		士族(平民)	
何年何月何日何縣何郡何村平民氏名二女		亡父名長男	
入籍		舊姓號 氏 名 舊名	
何年何月何日何府何區何町士族氏名長女		何年何月何日生	
入籍		亡父名妻	
何年何月何日何府何區何町士族氏名長女		何年何月何日生	
右全戶幾名御管内何町何村番戶(地)へ轉住之義申出候ニ付及送籍候也		何年何月何日生	
		妻 名	
		母 名	
		主 名	

△印 第何號 (本番號ハ登記目錄ノ番號ヲ用ヒ役場印ヲ以テ登記目錄ト御印スヘシ以下同シ) 全戶ノ送籍狀書式

(△印ハ朱書)

二十一年法律第一
號二十二號ニヨリ官
六十二號ニヨリ官
シノ字消滅以下皆全

年月日	何縣何郡何町村 何府縣何郡何町村戶長御中 (區ハ何府縣何區々長御中 ト記スヘシ以下同シ)
何縣何郡何町村	戶長
	氏名官印

△ 第 號

人別ノ送籍狀書式

何縣何郡何町村何番戶	士族(平民)
何年何月何日何府何區何町士族氏名養子 (妻)離縁ニ付復歸	戶主 氏 名
右之者御管内何町村何番戶(地)士族(平民)	亡父幾男女
出ニ付及送籍候也	何年何月何日生
年月月	氏名養子(妻)ニ差遺シ候旨申
何府縣何郡何町村戶長御中	何縣何郡何町村
	戶長
	氏名官印

入籍報知書々式

(用紙ハ役場通常用紙)

第 號

元何府縣何郡何區何町村何番戸(地)士族(平民)

氏 名

家族 何 名

右何年何月何日付第何號送籍狀ニ照查シ今何日管内何町村何番戸へ入籍取扱候此段及報知候也

年 月 日

何縣何郡何町村「戸長」氏 名 印

何府縣何郡何町村戸長氏名殿

同上

第 號

元何府縣何郡區何町村何番戸(地)士族(平民) 氏名幾男女

名

右何年何月何日付第何號送籍狀ニ照查シ昨何日管内何町村何番戸士族(平民)氏名幾子(妻)ニ入籍取扱候此段及報知候也

年 月 日

何府縣何郡何町村「戶長」氏 名 附

◎達甲第百號 (明治二十年九月二十六日)

郡役所 「戶長役場」

戶籍上當廳へ出願ヲ要スヘキ概目左ノ如ク之ヲ定ム其願書ニハ近親二名(養實双方ノ連署ヲ要スルトキハ各二名)以上連署セシムヘシ

但出願ノ節「戶長」ニ於テ本人戶籍(徵兵年齡以前ノ嗣子他家縁參ノ類ハ双方ノ戶籍)ヲ謄寫シ與印ノ上添付スヘシ

一 郡長委任外ニ屬スル廢嫡等ノ類

一 養子家女ヲ離縁シ又ハ家女ニ配偶セシメサル養嗣子ヲ爲スノ類

一 戶主病疾其他ノ事故(死亡ヲ除ク)ニ依リ年長者ヲ以テ先代ノ養子トナシ相續セシムルノ類

一 夫死後嗣子ヲ置キ遺妻相續又ハ嗣子一旦相續ノ後該遺妻へ後夫ヲ迎フルノ類

一 嗣子死後承祖ノ孫ヲ措キ遺妻相續又ハ承祖ノ孫相續ノ後該遺妻へ再嫁養子ヲ迎フルノ類

一 戶主死亡又ハ失踪逃亡后養女ヲ迎へ跡相續セシムルノ類

一 幼戶主(十年未滿)退隱シ父再相續並ニ伯叔父母及兄弟姉妹ノ相續又ハ養子ヲ迎フルノ類

二十三年訓令第八十八號ヲ以テ第六項改正

二十二年訓令第三十八號ヲ以テ第八項追加
二十二年訓令第二四五號全訓令第六十七號參看

一 無籍者入籍及籍面誤謬改正ノ類

○訓第一二九號 (明治二十年十月二十九日)

郡役所 「戶長役場」

戶籍取扱細則第九條刑法及「身代限」ノ處分ヲ受ケタル者ノ名簿ハ其時々無遺漏加除スヘキハ勿論ノ處右ハ議員選舉被選舉等ノ權利ニ相關スル儀ニ付特ニ注意シ粗漏ニ涉ラサル様取扱フヘシ

○訓第一八七號 (明治二十年十二月廿一日)

郡役所 「戶長役場」

戶籍簿ノ義ハ本年達甲第九十九號戶籍取扱細則第一條ニ據リ一町村ヲ一部トシ町村限リ編製スヘキ筈ニ候處其町村之戶數三十戸以下紙數僅少ニシテ取扱上却テ不便ヲ來シ候様ノ場合ニアリテハ毎村部門ヲ設ケ合冊ト爲スモ妨ケナシ

◎訓令第七號 (明治二十二年二月七日)

郡役所 「戶長役場」

分家ノ戶主ニシテ其實父母ヲ引受加籍ノ儀ハ自今出願ニ及ハス所轄「戶長」へ届出シムヘシ

○訓第二四五號 (明治二十二年五月四日)

郡役所

明治二十年(二月)達乙第十一號ヲ以テ郡長へ特ニ分任セシ條件中第十七條ハ取消

シ候條自今無籍者入籍及籍面誤謬改正願進達ノ際ハ篤ト其實事ヲ審查糺明シ單ニ
證人等ノ申立ノミナラス必ス書類物件等權平證憑トナルヘキモノヲ添付セシメ尙
右ニ對スル意見書ヲ付シ差出スヘシ

右訓令ス
◎訓令第六十二號 (明治二十二年七月二十七日)

管下人民ニシテ東京府下へ送籍ノ際ハ爾今同市當該區役所宛ヲ以テ該送籍狀送付
スヘシ

〔戶長役場〕

◎訓令第六十七號 (明治二十二年九月二十二日)

郡役所「戶長役場」

無籍者入籍方ノ義ニ付本年五月四日第三拾八號ヲ以テ及訓令准候趣モ有之候處明
治十九年内務省令第十九號及全第二十五號ノ制裁ヲ受クヘキ無籍者ハ自今出願セ
シムルニ及ハス〔戶長役場〕へ届出シメ直ニ編籍方取計フヘシ

◎訓令第八十六號 (明治二十二年十二月二日)

郡役所「戶長役場」

明治十九年内務省令第十九號及全第二十五號ノ違背者(自首又ハ告發ニ係ルモノ)
ニシテ省令第十九號第九條ノ處斷ヲ受クヘキモノハ自今其裁判所又ハ警察署分署
等ヨリ通知書ヲ得テ戶籍ニ登記スル儀ト心得ヘシ

但本文ニ牴觸スル從前ノ令達指令等ハ總テ取消ス

○内第四號 (明治二十四年六月四日)

出生届ハ明治十九年内務省令第十九號ニ依リ無遺漏正當ニ差出スヘキ筈ノ處間々
等閑ニ流レ候向モ有之由ニ相聞ヘ右ハ權利義務ニモ關係シ重要ノ件ニ付其旨趣遍
ク貫徹候様兼々説諭致スヘク若シ等閑ニ附スルハ本例ニ依リ處分ヲ受クヘキハ
當然ニ付心得違無之様町村長へ示達セラルヘシ

右内訓ス

各郡長宛

出生届ハ明治十九年内務省令第十九號ニ依リ無遺漏正當ニ差出スヘキ筈ノ處間々
等閑ニ流レ候向モ有之由ニ相聞ヘ右ハ權利義務ニモ關係シ重要ノ件ニ付其旨趣遍
ク貫徹候様兼々説諭致スヘク若シ等閑ニ附スルトキハ本例ニ依リ處分ヲ受クヘキ
ハ當然ニ付心得違無之様示達セラルヘシ

右内訓ス

市長宛

○三訓第四八號 (明治廿七年二月七日)

各郡松山市
各町村

明治廿年(九月)本縣達甲第九十九號戶籍取扱細則第九條及ヒ第十九條ノ旨モ有之

候處自今其名簿登記方一層注意シ本籍人ノ刑罰（輕罪以上ノ刑及賭博犯ニ依ル懲罰）ヲ受ケ及身代限ノ處分又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタル者（刑罰ニ付テハ其罪名、刑名、及裁判年月日、身代限、家資分散、破産ニ付テハ處分又ハ宣告ノ年月日及債務ノ辨償ヲ終ヘ又ハ復權シタルモノハ其年月日トモ記載スルヲ要ス）等ハ詳細記載スヘシ且其送籍ヲ要スル届出アルルハ右名簿ニ記載アルモノハ該簿本記載ナキモノハ右事項ニ當ル行爲アリシコトナキモノ通知書ヲ送籍狀ニ添ヘ送附スヘシ
右訓令ス

第六章 身分證明

二十四年訓令第百十七號參看

◎乙第六十五號（明治十七年四月二十九日）

各郡町村

本縣在籍ノ者ニシテ警視廳へ巡查志願之者本人ニ關スル身分證書へ奥印ヲ要スル者有之節ハ事實調査ノ上左ノ書式ニ照依シ奥印可致此旨相達候事
（書式）

身元證明書

氏名

原籍 縣何郡市何町村番地又ハ何某方同居

二十四年訓令第百十二號ヲ以テ身元證明書式改正

身分 華士族又ハ平民戶主或ハ何某何男兄弟

生年月日 年月日生

家資分産又ハ身代限リ 無（但家資分産ノ宣告ヲ受ケタルモノハ復權ヲ得タル

ヤ否又ハ從前身代限リノ處分ヲ受ケタルモノハ義務ノ辨償ヲ終リタルヤ否ヲ記スヘシ）

兵役 國民軍或ハ親役歸休豫備後備等（但徵集猶豫延期免除等ニ係ル者ハ

其理由ヲ記スヘシ）

右證明候也

年月日

郡市町村長氏名印

◎達甲第十一號（明治二十年二月一日）

各郡町村

當縣在籍之者各府縣巡查志願ニ付本籍身分證書へ奥書請求ノ節ハ詳細取調ノ上左ノ書式ニ照依シ奥書ス可シ
（書式）

本籍身分證書

愛媛縣何國何郡何町村何番地

身分戶主或ハ何某幾男兄弟養子等

姓名

生年月日 年號(干支)何年何月何日生

何年何ヶ月

兵役 有無若シ有之ハ其兵籍ヲ詳記スヘシ

罰科 有無若シ有之ハ其罪名刑名等ヲ詳記スヘシ

身代限 有無若シ有之ハ其義務ヲ終ヘタルヤ否ヤヲ記スヘシ

年號月日 姓名 印

右之通相違無之候ニ付與印候也 愛媛縣何郡長又ハ何郡何町村「戸長」

十七年乙第六十五號參看

◎訓令第百十七號 (明治二十四年十二月十日)

郡役所 市役所 町村役場

年號月日 姓名 印

警視廳看守志願者身元證明書モ本年(十一月)愛媛縣訓令第百十二號巡查身元證明書々式ニ準據スヘシ

但明治十八年(四月)本縣乙第八十八號達ハ廢止ス

◎乾第百三十八號 (明治九年十月廿三日)

第七章 雜款

從來ノ習慣ニテ二三男ニ別苗字ヲ附スルヨリ一家族ニシテ其戸主ト苗字ヲ異ニスルモノ往々有之自然別戸ノ姿ニ相見ヘ不都合ニ候條速ニ戸主同一ノ苗字ニ引直シ其旨可届出此段布達候事

第二十編 賞恤

第一章 褒賞

◎坤第百八十號 (明治八年十一月十三日)

各區々戸長

管下人民へ賞譽トシテ辭令書及品物等下賜候節是迄受書不差出向モ儘有之候處自今ハ總テ爲差出其會所於テ取纏メ其都度可差出此段相達候事

○警第千百二號 (明治十四年一月十九日)

一般人民ニシテ警察上ニ功勞有之賞狀下附之節其辭令ハ所管郡長ヨリ授付シ來候處自今ハ左ノ手續ヲ以テ警察署又ハ分署所轄ノ人民へ直チニ授付可致此段相達候事

第一條 辭令書渡方ノ義ハ其所轄ノ警察署又ハ分署ヨリ直ニ其人民ヲ呼出辭令書本人へ授付シ(成丈本人ノ便宜ヲ得候様注意スヘシ)然シテ警察署ニ於テ其辭令文ヲ謄寫シ郡長へ通知スヘシ

第二條 賞狀下付ノ上ハ賞與文署前掲示場へ添表スヘシ

◎乙第五十一號 (明治十六年四月十一日)

各警察署 各郡町村

客年乙第五十七號并同第七十二號達共相廢シ更ニ左之通相定候條此旨相達候事

第一條 警察官吏并町村「戸長」ニ於テハ常ニ所轄内人民ノ善行ニ注意シ明治十四年第六十三號公布ニ依リ褒章ヲ賜ヒ又ハ褒狀ヲ與フヘキモノト認ムルルキハ猶精密之レヲ取調ヘ左數項ノ要領ニ參査シ警察官吏ハ直ニ本廳ニ具申シ「戸長」ハ上申書式ニ照シ近隣町村「戸長」三名以上連署シ郡長ヲ經テ具申スヘシ但「戸長」ニ於テ人命救助者具申ノ節ハ連署ヲ要セス尤關係アル「戸長」ハ連署スヘシ

第二條 郡長ハ町村「戸長」ヨリ前條ノ具申ヲ得レハ猶其實行ヲ覈査シ具ニ意見ヲ付シテ本廳ヘ開申スヘシ

但時宜ニヨリ書記ヲ派遣シ實況ヲ審査セシムルヲ得

具申ノ要件

- 一 住所族籍(戸籍面寫ヲ添ヘ雇人ニ在テハ主家並ニ本人ノ戸籍面寫ヲ添フヘシ)
- 一 官位勳等
- 一 姓名年齢
- 一 受賞受刑ノ有無 (賞罰共其全文ヲ記スヘシ)
- 一 人命救助者

最モ危難ト見認ムヘキ實況

一 數人ニテ救助セシ場合ニ於テハ其内最モ先盡力ノ者ヨリ甲乙ノ區別

一 水難者ト救助者ノ船又ハ陸トノ距離及ヒ河海ノ淺深廣狹水勢ノ緩急等

德行者

一 資性

一 其爲人何々(朴直温良和順等ノ類ヲ云フ)及學藝ノ有無

一 職業

一 農及何職工何商業等親子及本職業ヲ異ニスレハ其種別

一 現狀及經歷

一 其志操不變ノ年數及遭遇スル艱難辛苦及從事ノ始末等本人ノ小傳記事トモ成シ得ヘキ様尤モ詳細精密記載スヘシ

一 關係

一 前項ノ場合ニ在テ月日地名甲乙人等へ關係アルモノハ其年月日地名甲乙人姓名等明記シ誤謬ナキヲ要ス

一 貧富

一 從來富裕ニシテ漸次貧困ニ陥リ或ハ貧困ナリシモ漸次富裕ニ及ブ等ノ事由及資産(動不動産共)ノ有無等現狀ヲ具ス

公益ヲ興セシ者

一 平素ノ志行
 品行素狀等可成詳細記載スルヲ要ス

一 事業經營ノ始末
 創始及竣功ノ年月日ト其年間遭遇スル所ノ刻苦經畫及費シタル金員木石米穀等ノ員數(時價付記スヘシ)
 數人共立ニ係ルモノハ其發起人刻苦搢思助成人盡力ノ關係等尤詳細精密ニ記載スヘシ

一 其成蹟
 成蹟ノ現狀及其利益及フ所ノ廣狹
 疏川等ノ業ニ在テハ其幅員延長事業ノ方法發源注入ノ地名及里程經ル所ノ水利關係ノ町村名河川ノ幹支草流ノ別及ヒ其圖面
 築堤修路等ニ在ハ修築セサル以前ノ景況修築セル幅員延長高低事業ノ方法並ニ其質(土石ノ類)道路ノ等級及其圖面
 墾田ノ如キハ開墾セサル以前ノ模様開成セル難易其反別收穫ノ實數將來ノ見込村落距離(最近ノ村落ト開墾ノ場所)通路ノ便否及其圖面
 貧院學校等ハ設立ノ場所構造ノ模様建坪及執行ノ規則並敎師生徒醫員患者等ノ員數及將來維持ノ方法
 但前數項ノ場合ニ在テハ關係町村「戸長」連署スヘシ

右數項ニ恰當セサルモノト雖事業ノ類似シタル者ハ渾テ前項ニ准シ取調ヘシ

一 資産
 本人所有セシ不動産ノ高

「戸長」上申書式

何郡何町村族籍

營業アルモノハ其種別及等級官位勳等アルハ官位勳等

何 某

何年何月日生
 滿何年何月生

一 何々
 一 何々要領ノ件々ヲ順次記載ス

前書之者(德行又ハ公衆ノ利益ヲ興シ)候聞ヘ有之ニ付取調候處相違無之候此段連署ヲ以テ上申候也

年月日

何郡何町村「戸長」

(本籍分) 何 某 印

同上

(近隣分) 何 某 印

同上

(近隣分) 何 某 印

〔縣 令〕 宛

○訓第二五號 (明治二十三年二月五日)

郡役所 市役所

小學校ノ設置ヲ指定シタル市町村ニアリテハ其小學校ヲ設置支持スル爲メ設置區域ト等シキ市町村ノ金穀物件ヲ充用スルハ素ヨリ寄附ト認ムヘキモノニ無之ヲ以テ明治十六年一月第一號布告ニ據リ賞與スヘキ限リニアラサル儀ト心得ヘシ
右訓令ス

◎訓令第七十七號 (明治二十四年七月十四日)

市役所 町村役場

醫師無謝儀ニテ貧民患者施療藥又ハ施種痘ヲ爲タル者ハ其醫師ノ住所氏名並ニ施療施藥又施種痘ヲ受ケタル者ノ住所氏名及ヒ藥品ノ數量並ニ其代價(種痘ハ手数料)ヲ記シ翌年一月中市ハ市長ヨリ町村ハ町村長ヨリ所轄郡役所ヲ經テ賞與方上申スヘシ

第二章 勳位

◎甲第十五號 (明治十二年八月二十九日)

叙勳者履歷届出心得別紙ノ通配付相成候條此段布達候事
(別紙)

叙勳者履歷届出心得

第一條 新ニ勳等ニ叙セラレタル者ハ第二條離形ニ照準シ履歷書相認メ(用紙美濃紙)ニ二週間以内(往復日數ヲ除ク)ニ之ヲ賞勳局ニ届出ヘシ
但從前勳等ニ叙セラレタルモノハ此心得書承了ノ日ヨリ本文同様ノ日數内ニ届出ヘシ

第二條 履歷書離形

本貫族籍(元本貫、元族籍)

苗 字 名

年號月日某國郡村町ニ於テ生

年號月日

一 任某官 或ハ某職(被仰付候事、申付候事)

但達全文ヲ書載スヘシ

同上

一 免本官 或ハ某職(被差免候事、差免候事)

但同上

同上

一 叙某位

但同上

同上

一 内外御用出張 復命ノ時モ書載スヘシ
但同上

同上

一 賞典
但同上

同上

一 責罰
但同上

第三條 勳等ニ叙セラレタルモノハ第二條履歷書ノ廉届濟ノ後左ノ事項有之候節
賞勳局ニ届出ヘシ(用紙美濃紙)
但届出期限ハ第一條ノ例ニ同シ

一 現ニ官位アル者ハ轉免點陟等有之節
但達全文ヲ書載シ届ケ出ヘシ

一 非職ノ者新ニ任官叙位ノ命ヲ拜シタル節
但同上

一 内外御用出張ノ命ヲ受ケタル節及復命ノ節
但同上

一 賞典及ヒ責罰ヲ受ケタル節
但同上

一 外國旅行ハ公私ヲ不論發航及ヒ歸朝ノ節

一 本貫族籍等轉換ノ節

一 苗字名變改ノ節

一 住所轉換ノ節
但叙勳ノ節ノ現住所ハ第二條履歷ト共ニ届ケ出ヘシ

一 死亡ノ節
但遺族又ハ親戚ヨリ其管轄廳ヲ經テ届出ヘシ

明治十一年十一月
太政官賞勳局

◎乙第二百六十六號 (明治十二年八月廿八日)

各郡町村

勳位及從軍記章拜授ノ者ニシテ國事犯罪若シクハ破廉耻甚ニ係ル罪ヲ犯シ處刑ヲ受クルモノアルトキ舊惡滅免贖罪收贖等ニ抱ラス「戸長」ヨリ其宣告書寫相添郡役所ヲ經テ當廳ヘ可届出此段相達候事

◎丙内第三號 (明治廿七年一月廿日)

官國幣社禰宜主典判任待遇ノ者在職十ヶ年以上勤勞アルモノハ特ニ叙位セラルルキ義モ可有之ニ依リ將來相當ノ者ハ本人履歷書相添内申スヘシ

右内訓ス

大山祇神社宮司宛

第三章 恤救

○訓第一五號 (明治十九年九月二十一日)

各 郡

明治七年第六十二號公達濟貧恤窮規則ニ據リ救助ヲ施スヘキモノハ其町村内及ヒ親戚隣保ノ協救ト幾ント盡キ乍テ饑餓ニ迫ラントスル者無告ノ窮民ニ限り候處該救助ヲ願出ル窮民ノ數日ニ月ニ増加シ今ヤ始ト四百名ニ垂ントス本年六月調査ノ現數ニ依レハ一郡ニシテ五十名ニ達スルアリ僅カニ三名ニ上ラサルモノアリ又ハ全クナキモノアリ夫レ一郡内ニシテ如斯窮民ノ員數ニ懸隔アルハ原ト土地ノ冷熱人口ノ多寡等其狀況ニ因リ然ルヘシト雖モ願フニ受救者ノ多キハ其町村内ニ救助ノ方法ナク又親戚隣保相救ノ情誼ニ乏シク恤窮規則ニ該當スルモノト否トニ拘ハラス一ニ官ノ救助ニ依頼セントスルヲ以テ常トスル如キ弊ナキヲ難保蓋シ是等ハ專ラ人民ニ直接スル「戸長」ニ於テ注意ヲ爲スト否ラサルトニ依リ然ルモノナレハ尙一層精密ノ調査ヲ遂ケ可成其町村内ニ於テ相救及ヒ親戚隣保若クハ篤志者等ノ情誼ヲ以テ救濟ノ計畫ヲ爲サシメラルヘシ

◎達甲第八十六號 (明治二十年七月九日)

郡役所「戸長役場」

明治七年第六十二號公達濟貧恤窮規則ニ係ル救助施行順序ニ付客年訓第十五號ヲ以テ訓令ニ及ヒタル次第モ有之就テハ自今親戚隣保及其町村ニ於テ協救ノ力ヲ盡シ猶官救ヲ仰カサルヲ得サルモノアリテ出願致候節ハ「戸長」ニ於テ左ノ事項ニ依リ精覈取調具狀シ郡長ニ於テハ猶其實況ヲ審查シ意見ヲ附シ送達スヘシ

但明治十九年達甲第二十二號達ヲ除ク外本文ニ關スル從前ノ達ハ渾テ廢止ス
身元調査

廢(篤)疾(老衰)幼弱

郡町村族籍職業

姓 年 齡

一家數人ニ涉ルモノハ此次ニ列記ス

- 一 職業ヲ營ムコト能ハサル實況
- 一 住家及從來生計ノ狀況
- 一 動不動産所有ノ有無 (地所建物船舶并公債証書株券ノ類)
- 一 親戚身寄者ノ住所姓名及其續柄
- 一 親戚身寄者貧富ノ實況
- 一 親戚隣保及町村協救ノ米穀金員及其人名等
- 一 但人名書ハ別紙ニスルモ妨ケナシ

十九年達甲第二十
二號ハ二十五訓
令第三十九號ヲ以
テ廢止

右及御届候也

年月日

市町村長

知事宛

一 養子女或ハ相續人貰受ノ儀ハ受救者中獨身ノモノ侍養スヘキ養子女等ヲ迎ヘタルトキニ限り届出ヘキモノニシテ其他ハ届出ニ及ハス
 但貰受届ハ其實家住所氏名續合本人ノ名及年齢等ヲ事由欄内ニ附記スヘシ
 一 前書式ニ據リ難キ異動ハ總テ其事由ヲ具シ適宜届出ヘシ
 棄兒拾揚(或ハ)異動届
 官費ノ分(自費養育ニ係ル分ハ官費ノ二字ヲ自費ト改ムヘシ) △印朱書

年月日	事由	棄兒姓名	出生年月日	養育人住所	全姓名
何年何月何日	拾揚	何某	何年何月何日	何郡何市何町村 大字何何番戸	何某
、、、、	死亡	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、
、、、、	轉籍(或ハ寄留)	、、、、	、、、、	△舊住處 、、、、	、、、、
、、、、	養育替	、、、、	、、、、	△舊養育人住所 、、、、	、、、、
、、、、	官費養育ヨリ自費養育ニ移ル	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、

右及御届候也

年月日

市町村長

知事宛

一 養育替ヲ爲スニ當リ官費養育ヨリ自費養育ニ轉スル向ハ其旨附記スヘシ
 一 他管下ヨリ養育替及轉籍ノ分ハ棄兒出生拾揚等ノ年月日及養育米受領濟ノ年月日ヲ附記スヘシ
 一 前書式ニ據リ難キ異動ハ總テ其事實ヲ具シ適宜届出ヘシ

第二十一編 外交

第一章 接遇

○訓第四二七號 (明治二十二年九月十六日)

各郡(上浮穴郡ヲ除ク) 三津警察署
沿海各町村 「戸長役場」

明治二十年八月三十日付第一〇八號訓令外國軍艦寄港ノ節取扱内規左ノ通改正ス
右訓令ス

二十五年内第一二號參看

外國軍艦寄港ノ節取扱内規

第一條 本縣港灣ニ外國軍艦(條約國軍艦ヲ云フ以下皆全シ)寄港ノ節ハ第十四條ノ受持區域ニ據リ所在ノ郡長「戸長」又ハ三津警察署長ニ於テ其軍艦ヲ訪問シ左ノ區別ニ從ヒ海軍大臣吳鎮守府司令長官及知事ニ報告スヘシ

但其港ニ我軍艦碇泊スルトキハ本文報告ヲ要セス

一 國名艦號並入津月日時刻

一 何レヨリ何用ニテ入港何用ニテ何レニ出港

右海軍大臣及吳鎮守府司令長官ハ直ニ電報ヲ以テ報告シ(電信局ナキ地ハ最近ノ電信局迄郵便ヲ以テ送り全局ヨリ電信ニテ報告スヘシ)別ニ縣知事へ郵便ヲ以テ申報スヘシ

一 乗員ノ舉動其他見聞ノ次第

右海軍大臣及吳鎮守府司令長官へ直ニ郵便ヲ以テ報告シ別ニ縣知事へ申報スヘシ

第二條 訪問ノ節ハ言語不通應答差支ノ場合ハ別紙尋問書ヲ交付シ其答辭ヲ記入セシムヘシ

但該尋問書答辭翻譯難キトキハ當廳ニ於テ翻譯シ報告スヘキニ付其儘郵送スベシ

第三條 訪問ノ節ハ先ツ當方ノ官氏名ヲ通シ彼ノ承諾ヲ得タル上乘艦シ應接上相當ノ敬禮ヲ盡シ決シテ推問ケ間敷儀無之様注意スヘシ

第四條 寄港ノ趣意一時暴風雨ヲ避クルカ又ハ薪水食料ノ缺乏若クハ船体損所修繕等ノ爲メニシテ若シ食料品ノ買入或ハ人夫等ヲ要スルコトアルトキハ相當ノ補助ヲ與ヘ諸般不都合ナカラシムヘシ

但陸上宿泊ハ萬不得止場合ノ外之ヲ謝絶スヘシ

第五條 前條ノ場合ニ於テ其謝意ヲ表スル爲メ彼ヨリ郡役所又ハ「戸長役場」へ訪問スルコトアルトキハ郡長又ハ「戸長」ハ其船艦ニ至リ相當ノ答禮ヲ爲スヘシ警察署ニ於テ訪問ヲ受ケタルトキ署長モ亦全シ

第六條 士官以上ノ者散步若クハ買物等ノ爲メ上陸セントスルトキハ豫メ其寄港市街ニ限ルヘキ旨ヲ指示シ之ヲ差許スヘシ

但シ此場合ニ於テハ特ニ巡查ヲシテ相當ノ警護ヲ爲サシムヘシ

第七條 若シ前條ノ區域外ヲ散步セントスルトキハ平穩寛和ニ之ヲ示諭スヘシ若シ之ヲ聞入サルトキハ速ニ其趣艦長ニ通報スヘシ

第八條 兵卒銃器ヲ携ヘ隊伍ヲ組ミ上陸スル儀ハ不相成ニ付若シ上陸セントスルトキハ其旨ヲ示シ之ヲ拒絕スヘシ尤モ銃器ヲ携帶セス隊伍ヲ組マス艦長ニ於テ相當ノ取締ヲ爲シ士官等附添ヒ上陸セントスルトキハ第六條ノ趣旨ニ從ヒ之ヲ許スモ妨ケナシ

二十二年四六四號
ヲ以テ第六條中「
最寄」ヲ寄港ト
改ム

第九條 碇泊中陸地ニ於テ運働若クハ操練ヲ爲スハ不相成ニ付若シ之ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ示シ之ヲ拒絶スヘシ

第十條 港内ハ勿論港外ト雖モ陸地ヲ去ル三海里以内ノ場所ニ於テ發火操練ハ不相成ニ付若シ之ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ示シ速ニ差止ムヘシ
但發火セサル操練ハ此限ニアラス

第十一條 清國軍艦ハ修好條規ニ於テ風雨ノ難ヲ避クルノ外ハ不開港場及内地ノ河湖支港ヘ入進スルコトヲ得サルノ取極メアルヲ以テ海上避難等急場ノ外ハ一切其寄港ヲ謝絶スヘシ

第十二條 條約國外ノ軍艦ト雖モ疑ハシキ廉無之時ハ此内規ニ準シ相當ノ取扱ヲナスヘシ

第十三條 前各條ニ依リ取扱タル頗末ハ郡長「戸長」ハ郡長ヲ經テ及警察署長ハ速ニ縣知事ヘ申報スヘキハ勿論取扱上尙モ疑岐ニ涉ル件ハ電信若クハ急使ヲ以テ縣知事ノ指揮ヲ乞フヘシ

第十四條 第一條訪問受持區域ヲ定ムル左ノ如シ

新	郡	名	港名並沿海町村名	受	持
居	宇	摩	川之江	宇	摩
西				郡	役
				所	所
條				新	居
				周	布
				桑	村
				郡	役
				所	

越	和	伊	西	北	各郡	沿海	各	町	村	所轄	「戸長」	役場
智	氣	豫	字	字	上浮	海	和	島	所轄	「戸長」	役場	
今	三	郡	八	宇	穴	各	和	島	所轄	「戸長」	役場	
	津		幡	島	除	町	島		所轄	「戸長」	役場	
治	濱	中	濱	南	ク	村	宇		所轄	「戸長」	役場	
越	三	下	西	宇	各	所轄	和		所轄	「戸長」	役場	
智	津	浮	字	北	郡	所轄	北		所轄	「戸長」	役場	
野	警	穴	和	宇	役	所轄	和		所轄	「戸長」	役場	
間	察	伊	郡	郡	所	所轄	郡		所轄	「戸長」	役場	
郡	署	豫	役	役	場	所轄	役		所轄	「戸長」	役場	
役		郡	所	所		所轄	所		所轄	「戸長」	役場	
所		役				所轄			所轄	「戸長」	役場	
		所				所轄			所轄	「戸長」	役場	

附則

第一條 軍艦ニアラサル條約國ノ船舶寄港ノ節ハ左ノ件々ヲ尋問シ内規第一條ニ準シ特ニ縣知事ニ申報スヘシ
外一切之ヲ拒絶スヘシ

一 國名船號

一 寄港ノ事由並ニ碇泊爲スヘキ時間

第二條 前條ノ船舶ニシテ若シ内規第四條ノ要件ヲ缺キ又ハ乘艦ヲ拒ミ答辨ヲ爲サ、ルトキハ速ニ退去ヲ命スヘシ

但寄港免狀ヲ所持スルモノハ第四條ノ要件ヲ缺クト雖モ退去ヲ命スルノ限ニアラス

Gentlemen,
 Be so kind as to write answers down on the following questions:—
 The name of your ship?
 Where from and what for?
 When and where for to start?

(参考)

譯

貫人ヨ

次ニ掲グル問ニ對シ答ヲ記入セラレヨ

貴船ノ稱號如何

何地ヨリ何用アリテ來リタルヤ

何時何地ニ向テ出發スルヤ

○内第一二號 (明治廿五年六月廿三日)

外國軍艦寄港ノ節取扱方ノ義ニ付テハ廿二年九月二十六日訓第四二七號ヲ以テ及訓令置候處自然其取扱方粗漏又ハ緩慢ニ涉ラサル様自今一層注意セラルヘシ
 右内訓ス

郡長宛上浮穴郡ヲ除ク

本邦軍艦寄港ノ節訪問方ノ儀ハ是迄別段内規等無之處禮節ヲ以テ之ヲ過シ厚意ヲ

以テ之レニ對スルハ固ヨリ論ヲ俟タサル儀ニ付自今右軍艦寄港ノ節ハ郡長(郡長不在ノ節ハ主坐郡書記)之レヲ訪問シ若シ軍艦ニ於テ要求スル所アル時ハ可成是レニ便利ヲ與ヘ又質問スル等ノ事アル時ハ懇篤之レヲ説明シ疎意ノ感ナカシムル様注意セラルヘシ

但訪問ノ際ハ該軍艦碇泊日數ヲモ問合セ若一兩日間モ碇泊スル場合ハ海軍々備如何等之レヲ人民ニ知ラシムル爲メ艦内縦覽ノ儀ヲ該艦長ニ照會シ其承諾ヲ得タル時ハ町村市員町村會議員又ハ赤十字社員其他重立タル者ヲシテ縦覽セシメラルヘシ最モ縦覽ノ節ハ必ス不敬ノ舉動等無之様嚴重注意セラルヘシ

右内訓ス

宇摩郡 新居周布桑村郡

越智野間郡 西宇和郡

南宇和北和宇郡長宛

○訓第一五〇號 (明治二十六年四月二十四日)

沿海町村役場

今般神戸税關長ヨリ取締上ニ關シ照會ノ次第有之外國船ニシテ風波其他困難ノ場合又ハ薪水欠乏等ノ爲メ寄航ノ節ハ該艦長又ハ副船司ニ別紙告知書ヲ示シタル上同書第三項ノ申告書ヲ徴シ直ニ同關長ヘ差出スヘシ
 右訓令ス

NOTICE,
to mariners putting into a non opened
port in distress.

Foreign ships or vessels are only permitted to enter non-opened ports or harbors when compelled to do so from stress of weather, or for a supply of fuel or provisions.

All ships or vessels so compelled to enter shall be placed under the supervision of the Japanese Authorities.

The master, or commanding officer, of a foreign ship or vessel entering a non-opened port or harbor shall fill up the blank on the opposite page with the required information-whenver it shall be presented by the Japanese Authorities-and sign his name to the same.

Any foreign ship smuggling or attempting to smuggle goods at any of the non-opened ports or harbours shall have all such goods forfeited to the Japanese Government, and the ship shall pay a fine of one thousand dollars for each offence of this kind, as provided for in the Trade Regulations.

In case a ship in distress is compelled to sell any spars, rigging or equipage, sea damaged cargo or ship's dunnage that may be subject to customs duty, duty shall be paid at the Custom House at an open port before the delivery of the goods, or the amount of duty may be deposited with the officer or officers despatched from the Custom House, and the prescribed formality may be performed subsequently at the Custom House.

不開港ニ於テ困難船ニ附與スル告知書

外國船日本ノ開カサル港ニ入ルヲ得ルハ困難ノ爲メ漂着シタルカ又ハ船用ノ薪水若クハ食料等缺乏補給ノ爲メ止ムヲ得サルノ事故アル場合ニ限ルモノトス

不開港ニ入りタル船舶ハ都テ日本官吏ノ監督ヲ受ケサル可ラス

外國船不開港ニ入ルトキハ船長左ニ掲クル項目ニ其事實ヲ記シ且記名シテ此書面ヲ持參セシ官吏ヘ速ニ提出スヘシ

外國船日本ノ開カサル港ニ於テ諸品ヲ密商シ或ハ密商セント謀ルトキハ其諸品ヲ日本政府ニ取リ上ケ犯セシ毎ニ其船ヨリ一千「ドル」ノ罰金ヲ拂ハシムルコトハ貿易章程ニ規定スル所ナリ

困難船難破ノ船具又ハ汐濡ノ荷物或ハ船滓ヲ賣拂フコトヲ要スル場合ニ於テ其中ニ有稅品アルホハ本品ヲ引渡ス以前ニ開港稅關ニ至リ納稅ノ手數ヲ了スルカ又ハ稅關出張官吏ヘ稅金ヲ預ケ置キ後テ稅關ニ於テ成規ノ手數ヲ爲スヘシ

- 船ノ國籍
- 船ノ名
- 船ノ持主又ハ會社ノ名
- 船ノ噸數
- 積荷ノ概目
- 船長ノ名
- 乘組人數(日本人、外國人)

船客人數
仕出シ港名
仕向ケ港名
寄港シタル日本ノ港名
本港ニ入リタル月日
本港ニ入リタル事故
年 月 日

船長

Declaration of master.

Nationality of Ship,
Name of Ship,
Name of Owner or Agent of
the Ship,
Tonnage,
Description of Cargo,
Name of Master,
Number of Crew { Japanese,
Foreign,
Number of Passengers,
Port of Clearance,
Port of Destination,
Intermediate Ports in Japan,
if any,
Date of Arrival in present port, ...
Cause for Entering,

Master.

189.

第二章 取締

八年坤第百十四號 參看

◎坤第九十一號 (明治八年五月廿日)

各區々戶長へ

外國人公私ノ用向有之地方通行ノ節取扱方ノ儀ハ明治六年四月外務省達書同七年太政官第八十七號御達ノ趣モ有之候ニ付縣内通行ノ儀前以相知候節ハ取締向可相達候得共突然立越候節官用ハ勿論自用タリトモ其事由及免許狀所持ノ有無ヲ懇ニ相尋免許狀所持無之節ハ其「區」ニ留置至急可伺出右所持有之又ハ官員付添等ニテ疑敷儀無之候ハ、宿泊人足等望ニ任無間様取扱尤取締ノ爲メ邏卒ヲシテ順「區」護衛可爲致此段爲心得豫テ相達置候事

八年坤第百二十七號 參看

◎坤第百十四號 (明治八年七月十八日)

各區々戶長「同邏卒」へ

外國人御國內通行取扱ノ儀ニ付今度別紙之通内務省ヨリ御達有之抑外國御交際ハ至重ノ儀萬一各人民ニ於テ外國人へ對シ不作法有之候テハ御國體ニ關涉シ不容易次第ハ申迄モ無之儀就テハ區内宿屋渡世ノ者初其他人民へモ心得違無之様常々懇ニ可申開置猶本年(五月)坤第九十一號達ノ通相心不取締無之様可致此段相達候事 (別紙)

外國人内地々質物産等學術研究或ハ病氣養生等無餘儀事故ヲ以内地旅行致候節沿道宿驛旅亭上泊ノ節宿主免狀検査不致者モ有之且外國人ノ内ニテ免狀検査相拒ミ候者モ有之候哉ニ相聞候ニ付今般外務省ニ於テ通行免狀表裏面トモ別紙離形ノ通改正致候條宿驛旅籠渡世ノ者ニ於テ兼テ相心得外國人旅泊ノ節ハ右免狀一見ヲ了シ免狀ノ番號并國名姓名宿帳ニ記載シ置キ後日取調ノ節胡亂ノ申出無之様可致尤免狀改方等ニ付外國人身柄ニ應シ夫々相等ノ取扱致候様各管下宿驛へ兼テ布達可取計依テ別紙免狀離形相添此旨相達候事

但「邏卒」區戸長等平常一々免狀相改候テハ煩雜ニ涉リ候ニ付以來ハ臨時取調等ノ節免狀相改候儀ト可相心得候事

明治八年七月二日

内務卿大久保利通

免狀 曲尺(竪六寸三分横八寸七分)鳥ノ子紙

表面

第號 外國人旅行免狀

國籍

姓名

身分

八年内務省丙第四十四號ヲ以テ「示令」ヲ「心得」ト改

寄留地名

旅行趣意

旅行先及路筋

旅行期限

右ハ / 保證ヲ以前書掲載ノ場所へ旅行致度旨申立差許候條道筋無故障相

通可申事

明治 年 月 日

外務省 印……………朱字

裏面

内地旅行外國人へ

心得

- 一 内地ヲ旅行スル外國人ハ總テ各地方ノ規則ニ遵依スヘシ
- 一 此免狀ノ日附ヨリ三十日間ニ必ス出立スヘシ
- 一 本文旅行日限ヲ定ルト雖中途事故アリテ期限中ニ歸着スル能ハサル外國人ハ豫メ郵便ヲ以テ其國公使ヲ經テ其事故ヲ外務省へ申立ヘシ
- 一 此免狀返納期限ハ歸着ノ日ヨリ五日以内タルヘシ尤長崎函館等ノ遠方ヨリ出立シテ元地ニ歸着スル外國人ハ其國公使ヲ經テ外務省へ三十日以内ニ遞送スヘシ

八年內務省丙第四十四號ヲ以テ「示令」ヲ「心得」ト改

一 旅行中止宿所ニ於テ必ス其宿主ニ此免狀ヲ示シ止宿ヲ請フヘシ尤途中ト雖「遷卒」又ハ區戶長ヨリ免狀ノ検査ヲ請フ時ハ必ス此免狀ヲ示スヘシ如何ナル事故ヲ以テ辭柄トナストモ之ヲ示サ、ル外國人ハ差押ノ處分ヲ受クヘシ

一 此免狀ハ一人一己ノ用ヲナシ他人ヘ貸與フルヲ許サス

一 此免狀ヲ受テ内地ヲ旅行スル外國人ト雖各地方ニテ日本人民ト賣買取引及諸約定ヲ爲スヲ許サス

一 此免狀ニヨツテ旅行スル外國人内地ニテ日本人民ノ屋宅ヲ賃借シ又ハ寄留スルヲ許サス

一 遊獵ノ免許鑑札ヲ所持スル外國人ト雖内地ニ入りテハ發砲遊獵スルヲ許サ

一 旅行中事故アリテ半途ヨリ歸着シ猶行盡サ、ル残りノ場所ヘ旅行セント欲スル外國人ハ假令許可セル場所ト雖一旦此免狀返納致シ更ニ旅行ノ許可ヲ受クヘシ

一 本文並此心得中掲載セル條例ヲ犯シタル外國人ハ外務省ヨリ一々其保證シタル公使ヘ告訴スヘシ

計十一款

◎坤第二百二十七號 (明治八年八月十五日)

各「區々戶長」「同遷卒」

外國人内地旅行願出候節内務省ヨリ下渡相成候免狀裏書等ノ儀ニ付本年七月坤第

百十四號ヲ以相達置候處今般同省丙第四十四號ヲ以別紙ノ通御達相成候間爲心得此段相達候事

(別紙)

丙第四十四號

愛媛縣

本月二日相達候外國人内地旅行願出候節相渡候免狀裏書示令ノ文字ヲ心得ト相改候且省使雇入外國人右同斷ノ節相渡候免狀別紙ノ通改正候條此旨爲心得相達候事

明治八年七月十八日

内務卿大久保利通

免狀

曲尺(堅六寸四分横八寸七分)鳥ノ子紙

表面

第 號

外國人旅行免狀

國籍

姓名

官仕

寄留地名

旅行趣意

旅行先及路筋

旅行期限

右ハノ保證ヲ以前書掲載ノ場所へ旅行ノ義差許候條道筋無故障相通可申事

明治 年 月 日

裏面 外務省 印一朱ニテ

内地旅行外國人へ示令

- 一 内地ヲ旅行スル外國人ハ總テ各地方ノ規則ニ遵依スヘシ
- 一 此免狀ノ日附ヨリ三十日間ニ必ス出立スヘシ
- 一 本文旅行日限ヲ定ムルト雖途中事故アリテ期限中ニ歸着スル能ハサル外國人ハ豫メ郵便ヲ以テ其事故ヲ官仕スル其廳へ申立ヘシ
- 一 此免狀返納期限ハ歸着ノ日ヨリ五日以内タルヘシ尤長崎函館等ノ遠方ヨリ出立シテ元地ニ歸着スル外國人ハ其官仕スル廳ヲ經テ外務省へ三十日以内ニ遞送スヘシ
- 一 旅行中止宿所ニ於テ必ス其宿主ニ此免狀ヲ示シ止宿ヲ請フヘシ尤途中ト雖モ「遷卒」又ハ區戸長ヨリ免狀ノ檢査ヲ請フ時ハ必ス此免狀ヲ示スヘシ如何ナル事故ヲ以辭柄トナストモ之ヲ示サ、ル外國人ハ差押ノ處分ヲ受クヘシ
- 一 此免狀ハ一人一己ノ用ヲナシ他人へ貸與フルヲ許サス

一 此免狀ヲ受テ内地ヲ旅行スル外國人ト雖各地方ニテ日本人民ト賣買取引及諸約定ヲ爲スヲ許サス

一 此免狀ニヨツテ旅行スル外國人内地ニテ日本人民ノ屋宅ヲ賃借シ又ハ寄留スルヲ許サス

一 遊獵ノ免許鑑札ヲ所持スル外國人ト雖内地ニ入りテハ發砲遊獵スルヲ許サス

一 旅行中事故アリテ半途ヨリ歸着シ猶行盡サ、ル殘リ場所へ旅行セント欲スル外國人ハ假令許可セル場所ト雖モ一旦此免狀返納致シ更ニ旅行ノ許可ヲ受ヘシ

一 本文並此示令中掲載セル條例ヲ犯シタル外國人ハ外務省ヨリ一々其官仕セル廳へ照會シ同廳ニテ相當ノ處分アルヘシ

計十一款

○訓第三七號 (明治二十一年二月十七日)

郡役所

客年九月中本邦駐在米國公使ノ紹介ニ依リ健康保養ノ爲メ内地旅行免狀ヲ下附シタル米人ホレーズ、ウエプスター及ジョン、スウキニ一ナル者兩名過般來關西各府縣ニ於テ本邦人ト合併角力興行ノ趣相聞へ候處右等外國人内地旅行中日本人民ト何等ノ種類ヲ問ハス賣買取引及諸約定ヲナスヲ得サルハ旅行免狀裏書ニ明示スル所ニシテ前文角力興行ノ如キハ無論裏書ノ旨趣ニ違背シタルモノニ付旅行免狀所持ノ外國人ト雖モ右類似ノ所行ハ勿論總テ日本人ニ属ハル、等ノ契約ヲ結フ義不

二十一年內第三五號參看

相成旨今般其筋ヨリ訓示ノ次第有之候條其旨心得ヘシ
右訓令ス
○內第三二號 (明治二十一年十一月二十六日)
外國人取締ノ義ニ付左記之通内訓相成候條取締向キ充分注意スヘシ
右内訓ス

各警察署各分署宛

凡ソ本邦ニ於ケル外國人ニシテ居留地外ニ於テ營業ヲナス儀ハ商店ヲ開キテ賣買
ヲ事トスルト行商ヲナストテ問ハス又其名義ノ何タルヲ論セス都テ條約ノ許サ、
ル所ニ有之候處外國人中右様ノ所業致候モノ有之殊ニ清國人ハ居留地外ニ於テ書
畫揮毫ヲ營業トシテ潤筆料ヲ收メ或ハ多少ノ商品ヲ携帶シテ旅人宿又ハ私人ノ家
ニ至リ之ヲ賣リ或ハ飲食物等ノ行商ヲナシ又或ハ甚シキニ至リテハ製禁ノ富興行
ヲナスモノ往々ニシテ有之哉ニ相聞候右ハ條約違犯者ニ有之候ニ付其縣下ニ於テ
右取締方ニ一層ノ注意ヲ加ヘ若シ右様ノ者有之候節ハ巡行ノ警察官見當リ次第早
速其營業ヲ差止メ其縣ヨリ本人ヲ最寄開港場ニ於ケル其國領事館ニ引渡シ求刑ノ
手續ニ可被及候此旨及内訓候也

明治二十一年十一月十二日

外務大臣伯爵大隈重信

愛媛縣知事白根專一殿

○內第三五號 (明治二十二年十二月八日)

本年十一月二十六日內第三二號ニテ内訓中今般左記ノ通追訓相成候條本令ニ依リ
取締致スヘシ
右内訓ス

送第四號

本年十一月十二日附送第三號内訓中稍不明ノ廉有之候ニ付更ニ左ノ通及追訓候
一 送第三號内訓ノ趣意ハ主トシテ内地ノ事ヲ指シタルモノニ有之開港開市場區
ノ域内ニ於テハ賣買取引等(行商モ姑ク本文ニ準ス)從前ノ慣行ニ從ヒ差許スヘ
シ

但シ右區域内タリトモ居留地以外ニ於テ店舗ヲ設ケ營業スル義ハ假令一時限
リ本邦人ノ店舗等ヲ借受クルモノト雖モ禁止スヘシ
右及追訓候也

明治二十一年十二月一日

外務大臣伯爵大隈重信

愛媛縣知事白根專一殿

◎訓令第三十二號 (明治二十二年四月二十日)

郡役所「戸長役場」

私雇外國人ノ内外務省ノ許可ヲ得テ居留地外ニ住居ノ者居留地外ニ於テ轉居ノ節
モ當初居留地外住居ノ節同様雇主ヨリ同省へ出願スヘキ例規ニ有之候處自今轉居
ノ儀ハ届出ル迄ニテ出願ニ及ハス

第二十二編 雜載

第一章 曆日及觀象

◎第百十五號 (明治六年十一月二日)

去歲十一月曆法改正被 仰出候處何レモ不存寄儀ニ付諸般俄然改替候様難相整自然新正賀客ノ來往ヲ始年季諸請引ニ至ル迄竊ニ舊曆ニ寄候様ノ儀有之候處當十二月ヨリハ必二季諸請引等ハ十二月六日ト相定家々新正ノ賀式ハ來一月一日ヲ以テ元日ト相心得三日ノ間ハ萬民休業シ賑々敷新年ヲ拜賀可致且又元石鐵縣ニ於テ年頭松竹注連飾ヲ廢止候様及布達置候趣ノ處詮議ノ筋有之自今取消候事

◎乾第百四十七號 (明治七年十二月廿三日)

明治六年一月一日以後取締候諸約定期限總テ大陽曆月日ヲ以可相定旨兼テ司法省布達ノ趣有之候處動モスレハ陰曆月日ヲ以テ諸約定期限總テ大陽曆月日ニ引直シ可申此段布達候事

◎乾第八十六號 (明治八年六月十七日)

去ル明治五年 天皇陛下ノ詔ヲ以テ從前ノ太陰曆(舊曆)ヲ廢セラレ太陽曆(新曆)ヲ御頒布アリシ御趣意ノ大略ハ從前ノ太陰曆八月(太陰)ノ盈虧ニノミ拘ハリテ一年ヲ定メシモノナレハ四時ノ季候ニ於テモ或ハ早ク或ハ晚クシテ譬ヘハ二月ノ内ニ三月ノ節アリ某ノ月ノ中ハ却テ其上旬或ハ下旬ニ在ルノ類ナレハ農家耕作ノ爲

ノニ播種插秧ナト適度ノ日ヲ定ムルモ毎年ノ日取り同シキ事能ハス且人々第一大切ナル慶日トスヘキ誕生ノ日サヘ毎年眞ノ其日ニ當ル事稀ナリ殊ニ曆書ノ中段下段ニ掲ケタル日取りノ吉凶ナトハ固ヨリ無稽妄誕ニシテ徒ラ二人ノ疑ト惑トヲ起サシムルニ過サルノミ太陽曆ノ如キ則然ラス日輪(太陽)ノ歩ミニ推シ本ツキテ一年ヲ定メ毎年ノ季候ハ唯分秒ノ差ノミナレハ譬ヘハ第一一月一日ハ前年冬至ノ後十一日メニ當リ十一月三日ハカシコクモ 天皇陛下御聖誕ノ日ニシテ即チ天長節ナルモノハ立冬前六日目ニ當ルカ如キ萬々歳ヲ經ルトモ眞ノ其日ニ變リナク農家耕作ノ爲メニ適度ト定メタル日合モ一ト度之ヲ記憶スレハ何ノ年トテモ同シカラサルハナシ殊ニ地球上支那國ヲ除クノ外ハ大抵太陽曆ヲ用ヒサルナキカ故ニ萬國御交際ノ上ニ於テモ我ト彼トノ月日ヲ並ヘ書スルモ不便モナク其他諸般ノ學術上ニ於テモ様々便利ノアル事ナレハ御改曆トハナリシナリカク御改曆 仰セ出サレシ上ハ苟クモ我日本帝國ノ人民タルモノハ一般之ヲ遵守ヘキハ申迄モナキ事ナルニ今日ニ至リテモ猶太陰曆ヲ用ユル者モ有之趣畢竟特リ 天皇陛下ノ御趣意ヲ遵奉ラサルノミナス人民相互ノ諸約定ニ至リテモ是カ爲メニ様々ノ行違ヲ起シ訴訟裁判ノ手續抄ナカラサル等萬々不都合ノ事ニ候條人民一同深ク 御主意ヲ辨今ヨリノ後ハ公用私用ノ文書ハ申ス迄モナク日用言辭ノ上ニ於テモ一般ニ太陽曆ヲ相用候様致スヘク此旨端々小前ノ者ヘハ其町村長立候者ヨリ精々申諭シ決シテ心得違ノ者無之様可爲致此段布達候事

○第三七四九號 (明治十八年四月十日)

各 郡

地震報告之義ニ付今般地理局長ヨリ別紙寫之通依頼有之候處抑モ地震ノ撼動タル右依頼面ニモ詳悉セル如ク實ニ忽諸ニ付ス可ラス就テハ之カ報告ヲ詳ニスルハ其理ヲ究メ豫防法ヲ求ムルニ於テ必用ノ義ニ有之候條向後發震アルノ時ハ其顯象遺漏ナク左書略式ニ倣ヒ十日限り當廳へ報告書可差出此旨相達候事

但報告書式ノ義ハ尙官報第四百八十四號參看スヘシ
報告書式

郡名

地名

發時

震動時間

方向

強弱

性質

(別紙)

發五〇號

本邦ノ地タル火山温泉極テ多ク從テ地震ノ如キ之ヲ他邦ニ比スレハ其數夥多ナルノミナラス殊ニ大ニシテ烈ナル者亦不尠近クハ安政二年江戸大震ノ如キ轉瞬ノ間

ニシテ數千萬家ヲ傾頽シ五十餘所ニ發火シ老若男女拾萬餘人ヲ壓死焚殺セシハ世人ノ記スル所ナリ爾來幸ニノ強震ナシト雖モ地變ノ發慧ハ豫測スヘカス何時再發候哉モ計リ難シ故ニ當局ニ於テ夙ニ其驗測ニ從事シ豫防ノ方法ヲ講究ス然ルニ元來地震ハ東洋及西洋ノ南部ニ多クシテ英佛獨露等ノ他ニ少キヲ以テ歐米諸國ノ碩學モ未タ其眞理ヲ闡發セシ者ナシ故ニ本邦ニ於テ地震アル毎ニ精密觀測シテ其眞理ヲ求メサル可ラス然レモ地震ノ發スルヤ一所ニ於テセス必ス數十里若クハ數百里ニ延及ス故ニ二十二測候所ノ觀測ノミニテハ其要點ヲ見出スヘカラス必ス全國各地ノ報告ヲ得テ仔細ニ對照審查シ其發所及ヒ強弱等其種々ノ顯象ニ依テ其理ヲ極ムルヲ要ス故ニ昨十七年十二月中當局測量課ヨリ各郡區役所へ及依頼候處最初一二回ノ地震ハ報告相達候得共其後追々相減シ申候本來地震ノ災タルヤ民官公私ノ別ナク災害ヲ蒙ル者ニ候得者官民力ヲ戮セ報告ヲ爲シ以テ豫防方法ヲ求メサル可ラス况ヤ各郡區役所ハ官署ノ義ニモ有之別シテ注意有之候様致度候間此旨各郡區長へ御示諭相成地震アル時ハ遺漏ナク速ニ報告相成候様御取計有之度此段御照會旁及御依頼候也

明治十八年三月三十日

縣 令 宛

地理局長

追テ明治十七年十二月十六日地震報告ハ各郡區役所悉皆相揃不申候得共先ツ報告ヲ製シ官報第四百八十四號へ掲載致候御參看有之度候也

二十二年縣令六十
四號參看

◎告示第一號 (明治二十二年一月十二日)

明治十九年(七月)勅令第五十一號ヲ以本年一月一日ヨリ全國一般ノ標準時ヲ用ヒ
ラレ候ニ付テハ右標準時タル所ノ東經百三十五度即本邦中央(丹波ノ西部播磨ノ
東部ニ當ル)ノ地下縣下經度ノ確定セル地ニ付左ニ其標準時ト地方時(即從前ノ
正午)トノ差違ヲ示ス
右告示ス

地名	經度	東經百三十五度ノ標準時ト地方時トノ 差ナリ故ニ此差ヲ進メテ以標準時ト一 致ヲ爲スニ至ル
溫泉郡松山 一番町	西經 七度〇二分	九分
西宇和郡 正野浦	同 七度四十五分	十二分
北宇和郡宇和島 本町二丁目	東經 百三十二度 三十六分	八分一秒

◎告示第九十九號 (明治二十二年十二月十九日)

本縣松山測候所ヲ溫泉郡道後村大字持田ニ設置シ來ル明治二十三年一月一日ヨリ
觀測ヲ實施ス

○無號 (明治廿三年二月七日)

松山測候所規程別紙ノ通之ヲ定ム

松山測候所

(別紙)

松山測候所規程

- 第一條 測候所ハ氣象觀測ノ事務ヲ掌ル
- 第二條 測候所ニ所長一名所員若干ヲ置ク
- 第三條 測候所ノ事務ヲ分テ左ノ二項トス
 - 一 氣象觀測ノ事
 - 一 報告統計ノ事
- 第四條 所長ハ所員ノ分掌ヲ指示シ其勤惰ヲ監督スヘシ
- 第五條 左ノ事項ハ所長之ヲ處分スルコトヲ得其他ノ事件ハ「農商課」長ニ協議シ
知事又ハ「第一部」長ノ指揮決裁ヲ承ケ其事務ヲ處理スヘシ
 - 一 氣象觀測ニ關シ中央氣象臺各府縣測候所及ヒ縣下郡市役所又ハ町村役場ト
文書往復ノ事
 - 一 中央氣象臺ヘ報告ノ事
 - 一 警報傳達ノ事
 - 一 天氣豫報ノ事
 - 一 警報ニ係ル臨時人夫雇使ノ事
- 第六條 所長不在ノ時ハ首席ノモノ代理スルコトヲ得
- 第七條 直員ハ二名ト定メ輪番勤務スヘシ
- 第八條 直員ハ中央氣象臺ノ警報有無ニ關セス晴雨計沈降一時間ニ二佛厘以上ニ

達シ非常ノ兆候ト認ムルトキハ臨時觀測及電報ノ手續ヲ爲スヘシ
 第九條 直員ハ其翌日休暇スルト雖トモ事務ノ都合ニ據リ執務スヘシ
 第十條 器械備品及ヒ消耗品ハ之カ帳簿ヲ製シ其出納ヲ明瞭ニスヘシ
 ◎訓令第十號 (明治二十四年二月十九日)

郡役所 (風早和氣溫泉久米郡
 役所ヲ除ク警察署)

三津警察署

郡役所管内へ寒暖計及雨量計設置候條別紙報告心得書ニ據リ松山測候所へ報告ス
 〽

報告心得書

- 一 觀測時ハ午前十時ニ於テ毎日一回ツ、トス
 - 一 寒暖計ハ大氣ノ溫度ヲ測ルニ用ユ其度目ハ攝氏トス
 - 一 雨量計ハ降雨降雪ノ水量ヲ測ル器ニシテ其度目ハ佛厘(ミリメートル)トス
 - 一 風ノ方向ハ草木ノ枝葉或ハ煙筒ヨリ噴出スル煙ノ如キ輕體ノ流動如何ニ注目シテ觀測スヘシ而シテ其方向ハ北、北東、東、東南、南、南西、西、西北ノ八方位ニ分チテ觀測スヘシ
 - 一 風力ハ零ヨリ六迄ノ七個ニ分チテ之ヲ觀測スヘシ而シテ之ヲ別ツノ法ハ左ニ示ス處ノ區別ニ據リテ了解スヘシ
- 但風力ヲ計ルハ強キニ過キササル様注意スヘシ

記號名稱

說明

0	颯風	煙全ク直昇シ或ハ殆ント直上シ又樹葉動カサルモノ
1	軟風	人ヲシテ風アルノ感覺ヲ起サシムルモノ
2	和風	樹葉ヲ動カスモノ
3	疾風	小枝ヲ動カスモノ
4	強風	勁枝ヲ動カスモノ
5	暴風	大樹ノ幹ヲ動カスモノ
6	颯風	樹ヲ拔キ屋ヲ發グモノ

一 大氣上層ノ風ハ概子下層ノ風ト異ナルカ故ニ雲行ノ方向並ニ其速度ヲ觀測スルコト最モ緊要ナリトス又上層ノ雲ハ下層ノ雲ト其方向ヲ異ニスルコト屢々アルモノナレハ上層雲ト下層雲ヲ分チテ觀測スヘシ上下層ノ兩雲共ニ現ハル、并ハ上層ヲ雲ノ方向ト題セル欄内ニ記シ下層雲ハ記事欄内ニ記載スヘシ

一 雲ノ速度ハ緩漸速急ノ四個ニ區別シテ之レヲ觀測シ且野帳ニハ左ノ符號ヲ以テ記載スヘシ

上層雲	緩	漸	速	急
	1	2	3	4

下層雲	緩	漸	速	急
	6	7	8	9

一 雲量即チ雲ノ多少ハ滿天一點ノ雲ナキホチ零トシ滿天雲ヲ布クホチ十トシ零ヨリ十二至ル數字ヲ以テ之ヲ示スヘシ

一 雲ノ形狀ハ卷雲、積雲、層雲(ノ三種ヲ雲ノ主形トシ)卷積雲、卷層雲、積層雲、

亂雲、(ノ四種ナ其變形トス)ノ七種ニ區別シテ之ヲ觀測シ野帳及報告書ハ各左ノ記號ヲ以テ記載スヘシ

上層雲
卷雲 記號 C
卷層雲 記號 CS

下層雲
積雲 記號 K
層雲 記號 S
卷積雲 記號 OK
積層雲 記號 KS
亂雲 記號 N

若シ數種ノ雲全時ニ顯ハルハ其最モ多量ナルモノヲ第一ニ記シ順ヲ逐テ其最モ少量ナルモノヲ最後ニ記スヘシ
一 雨雪霜虹等ノ諸現象ハ總テ左ノ萬國普通ノ記號ヲ以テ記事欄内ニ記載スヘシ

- 名稱
- 雨
- 雪
- 電雷
- 雷聲
- 電光
- 雹
- 霧
- 霜
- 強風

氣象月報
地名 明治 年 月 郡

日	空氣ノ溫度	風		雨ノ量		雲		天氣	記事
		方向	力	方向	量	速度	量及形狀		
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
總計									
平均									

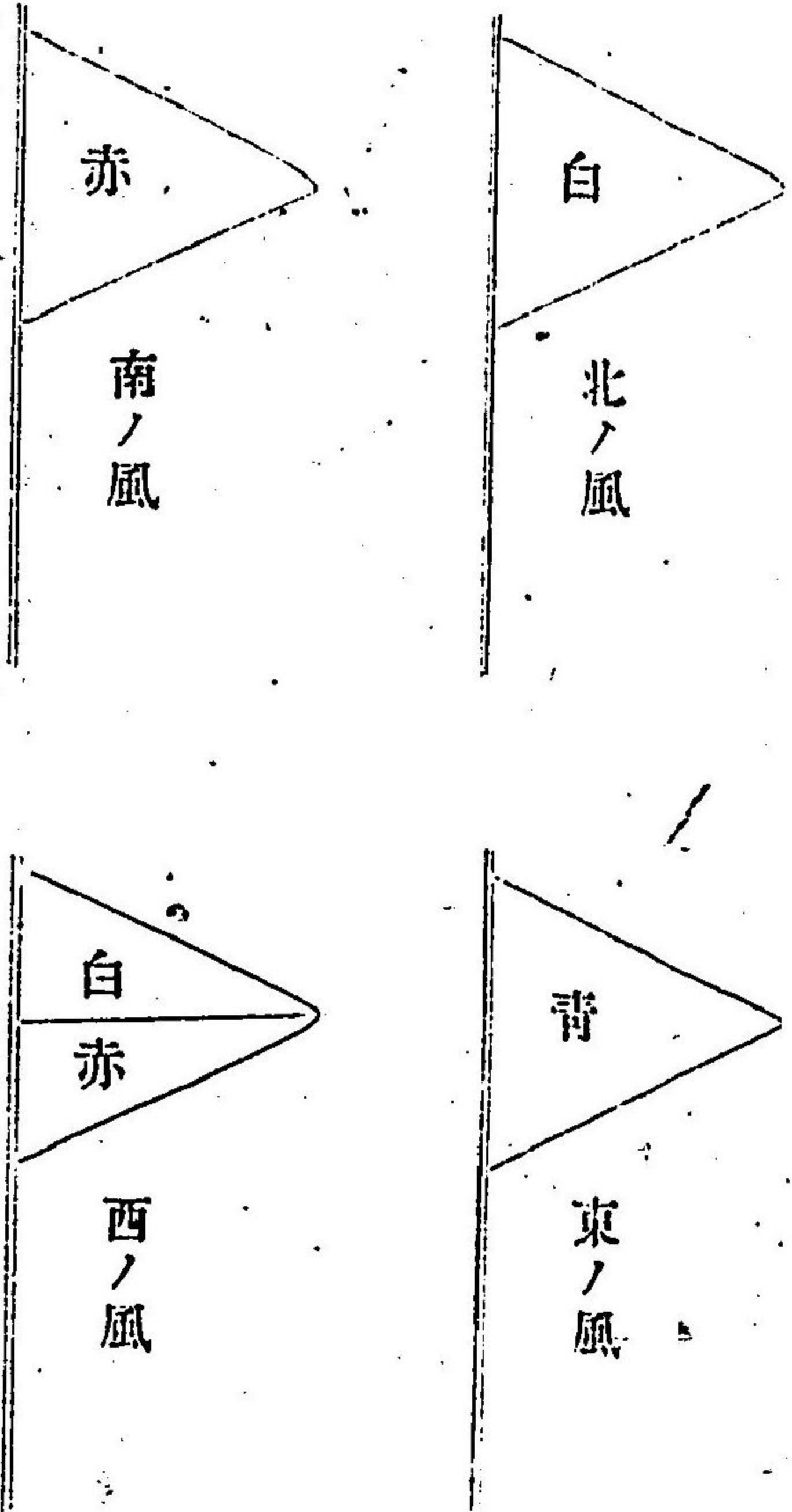
記號
一月報ハ左ノ様式ニ倣ヒ翌月三日以内ニ發送スヘシ



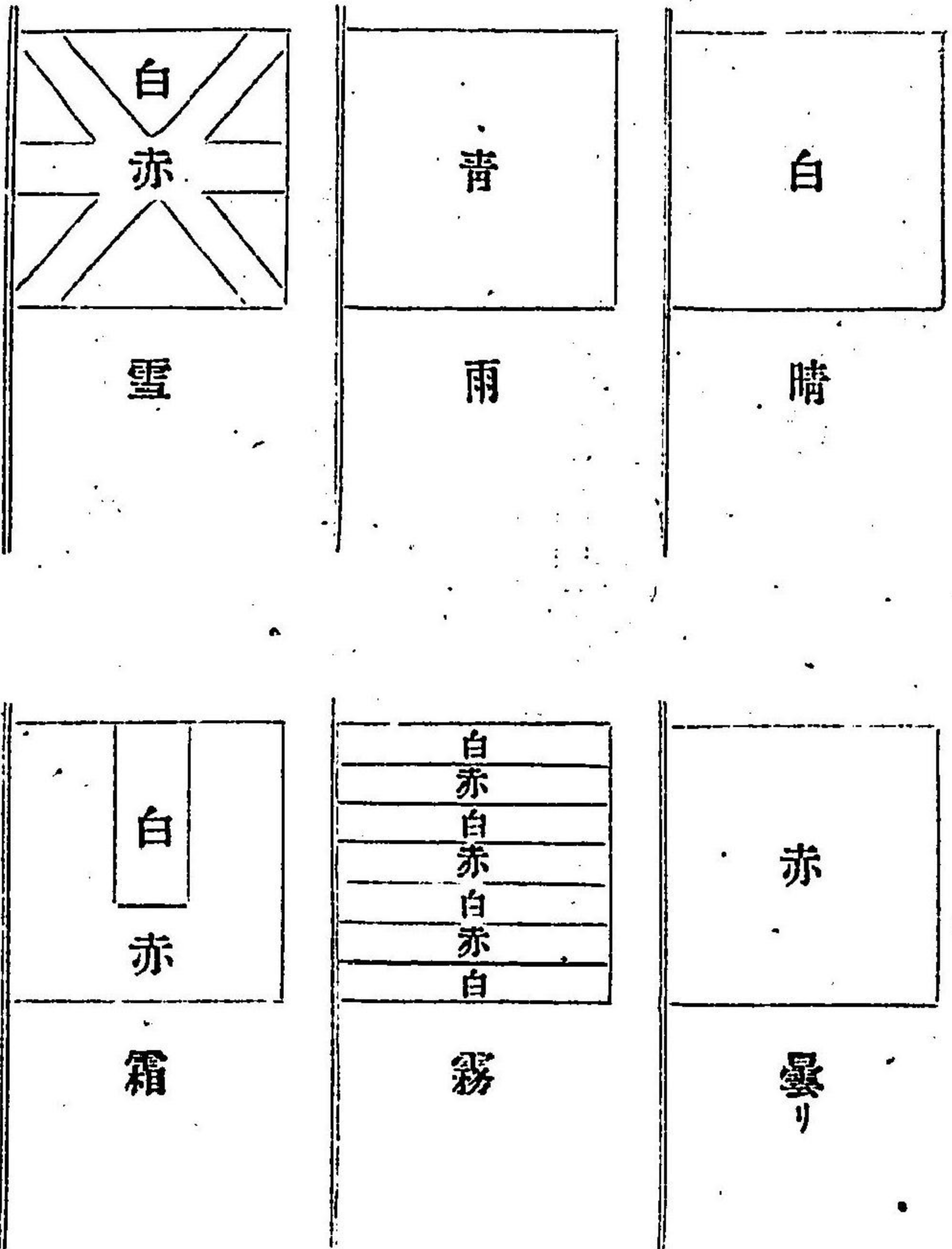
◎告示第五十四號 (明治二十六年四月二十九日)

本縣松山測候所管内ニ天氣豫報柱ヲ設立シ左ノ標式ニ據リ本年五月一日ヨリ地方天氣豫報ヲ揭示ス

- 一 地方天氣豫報ノ信號ハ三角旗方旗及長旒ノ三類トス
- 一 三角旗ハ風向ヲ豫報スルモノニシテ其分類左ノ如シ

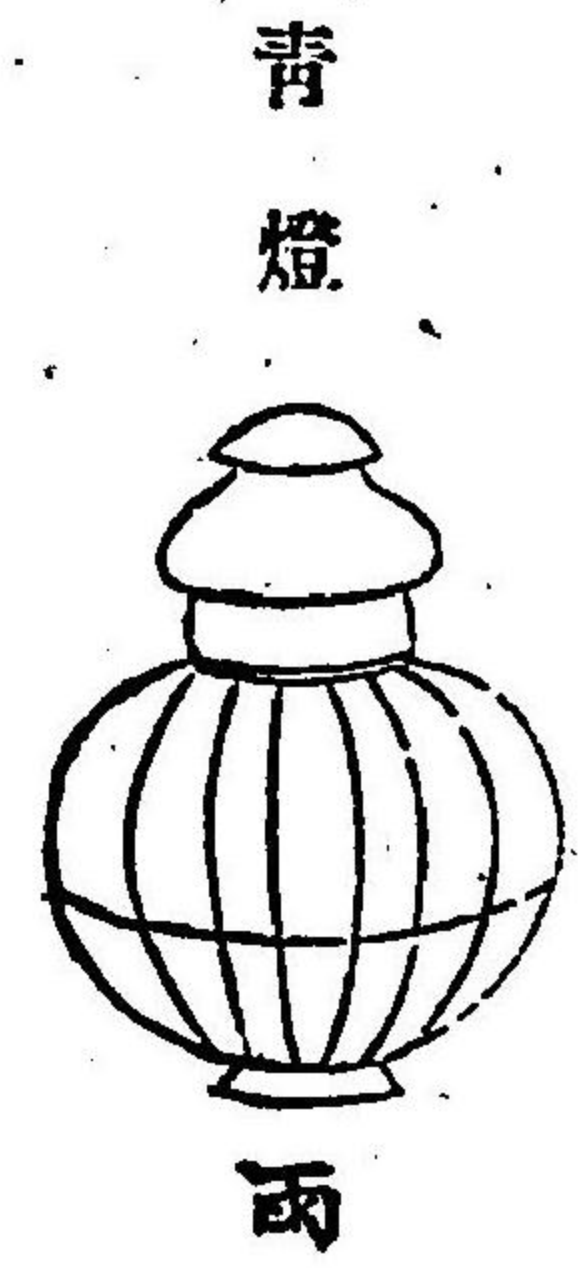
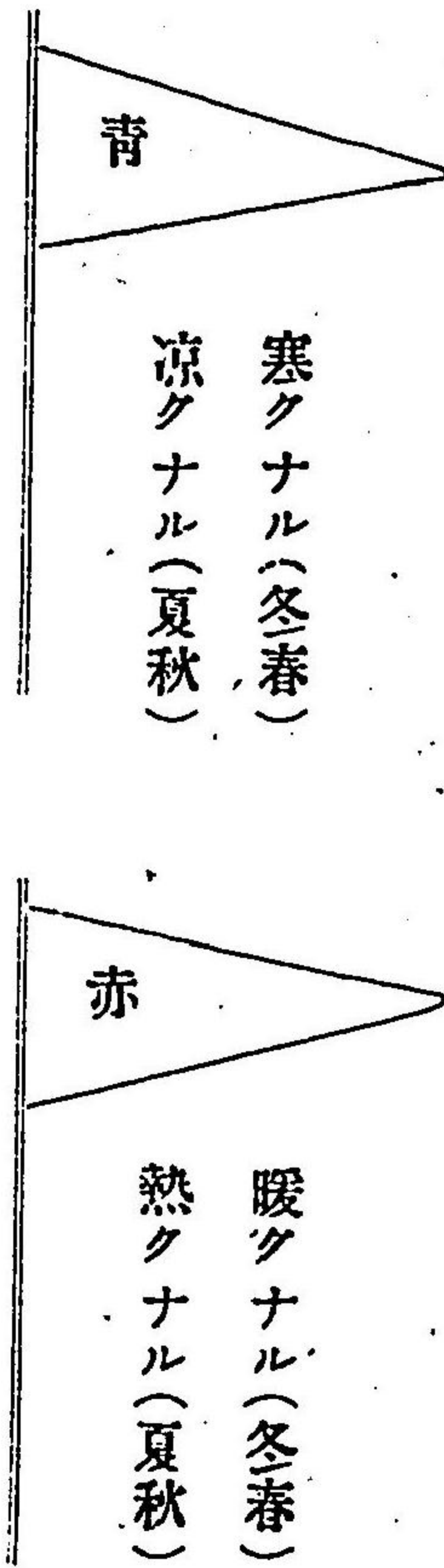


一方旗ハ天氣ヲ豫報スルモノニシテ其分類左ノ如シ



一 長旒ハ溫度ノ昇降ヲ豫報スルモノニシテ其分類左ノ如シ

一 青燈ハ降雨ヲ豫報スル爲メ夜間特ニ之ヲ掲揚ス



第二章 祝節

○無號 (明治十一年二月十二日)

自今新年及ヒ紀元天長節拜賀ヲ始メ諸御祭日遙拜トモ不及出應候條此段相達候事

各課雇

二十一年即令第二十七號二十三年即令第二百二號參看

◎丙第一百號 (明治十五年十月十九日)

各郡

縣立町村立學校長及ヒ教員新年紀元天長ノ三節トモ參賀ニ不及候條左ノ離形ニ準シ賀表ノミ差出候様可取計此段相達候事
但賀表ハ郡役所ニ於テ取扱遅クモ三日以内ニ進達スヘシ
料紙ハ美濃紙 薄葉等ヲ用ユ

折目	折目	折目
同、	同何々 同何々 同何々 何學校長苗字名	何郡何(町村) 何學校長苗字名
	年月日	謹奉賀 新年 紀元節 天長節

二十五年訓令第十
五號參看

○訓第一〇〇號 (明治廿一年六月五日)

郡役所 「戸長役場」

天長節紀元節ハ國家ノ大祝日ニシテ臣民一般ニ之ヲ慶祝スヘキハ勿論ノ義ニ付右
兩節ニハ自今公立學校ハ勿論其他ノ學校ニ於テモ各其校ニ職員生徒ヲ集メ祝賀式
ヲ舉行候様取計フヘシ
右訓令ス

◎訓令第廿七號 (明治廿一年十二月廿八日)

「戸長」及學校職員

明治十二年(十月)乙第三百四十六號及十五年(十月)丙第一百一號ヲ以テ「戸長」並縣
立町村立學校長教員新年紀元天長節參賀不及旨達置候處廳下在任ノ向ハ自今當日
(新年ハ一月一日)午前第九時禮服用本廳ヘ參賀スル義ト心得ヘシ

◎訓令第九十二號 (明治廿三年十月廿九日)

郡役所 市役所

町村役場 公立學校

天長節紀元節新年等ノ祝賀式ハ自今左ノ準備及方法ニ依リ執行スヘシ
但執行ノ狀況ハ其都度高等小學校及市立小學校ハ郡長又ハ市長ヲ經テ及縣立學
校ハ知事ニ其他ノ學校ハ郡長又ハ市長ニ報告スヘシ
一 式場ハ講堂又ハ庭園等便宜ナル場所ニシテ可成全校生徒ヲ整列セシメ得ル面

二十四年訓令第九
號ヲ以テ「公立
小學校」及但當中
「其他ノ小學校」ノ
各「小」字ヲ削リ
但當中「經テ」ノ下
及以下六字追加
二十五年訓令第十
五號ニ依リ但當中
小學校ニ關スル條
消滅

積アルヲ要ス

- 一 式場ハ正面ニ玉座ヲ設ケ 御眞影ヲ奉安シ又ハ便宜虛位ヲ設ケ清淨ニシテ尊
嚴ナルヲ要ス
- 一 式場ニ生徒ヲ整列セシムルニハ最下學年生ヲ前列トシ學年ヲ逐テ後方ニ排列
セシムヘシ
- 一 學校長又ハ首席教員ヲ前列右方ノ三步前ニ位置シ其他ノ職員ハ生徒列ノ兩側
ニ位置スヘシ
- 一 學校長又ハ首席教員ハ職員及生徒ノ整列シタルトキ先職員ヲシテ順次敬拜セ
シメ而シテ生徒一同ニ敬拜セシムヘシ
- 一 但便宜ニ依リ分列式ヲ行ヒ又ハ生徒ヲ數組ニ分テ敬拜セシムルモ妨ケナシ
- 一 敬拜ノ前後ハ可成奏樂歌謠セシムヘシ
- 一 敬拜ノ前後便宜ナル時間ニ於テ學校長教員ハ左頂ノ說話ヲナシ且生徒ヲシテ
唱歌セシムヘシ
- 一 但唱歌ヲ科セサル學校ニ於テハ說話ノミニ止マルモ妨ケナシ
- 一 天長節ニ於テハ 今上陛下ノ御功德ニ關スル事項ヲ說話シ且適當ナル唱歌ヲ奏
セシム
- 一 紀元節ニ於テハ 神武天皇ノ御偉蹟ニ關スル事項ヲ說話シ且適當ナル唱歌ヲ奏
セシム

二十五年訓令第十
五號ニ依リ第八項
消滅

新年ニ於テハ 而陛下ノ聖壽萬歳ヲ祝シ併セテ皇室ノ尊榮ヲ頌揚シ及歴代天皇ノ御功德ニ關スル說話ヲナシ且適當ナル頌歌ヲ奏セシム

◎訓令第百二號 (明治二十三年十二月十九日)

學校職員

廳下在任ノ學校職員各學校ニ於テ新年紀元節天長節祝賀式執行ニ付差支アルモノハ自今本廳へ參賀ニ及ハサル儀ト心得ヘシ

警察部 愛媛縣監獄署

今般巡查看守判任官待遇ト被定候ニ付テハ三大節拜賀トシテ參廳セシムヘシ

但巡查ハ各警察署分署看守ハ各監獄支署在勤ノ向ハ賀表差出サシムヘシ

◎訓令第十五號 (明治二十五年三月十八日)

郡役所 市役所

町村役場

市町村立私立小學校

明治二十四年(六月)文部省令第四號祝日大祭日儀式規程ニ據リ小學校祝日大祭日儀式施行ニ關スル準備及順序左ノ通之ヲ定メ本年四月一日ヨリ施行ス
小學校祝日大祭日儀式施行ニ關スル準備及順序

第一條 式場ノ準備ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

一 式場ハ學校内ニ於テ成ルヘク全校ノ兒童ヲ整列セシメ得ヘキ場所ヲ撰ヒ且整正清潔ナルヲ要ス

一 式場ハ正面ニ

御影ヲ奉安シ傍ヲニ教育ニ關スル勅語ノ謄本ヲ置クヘシ

一 式場ニ兒童ヲ整列セシムルニハ幼年ノ者ヲ前列トナシ順次後方ニ排列セシムヘシ

一 學校長又ハ首席教員ハ前列右方ノ凡ソ三步前ニ位置ヲ定メ其他ノ教員ハ兒童列ノ兩側ニ位置ヲ定ムヘシ

但市町村長其他學事ニ關係アル市町村吏員ノ參列シタルトキハ前列左方ノ凡ソ三步前ニ位置ヲ定ムヘシ

第二條 儀式ヲ行フニハ左ノ順序ニ據ルヘシ

但唱歌ヲ課セサル學校ニ於テハ當分第五ヲ省クコトヲ得

一 學校長又ハ首席教員(市町村長ノ參列シタルトキハ同時ニ)先ツ最敬禮ヲ行ヒ次テ教員參列員兒童一同最敬禮ヲ行フ

但シ最敬禮ノ式ハ帽ヲ脱シ体ノ上部ヲ前ニ傾ケ頭ヲ垂レ手ヲ膝ニ當テ、敬意ヲ表ス

二 學校長教員參列員及兒童一同